

東 郷 登 り 立

－福岡県宗像市東郷所在遺跡の発掘調査報告－

宗像市文化財調査報告書第51集

2 0 0 1

宗像市教育委員会

TO GO NOBO RI TATE 東 郷 登 り 立

－福岡県宗像市東郷所在遺跡の発掘調査報告－

宗像市文化財調査報告書第51集



2 0 0 1

宗像市教育委員会



調査区全景の空中写真（北から） 写真奥の森は東郷高塚古墳



調査区全景の空中写真（南から） 写真奥の山は遠賀郡境の四塚



調査区全景の空中写真（南から） 弧状溝はSD1、弦状溝はSD2



調査区西側のSD1・2の合流地点（北から）



SD1の陸橋部（東から）



SD2の陸橋部（北から）



SD2の4区西半中層の遺物出土状況（北から）



SD2の13区遺物出土状況（東から）

序 文

宗像市は福岡県北部の福岡市、北九州市のほぼ中間に位置し、周囲を山塊に囲まれた内陸盆地状の地理的景観を有しています。

昭和36年の国鉄鹿児島本線の電化や昭和38年着工の自由ヶ丘団地造成、41年着工の日の里団地造成などの土地開発により人口は急増し、昭和56年には市制を施行するなど急速な都市化が進められてきました。

今日では、「快適生活都市・学術文化都市・高福祉都市」をめざして、さらなる発展を続けています。

しかしながら、各種の開発はわたしたちの暮らしに利便性をもたらす反面、自然・歴史・生活環境の急激な変化は精神生活に不便をもたらす結果となりつつあり、開発と環境保護の調和を地球規模で見直す方向転換が迫られています。

近年では埋蔵文化財をくらしの環境の一部であるとの認識が少しずつ浸透しはじめ、本市においても開発に先だって、重要なものについては保存整備を図り、歴史遺産を後世に伝えようとする努力を地道に進めています。

本報告書は、平成11年度に実施した弥生時代の集落遺跡である東郷登り立遺跡の発掘調査成果をおさめたものです。

本書が、広く文化財保護行政及び学術研究に貢献することを願いたしますとともに、発掘調査全般にわたってご協力いただいた数多くの方々に、心からの感謝の意を表する次第です。

平成13年 3 月23日

宗 像 市 教 育 委 員 会

教 育 長 川 崎 雅 光

例 言

1. 本書は、県立宗像高等学校の改築に伴い、平成11年度に緊急発掘調査を実施した東郷登り立遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は、宗像市教育委員会が事業主体となって実施した。
3. 東郷登り立遺跡は、福岡県文化財番号330470である。
4. 遺構の名称は次のように記号化した。
SD：溝 SK：土坑 SE：井戸 SC：竪穴住居跡 SP：柱穴・小土坑
5. 測量は、国土調査法第Ⅱ座標系を用いた。遺構図の方位は磁北である。
6. 本書に掲載した平板測量図及び遺構実測図の作成は、水ノ江和同（福岡県教育委員会）・原俊一・安部裕久・岡崇・白木英敏・秋成雅博・江崎靖隆・細川愛・石川さやか・吉田恵美・岡本格・白石麻子・野田雅が行った。
7. 本書に掲載した遺物実測図の作成は、土器は熊代昌之・秋成・江崎・細川・石川・小樋千鶴子・縄田雅重・吉田・浅倉弥生が行い、石器は秋成・熊代が行った。
8. 本書に掲載した遺構、遺物の製図は、中原美知子・多比良佳奈子・吉田が、遺物の整理は、西村広子・田代貞子・田崎紘子・東和子・濱田広美・田島圭伊子が行った。
9. 本書に掲載した遺跡及び調査区の空中写真撮影は（有）空中写真企画、遺構の写真撮影は原・秋成、遺物の写真撮影は白木英敏が行った。
10. 現地調査にあたっては、福岡県事業である性格上、福岡県教育委員会の協力を得た。
11. 本書の執筆・編集は原・熊代が行った。
12. 本調査において出土した遺物および実測図、写真等の資料は、宗像市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 序 説	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の組織	2
3. 位置と環境	2
4. 調査の概要	4
第2章 調査の記録	6
第3章 ま と め	45

挿 図 目 次

第1図 弥生時代の周辺主要遺跡分布図 (1/25000)	3
第2図 SD1・2溝底傾斜図 (1/800)	7
第3図 SD1・2陸橋部及び仕切実測図 (1/80)	8
第4図 SD1の1区・5区遺物出土状況図 (1/40)	9
第5図 SD2の1～4区遺物出土状況図 (1/40)	10
第6図 SD2の4区～7区遺物出土状況図 (1/40)	11
第7図 SD2の8区・12区遺物出土状況図 (1/40)	12
第8図 SX3実測図 (1/400)	12
第9図 SK21実測図 (1/40)	13
第10図 SK21出土遺物実測図 (1/4)	13
第11図 SC25実測図 (1/80)	14
第12図 SC25出土遺物実測図 (1/3・1/4)	14
第13図 SK26実測図 (1/40)	15
第14図 SK30実測図 (1/40)	15
第15図 SP56実測図 (1/40)	15
第16図 SP56出土遺物実測図 (1/4)	15
第17図 SK61実測図 (1/40)	16
第18図 SK74・95・96実測図 (1/80)	16
第19図 SK77実測図 (1/40)	17
第20図 SD78・79・SK84実測図 (1/80)	18
第21図 SK93実測図 (1/40)	19
第22図 SK102実測図 (1/40)	20
第23図 SK102出土遺物実測図 (1/4)	20
第24図 SK105実測図 (1/40)	21
第25図 SK105出土遺物実測図 (1/4)	21
第26図 SK22・24・62・63・SE67・80・SK82・83・87・89・SE98・SK101実測図 (1/60)	22

第27図	SK28・SE99・SK100実測図 (1/60)	23
第28図	SD1出土遺物実測図 1 (1/4)	24
第29図	SD1出土遺物実測図 2 (1/4)	25
第30図	SD1出土遺物実測図 3 (1/4)	27
第31図	SD1出土遺物実測図 4 (1/4)	28
第32図	SD1出土遺物実測図 5 (1/4)	29
第33図	SD1出土遺物実測図 6 (1/4)	30
第34図	SD1出土遺物実測図 7 (1/4)	31
第35図	SD1出土遺物実測図 8 (1/4)	33
第36図	SD2出土遺物実測図 1 (1/4)	35
第37図	SD2出土遺物実測図 2 (1/4)	37
第38図	SD2出土遺物実測図 3 (1/4)	38
第39図	SD2出土遺物実測図 4 (1/4)	39
第40図	SD2出土遺物実測図 5 (1/4)	40
第41図	SD1・2出土土製品実測図 (1/2)	43
第42図	SD1・2出土石器実測図 (1/1・1/2・1/3)	44

付 図

- 図1 東郷登り立遺跡遺構配置図 (1/400)
 図2 東郷登り立遺跡SD1・2土層断面図 (1/400)

表 目 次

表1	東郷登り立遺跡遺構一覧表	48
表2	東郷登り立遺跡出土遺物観察表	50
表3	東郷登り立遺跡土製品・石器観察表	74

巻 頭 図 版

カラー図版 1	1	調査区全景の空中写真（北から）	写真奥の森は東郷高塚古墳
	2	調査区全景の空中写真（南から）	写真奥の山は遠賀郡境の四塚
カラー図版 2	1	調査区全景の空中写真（南から）	弧状溝はSD1、弦状溝はSD2
	2	調査区西側のSD1・2の合流地点（北から）	
カラー図版 3	1	SD1の陸橋部（東から）	
	2	SD2の陸橋部（北から）	
カラー図版 4	1	SD2の4区西半中層の遺物出土状況（北から）	
	2	SD2の13区遺物出土状況	

図 版 目 次

図版 1

東郷登り立遺跡周辺の航空写真（昭和53年撮影）

図版 2

1	調査前の現況写真（北から）	2	トレンチ内のSD1・2調査風景（北から）
3	SD1の陸橋部から西側調査区（東から）	4	SD1の陸橋部（北から）
5	SD1のベルトB南壁土層	6	SD1東半部の第1仕切壁（南から）

図版 3

1	SD1の第1・2仕切と校舎（北から）	2	SD1の1区遺物出土状況（北から）
3	SD1・2合流地点の土層（東から）	4	SD1・2の合流地点から東を望む（西から）
5	SD1・2の合流地点（西から）	6	SD2の全景（東から）

図版 4

1	SD2のベルト2土層堆積	2	SD2のベルト6東壁の土層堆積（東から）
3	SD2のベルト5土層堆積（西から）	4	SD2のベルト10土層堆積（東から）
5	SD2の1区遺物出土状況（西から）	6	SD2の1区下層遺物出土状況（北から）

図版 5

1	SD2の2区下層紡錘車出土状況	2	SD2の3区上層遺物出土状況
3	SD2の4区西半上層紡錘車出土状況	4	SD2の4区東半中層高坏出土状況
5	SD2の4区西半下層遺物出土状況	6	SD2の5区西半中層遺物出土状況

図版 6

1	SD2の6区中層遺物出土状況	2	SD2の7区西半中層小壺出土状況（東から）
3	SD2の7区西半中層石庖丁出土状況	4	SD2の8区西半上層遺物出土状況
5	SD2の8区西半下層紡錘車出土状況	6	SD2の12区上層遺物出土状況（SK77）

図版 7

1	SD2の13区遺物出土状況（東から）	2	SD2ベルト11上層小壺出土状況（南から）
3	SD2ベルト11遺物出土状況（東から）	4	SK21完掘状況

5 SC25古墳時代住居跡全景（北から）

6 SK26遺物出土状況

図版 8

1 SK30遺物出土状況

2 SK61遺物出土状況（東から）

3 SK61完掘状況（西から）

4 SP56遺物出土状況（東から）

5 SK67完掘状況（南から）

6 SD79全景（南から）

図版 9

1 SE80完掘状況（西から）

2 SK82完掘状況（西から）

3 SK83完掘状況（西から）

4 SK84完掘状況（西から）

5 SE88土層堆積（南から）

6 SK93遺物出土状況（東から）

図版10

1 SK93完掘状況（東から）

2 SK95完掘状況（西から）

3 SK96完掘状況（北から）

4 SE99完掘状況（東から）

5 SK100完掘状況（東から）

6 SK102遺物出土状況（東から）

図版11

1 SK105遺物出土状況（北から）

2 トレンチ8・12のSD1・2延長部（南から）

3 トレンチ8・12のSD1・2延長部

4 トレンチ17のSD1・2延長部

5 トレンチ17のSD1・2延長部土層

6 トレンチ17のSD1・2延長部土層

図版12 SD1出土土器

図版13 SD1・2出土土器

図版14 SD2・SP56・SK102・105出土土器

図版15 SD1・2出土土製品

図版16 SD1・2出土石器

第1章 序 説

1. 調査に至る経過

近代における旧宗像郡の高等教育は1880（明治13）年11月27日に県立芦屋中学校宗像分校が赤間の法念寺に隣接した借家を借りて設置された。1882（明治15）年11月に現宗像高校の北側を走る県道を越えた位置に新校舎を建てて移転し、翌年、宗像郡立中学となった。しかし、1886（明治19）年4月10日の中学令公布により維持が困難となり、廃校となった。1919（大正8）年、現在地に福岡県立宗像高等学校が開校、1926（大正15）年、谷を挟む西側丘陵地に福岡県立宗像実業女学校が開校し、1931（昭和6）年、福岡県立宗像高等女学校となった。1932（昭和7）年6月、宗像高等女学校に赴任した田中幸夫氏は、宗像郡内をくまなく歩き数多くの郷土の歴史資料を収集した。1938（昭和13）年には同校西側隣接地に宗像出身者をはじめとする多くの篤志により、宗像郷土館が竣工し、考古資料630点、古文書159点、先哲遺芳212点、写真53点、図書53点、参考書62点、委託品76点の全1493点が収蔵され、公開されることになった。翌年、田中幸夫氏の異動により、管理は宗像高等女学校に移り、1949（昭和24）年ころまで開館していたが、その後は閉館状態となってしまった。戦後、正木喜三郎、前川威洋、占部玄海、中尾徹、鎌田隆徳、花田勝広、関原裕一、柴田一雄氏らによって資料整理が進められ、1975（昭和50）年に資料の一部が九州歴史資料館に移管した。また、このころ他の資料も含めて全資料の所管が福岡県へ移り、大半の資料は1984（昭和59）年に同校敷地内に開館した四塚会館の展示資料室に収まり、宗像郷土館建設に尽力した宗像の人々の意志はここに引き継がれることになった。

戦後の1948（昭和23）年、同地で福岡県立の宗像高等学校及び宗像女子高等学校が同時に創立した。翌年、両校は統合され、福岡県立宗像高等学校となり、今日に至っている。この間、1966（昭和41）年に全面改築がはじまり、1970（昭和45）年に全面竣工した。調査地の宗像市東郷856番地は現在グラウンドになっているが、1970（昭和45）年以前の本造校舎が存在していた場所にあたる。

現在、県下の県立高校の改築が進められているが、平成11年4月16日付で福岡県教育庁企画部施設課から総務部文化財保護課に、同校の校舎改築に伴う埋蔵文化財事前調査の依頼があった。これを県文化財保護課から受けた宗像市教育委員会は、現地調査の結果、同地は埋蔵文化財包蔵地であり、文化財保護法57条の提出と遺跡の確認調査が必要な旨を同4月16日付で回答した。承諾を受けた後の5月10～20日にかけて確認調査を実施し、旧校舎建設に伴う攪乱を受けた中で、弥生時代前期に属する2本の溝及び土坑、柱穴群を検出した。

遺構の残存度は悪く、深さを有する溝などが残っていたものであるが、平面的には校舎による破壊を免れるようにして溝がよく残ったといえる。遺跡の保存方法について協議を重ねたが、最終的には発掘調査を実施して記録保存の措置を図ることに決定し、調査工程及び予算の合意を得て平成11年8月16日付で調査委託契約を結び、発掘調査に着手した。調査は平成11年8月16日に入り、翌年の3月24日に完了した。調査期間中の11月21日には一般市民を対象にした現地説明会を実施し、数多くの見学者が訪れた。平成12年4月1日付で調査整理報告書の作成にかかる委託契約を結び、翌年の3月23日に完了した。

文化財保護法にかかる手続きは下記のとおりである。

埋蔵文化財発掘の届出について

平成11年4月26日付11教施第33-2号

埋蔵文化財発掘調査の報告について	平成12年 2 月25日付11宗教社第789号
埋蔵物発見届	平成12年 4 月18日付12宗教社第37号
埋蔵文化財保管証	平成12年 4 月18日付12宗教社第38号
発掘調査終了届	平成12年 5 月 8 日付12宗教社第84号

2. 調査の組織

総 括	宗像市教育委員会	教育長	原田慎太郎（平成11年度） 川崎雅光（平成12年度）
		教育部長	織戸勝也（平成11・12年度） 桑野俊一郎（平成12年度）
庶 務		社会教育課長	井上 弘（平成11・12年度） 伊豆丸正敏（平成12年度）
		文化財係長	原 俊一（平成11・12年度）
発掘調査		主査	安部裕久（平成11・12年度） 原 俊一（平成11・12年度）
		嘱託	秋成雅博（平成11年度）
報告書作成		文化財係長	原 俊一（平成12年度）
		嘱託	熊代昌之（平成12年度）

3. 位置と環境

宗像市は福岡県北部に位置し、福岡・北九州市のほぼ中間点にあたる。三方を低い山塊に囲まれ、盆地地形は市西北部で北西に開き、市域を東西に貫流する釣川はここから玄界灘にむかって北流する。市域は東西13.2km、南北9.7km、面積76.82平方kmである。

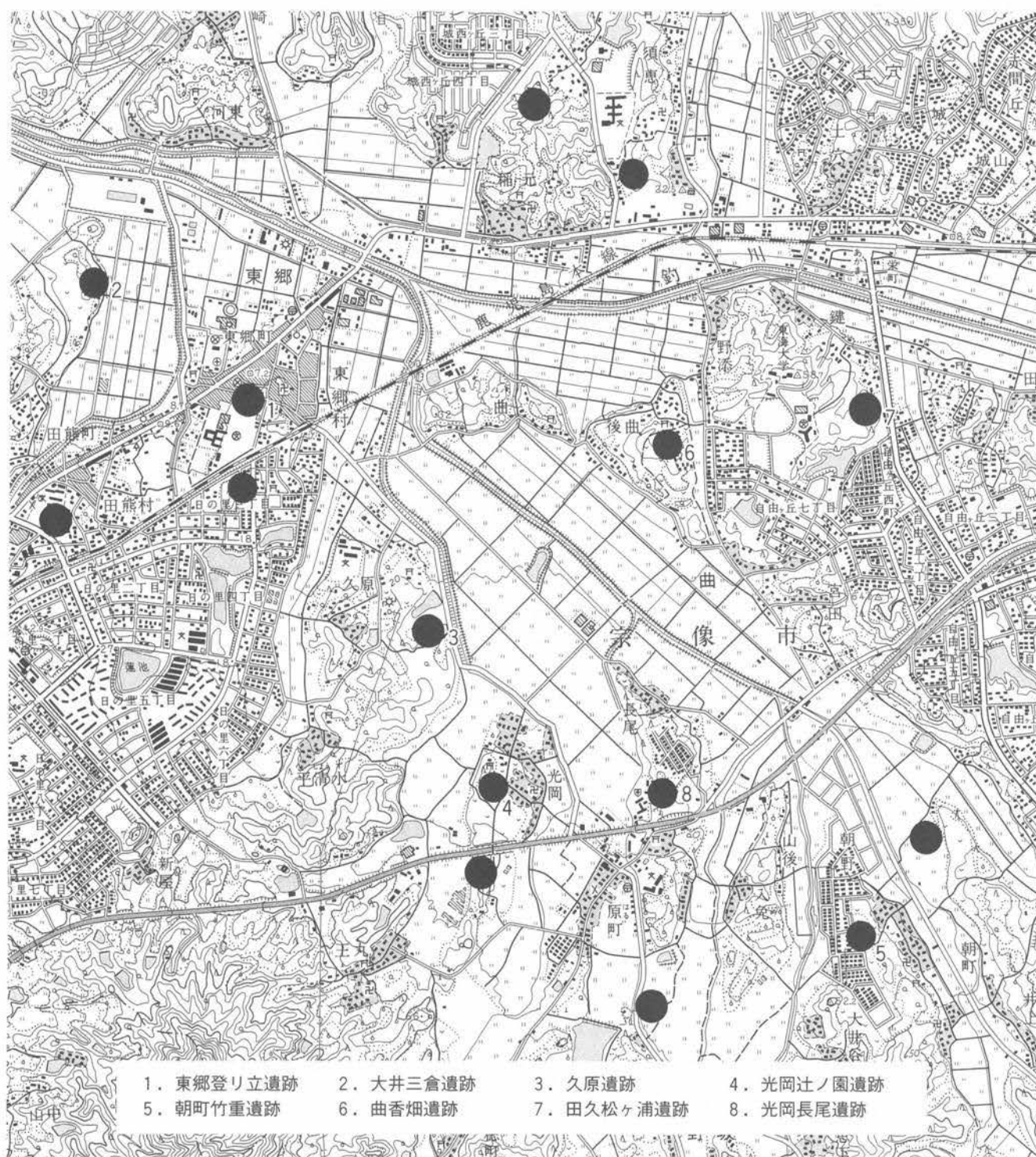
鞍手郡若宮町との境を東西に走る、低平な宗像・鞍手山地の一角を占める磯辺山から北西に派生する丘陵は、宗像盆地地形の西側を限る。丘陵先端は盆地を東西に貫流する釣川中流を眼前にする。この丘陵は花崗岩類の深層風化したもので、谷が複雑に入り込んでいる。調査地は派生丘陵の中間にある標高271mの許斐山から北にのびる、標高10m前後の低位段丘上にある。

宗像地域の初期前方後円墳である東郷高塚古墳は、調査地と同一丘陵にあって、1967年にはじまった日の里地区土地区画整理事業に伴い、東郷高塚前方後円墳及び3基の円墳が約1万4千㎡の公園として現状保存されたほか、周辺では弥生時代後期の石蓋土壙墓、住居跡が調査された。谷をはさむ西側の段丘は田熊石畑遺跡で、東郷登り立遺跡に匹敵する広さの弥生時代集落遺跡である。以下に調査地周辺の主要な弥生時代遺跡を概観する。

大井三倉遺跡は、本遺跡の北西0.8kmに位置し、宗像市の中心を東西に貫流する釣川から500mほどの左岸丘陵上にあって、標高22mの丘陵頂部を囲い込む弥生時代前期の、重なるようにして時期の異なる2本の溝、下位の段丘に中期の袋状堅穴および円形住居跡が出土した。出土遺物は刻目突帯文甕が少量のほか、如意形口縁甕の胴部に段を有し、刻目を付するものや1～2条沈線が巡るものもある。

光岡長尾遺跡は、本遺跡の東南2.3kmに位置し、宗像市中心部にあって、前後4回の調査により、標高30mを最高所とする丘陵上及び低位丘陵に住居跡4基、袋状竪穴89基、環溝及び古墳時代の円墳8基が調査された。環溝は南北2箇所に出入り口を有する完結した遺構で、内部に袋状竪穴のみが営まれ、完形の土笛出土が特色である。

田久松ヶ浦遺跡は、本遺跡の東2.6kmに位置する宗像地域最古段階の弥生時代墳墓遺跡で、宗像盆地に南からのびる標高16～37mの丘陵稜線上に石槨墓1基、木棺墓9基、土壙墓3基、甕棺墓1基が直線的に分布する。石槨墓は本遺跡の特色で、内部の木棺は残っていなかったものの、調査時におけ



第1図 弥生時代の周辺主要遺跡分布図 (1/25000)

る石材の検出状況から石槨墓とした。木棺墓のなかには石材を副葬小壺の収納空間づくりに用いるものなどの特色がみられる。出土遺物は磨製石剣、磨製石鏃、小壺などがある。また、東側緩斜面には後期後半の住居跡が営まれていた。

久原遺跡は、本遺跡の東南1.1kmに位置し、宗像市の盆地地形のほぼ中央にあつて、東西に貫流する釣川左岸の支流高瀬川左岸の標高20～30mの丘陵上に各時代の墳墓が分布する。遺跡の東側に広がる沖積地は弥生時代以来、宗像地域最大の農業生産地となっている。Ⅱ区の調査で検出した遺構に弥生時代前期の甕棺墓5基、土壙墓・木棺墓7基、袋状堅穴18基がある。木棺墓は棺台石を配置するものがあり、磨製石剣、磨製石鏃、副葬小壺が出土した。また、標高38m前後の、Ⅳ区丘陵上に弥生時代中期の土壙墓33基がある。群中最も大きい1号墓は二段堀りで、細形の銅剣、銅矛が出土した。

朝町竹重遺跡は、本遺跡の東南3.3kmに位置し、宗像市の南部にあつて、標高40m前後の丘陵上に、前期後半から後期の土壙墓、木棺墓群が調査された。木棺墓の多くが棺材を残さないものの、粘土の痕跡から割竹状の木棺材を利用したものであり、小口の構造にも特色がみられる。SK28は中期の木棺墓で、完形の銅戈、銅剣の切先、小壺が出土した。

光岡辻ノ園遺跡は、本遺跡の東南1.8kmに位置する集落遺跡で、遺構が明確でなかったが、溝からアマゾナイト製の勾玉が出土した。

曲香烟遺跡は、本遺跡の東方1.7kmに位置し、丘陵頂部に弥生時代前期の貯蔵穴群のみが分布する。

須恵クヒノ浦遺跡は、本遺跡の北東1.8kmに位置し、丘陵頂部の前方後円墳の下部から弥生時代の貯蔵穴や堅穴住居跡が検出された。

4. 調査の概要

本調査前に、南北に平行する6本の確認トレンチを開けた。事業地内の北半部は校舍解体及びグラウンド整備に伴う削平、攪乱が大きく、遺構の残存状況が極めて悪いため、本調査対象からはずした。南半部の確認トレンチでは東西に走る溝（本調査のSD2）が途切れることなく確認できたが、東端は、溝に被る黒色土層が大きく広がりを見せていた。また、SD2の南側で、東西方向からやや北西～南東に振れるような直線的な溝（本調査のSD1）が浅く確認できた。この段階ではSD1・2の溝が西側で合流するかどうかの判断はできなかった。

本調査では、SD1・2を区別しながら調査範囲を広げ、溝以外の遺構は検出順にしたがって遺構番号を通してふった。遺構一覧は別表のとおりである。

最終的に、SD1の南端は確認できた。西側はSD1・2が重なり合った後、北側に方向を変えており、ほぼ西側の端部はおさえることができた。東側は学校北東隅に建つ寄宿舎の敷地に延びここでのトレンチ調査でさらに東方向に広がりをみせていることがわかった。

溝以外の遺構については、旧校舎の解体整備時の削平、攪乱が大きく、溝の深さも最大で1.5mほどであり、事業地中央部の標高の高い部分では明確な遺構の検出にはいたらなかった。調査区内は東西の端で傾斜があり、西側では古墳時代の方形住居跡、東側では東側調査区外から谷地形が入り込み、SD1・2は連結しないで、谷地形に消滅する。この谷地形が埋まっていく段階の弥生時代後期以降、中世にかけて、井戸、ドングリ土坑などの遺構が集中して営まれている。

SD1の発掘は、平面的には数mごとに区を設定した。陸橋部から西側では深さが最大で60cm程度であり、1層として遺物を取り上げた。陸橋部から東側では深さが最大で1mとなることから2層に

分けて遺物を取り上げた。また、SD 2 の発掘は平面的には数mごとに区を設定した。層位調査は、最大の深さ1.5mを上部から約50cmずつ水平切りし、上、中、下層として設定して、遺物の取り上げをおこなった。

SD 1 出土の遺物は弥生時代前期のものが安定的にみられたが、SD 2 出土の遺物は上層に中期の遺物がみられた。

調査区南側では、SD 1 の外側に平行する後期の溝が部分的に確認されたことから、将来的な調査で、前期の溝を上回る規模の当該期の溝が検出される可能性がある。

第2章 調査の記録

東郷登り立遺跡は、宗像市の中心からやや西側によった位置に所在する。遺跡面積は約14万㎡となる。

調査区は南から北へ緩やかに傾斜し、南北の中軸線上が最も高く、ここから東と西側に向かって地形の傾斜がみられる。

調査区内は、大正9年にはじまる校舎建築の基礎、昭和41年にはじまる校舎全面解体に伴う解体資材を埋め込んだ整地掘り込み、さらには、その後のグランド整備によって、遺構が削平、攪乱を受けており、残存するのは掘り込みの深い溝と土坑、井戸などであり、住居跡はわずかに痕跡を残す程度であった。調査区内の基本層序は、南側の中央部で現状のグランド面から60cmで地山となり、この間の層はすべて整地層である。また東西の調査区端では地山までの深さが2mを超え、校舎建築以前の畑地が地山上部に確認できた。調査は試掘坑の観察をもとに、地山面の検出から着手した。

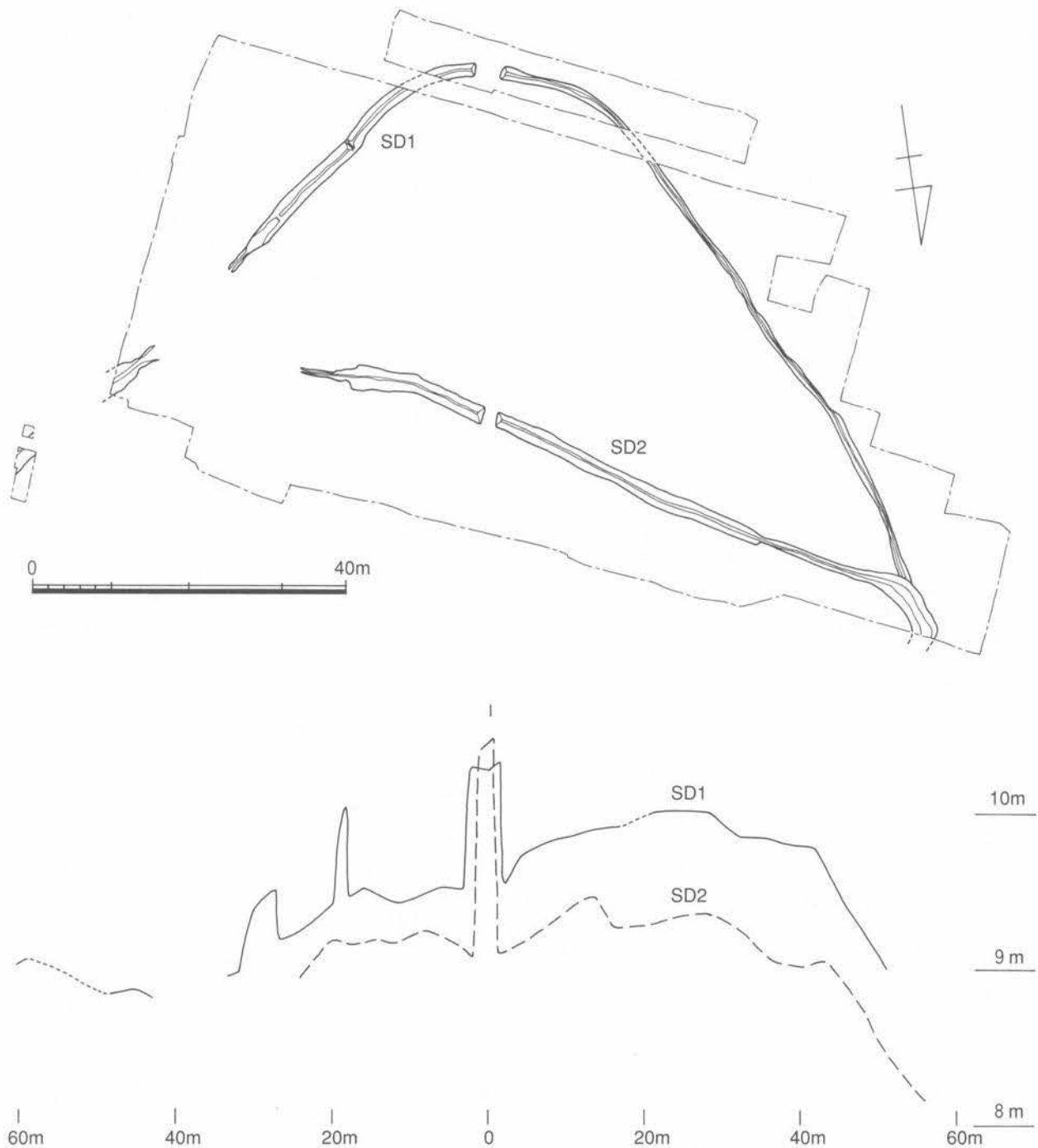
1) SD1 (第2～4図)

SD1 (溝) は、最も西側の試掘トレンチで確認していたもので、調査区南側で弧状に掘られ、南北方向に長さ40m以上、東西に100m以上の規模を有している。西側ではSD2に切られているが、ここから北西へはSD2と重なり、さらに調査区外に延びている。東側では谷の入りこみ部で消滅するが、谷を挟む北東側の調査区内で延長上にある溝を確認できており、さらに調査区外に延びることがわかったことから、東西幅はさらに大きくなるものと思われる。溝の上端は削平を受けているが、溝幅は比較的残りのよい調査区北東端で2.5m、西側では0.5mとなる。溝の深さは、最大で1mの規模を有する。溝の横断面はV字形に掘られているが、内外の傾斜角は一定していない。溝底の幅は0.2～0.3mであり、溝底から這い上がることは困難を伴う。

最も南側で溝を掘りきらない東西幅3.3～3.7mの陸橋が1ヵ所設けられているが、削平のためか、出入りにかかる柱穴、溝などの施設は検出できなかった。この部分の溝端部平面観は直線的である。溝の深さを3mに設定すると、出入り口の幅は1.5mとなり、溝上端幅は5m以上に復元できる。陸橋部上端は標高10.30mで、この地点での溝底との比高差は0.7mとなる。陸橋から西側の溝底は徐々に高くなり、陸橋から22mの地点で標高10mとなり、陸橋部上端との比高差は僅か0.3mほどとなる。ここから西側へ向かって傾斜がはじまり、SD2との切合い部との溝底比高差は約1mとなる。陸橋から東側の溝底は徐々に低くなり、陸橋から19mの地点で、北東から南西に上端幅0.2mの平坦部と下端幅1mを有する、地山を掘り残した中仕切壁が形成され、溝底から0.6mの高さとなる。中仕切壁の上端と溝上端は0.25mほどの比高差となる。さらに東へ13mの地点で、第2番目の中仕切段が掘り残されている。溝底との比高差は0.3mである。陸橋部と第1・2中仕切の間は一種の水溜機能を持っていたものと考えられる。溝は陸橋部から40mの地点で谷の自然地形に消滅するが、この地点と溝底最高所との比高差は1.1mほどとなる。溝は谷部で一旦消滅するが、調査区内の北東側で継続しており、溝底は標高8.8mほどで、北東に延びて溝底の標高は下っている。

陸橋部から西側の地点の溝底標高が最も高くなるということは、環溝掘削以前の自然丘陵の稜線にあたることも影響しているものとみることができる。

溝の埋土堆積は3層あるが、全て自然堆積で、黒褐色土層が基調となっている。溝内の出土遺物の

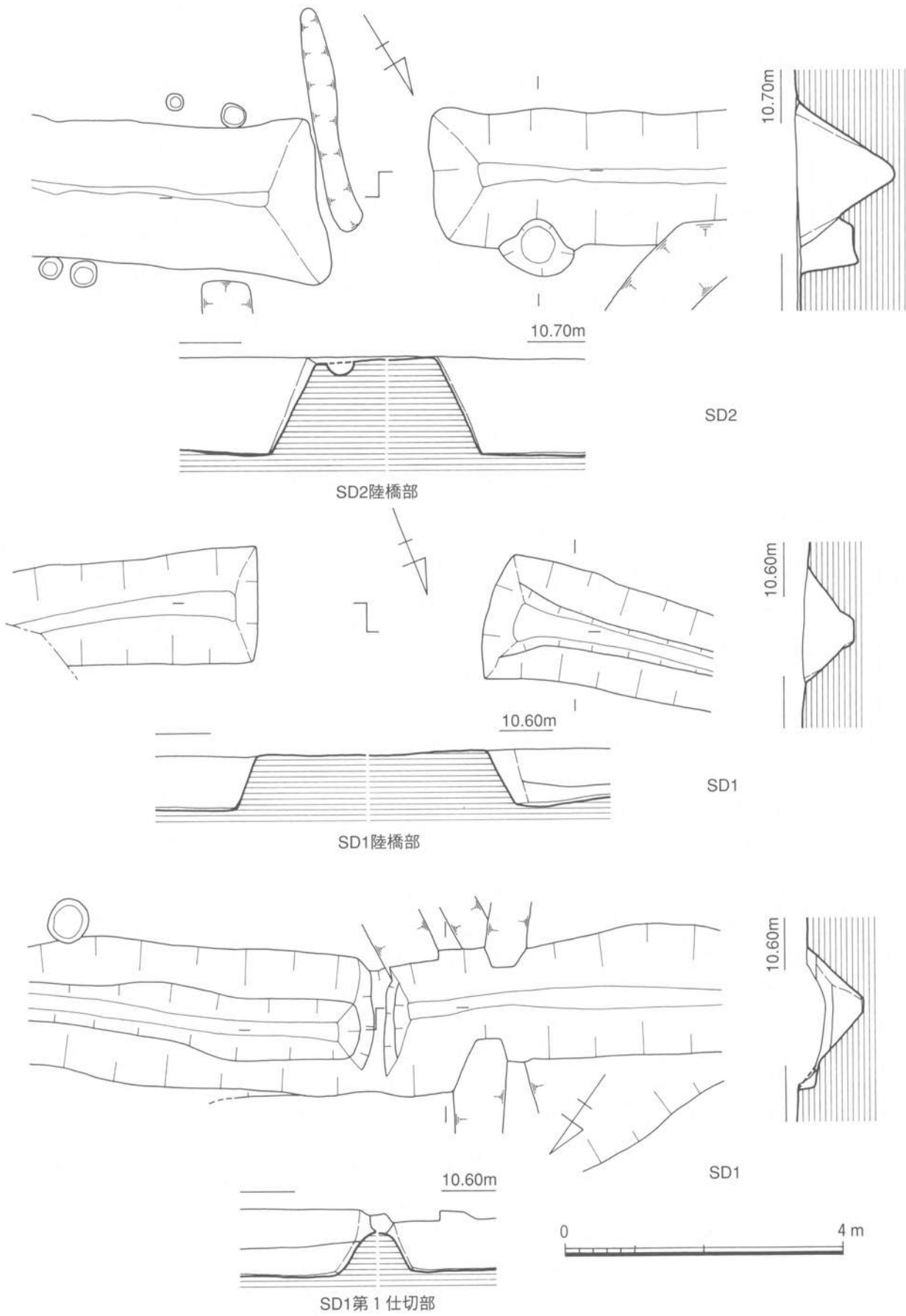


第2図 SD1・2溝底傾斜図 (1/800)

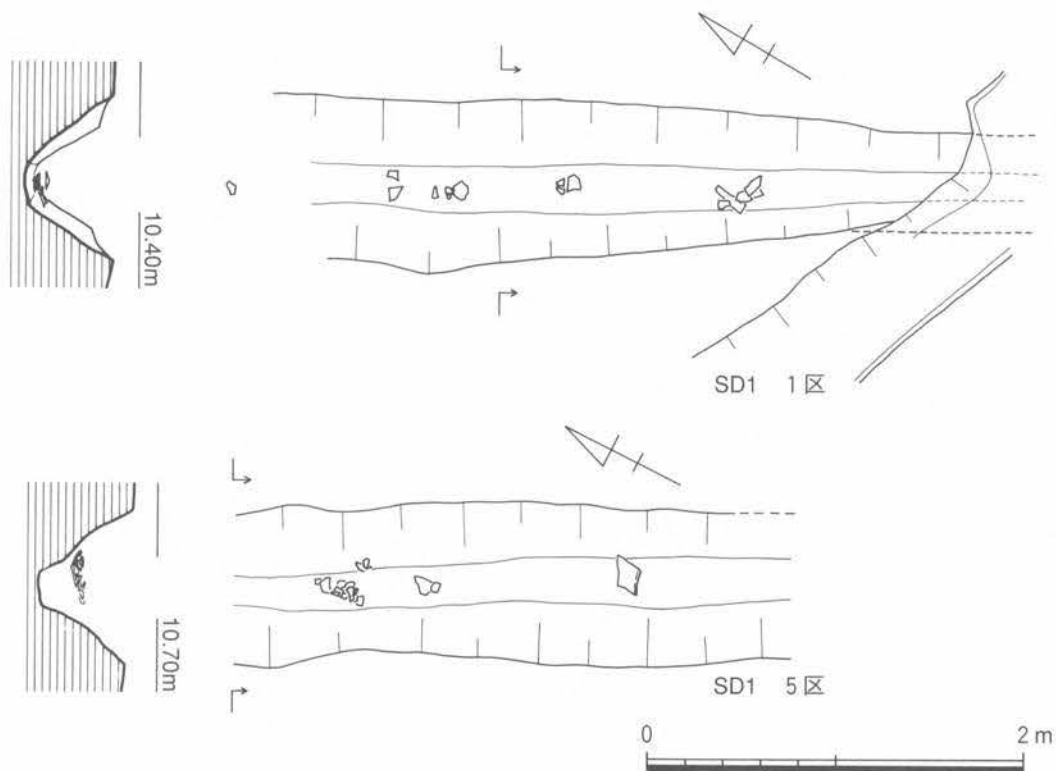
全体量は少なく、陸橋部から西側は最大で数10cmの堆積であり、溝の下層として遺物の取り上げをおこなった。陸橋部から東側は谷部周辺で黒色土で全体が覆われ、溝に伴う遺物のほか、弥生時代中～後期、さらに奈良、平安期の遺物がこの黒色土中から出土した。

2) SD2 (第2～3・5～7図)

SD2 (溝) は調査区内中央で東西方向に直線的に掘られた溝で東西に80mあり、東側では陸橋から24mで谷に消滅し、SD1とは重ならない。西側はSD1と切合った後、北側へ向きを変えて調査区外北側へ延びている。SD1と重なる部分では、溝底の標高はSD2がSD1より0.5m深く、土層観察からSD2がSD1を切っていることがわかった。溝は断面V字で、最大幅3.2m、最大の深さ1.3mの



第3図 SD1・2陸橋部及び仕切実測図 (1/80)



第4図 SD1の1区・5区遺物出土状況図 (1/40)

規模を有し、中央部には溝を掘りきらない陸橋が幅2m残り、溝内外への出入口となっている。周辺に関連施設は認められなかった。溝の深さを3mと設定すると、出入口の幅は1mとなり、溝上端幅は4m以上に復元できる。

西側のSD1と重なる部分から延長部はU字形の幅広い溝底の断面となる。陸橋部の溝底標高は9.1mほどで、陸橋部上端との比高差は1.3mである。陸橋から西側は溝底標高は徐々に高くなり、西へ14mの地点で標高9.45mとなり、最も高くなる。

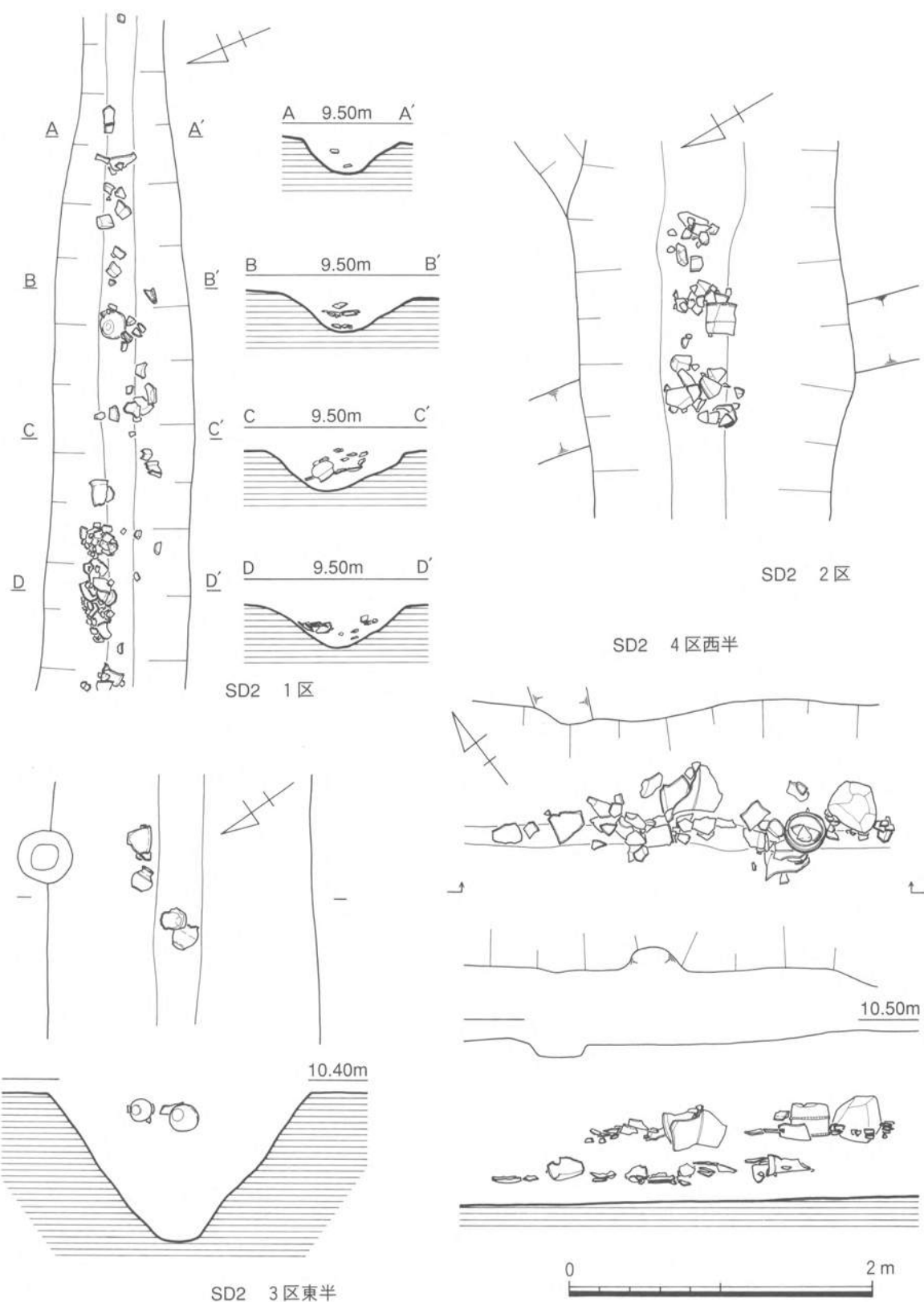
この溝底最高所から西へは傾斜しながら、調査区内の末端で標高8.15mとなり、延長部はさらに低くなる。陸橋から東側は緩やかに傾斜し、谷部に消える。SD2の溝底傾斜はSD1のそれと酷似し、地形の影響を受けたものと考えられる。

溝の堆積埋土は全体に3～4層認められ、茶褐色～黒褐色の自然堆積である。土塁状の形成が溝の内外のどちらに造られたかは溝内の堆積状況からは判断ができない。

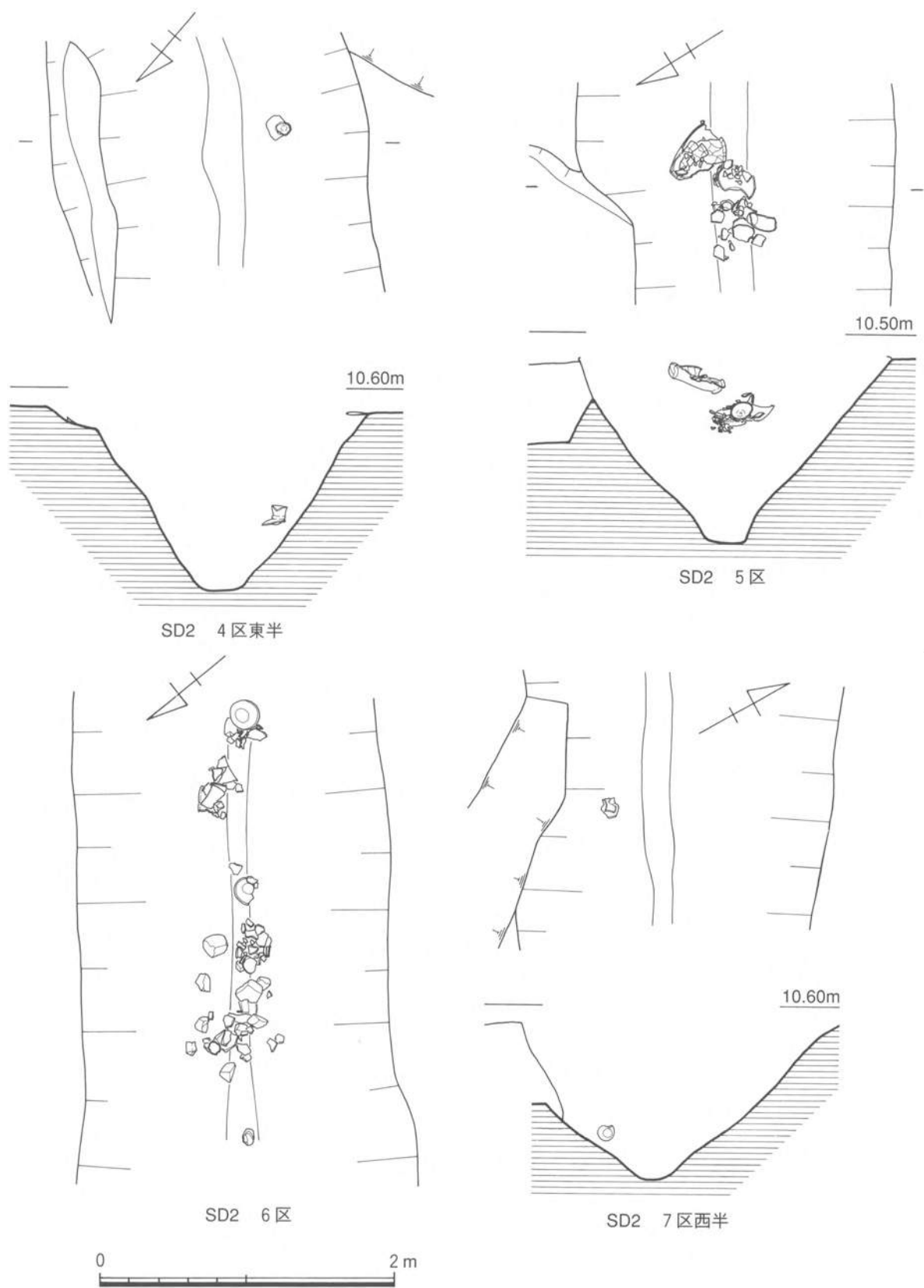
溝内からの出土土器は上層に弥生時代中期の土器が混じっているが、中・下層は前期の土器で占められている。

3) SX3 (第8図)

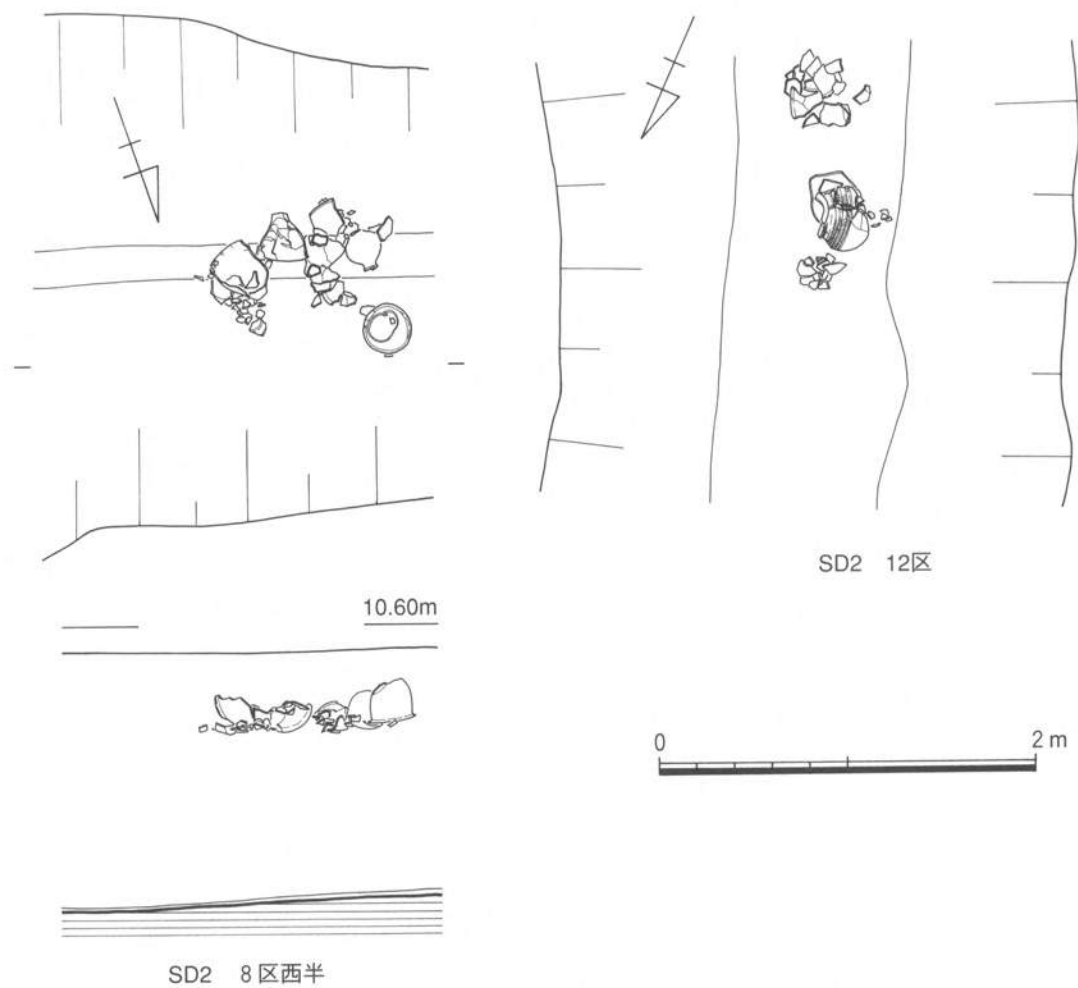
SD1とSD2に挟まれた空間の最も西側隅に位置し、小溝が東半部に半円形に残る。現況の溝の最大幅0.3m、深さ0.04mである。東側の一端は溝を掘りきらずに幅1.2mの空間を有する。復元すると推定直径14mの円形溝が巡るものとみられ、内部に柱穴、炉を認めることができないため、あるいは溝を巡らした動物飼育用の施設とも考えられる。旧状は深さ1m以上の復元が可能であり、SD1・2に囲まれた半円形の空間は住居域ではなく、生産、貯蔵などのための空間であった可能性がある。



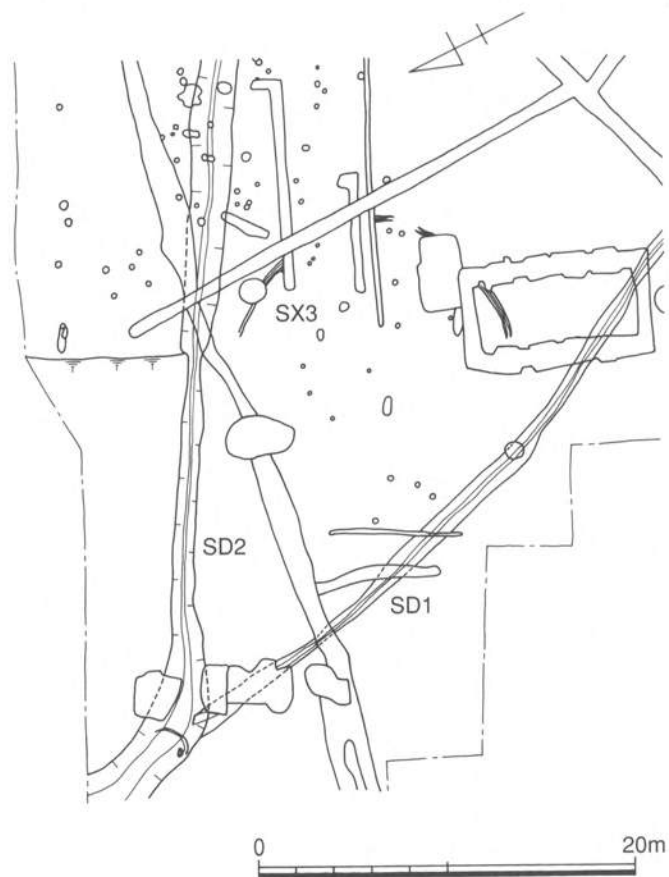
第5図 SD2の1～4区遺物出土状況図 (1/40)



第6図 SD2の4区～7区遺物出土状況図 (1/40)



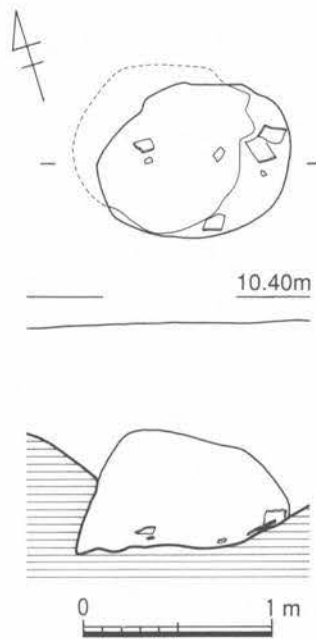
第7図 SD2の8区・12区遺物出土状況図 (1/40)



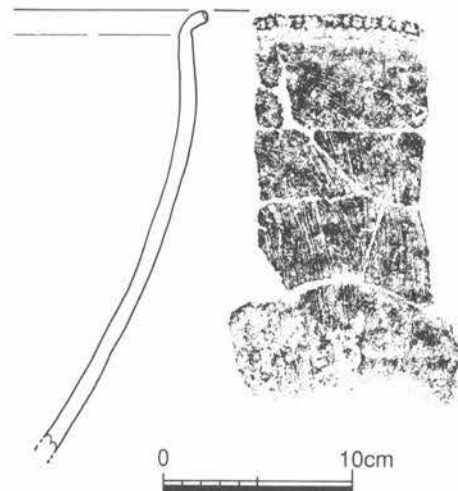
第8図 SX3実測図 (1/400)

4) SK21 (第9・10図)

調査区の東側にあつて、SD 2 が東に直線的に延び、谷に消える直前の溝埋土を切り込んで掘られた1.04×0.83m、深さ0.6mの不整円形土坑である。底径約0.9mの床は不整円形でほぼ平坦である。西側壁は内傾して0.4mほど立ち上がる。SD 2 の調査中に確認されたもので、切合い関係は明確にできていない。埋土中から口縁端部に刻目を付す甕の破片が1点出土した。口縁部から胴部の破片で、内湾しながら立ち上がる胴部に口縁下1.2cmで、外に短く外反する口縁部が付く。口縁端部はヘラ状工具による刻目が施されている。口縁部は横ナデ調整、胴部外面は斜め及び縦方向の板ナデ調整、胎土に粗砂粒を多く含み、焼成は良好で、胴上部に黒斑がみられる。内外面とも橙色。この遺構はSD 2 埋土の掘削中に確認したものであり、両者の切合関係には若干の疑問が残る。遺構の性格は不明である。



第9図 SK21実測図 (1/40)



第10図 SK21出土遺物実測図 (1/4)

5) SK22 (第26図)

調査区の東側の谷の埋土を切り込んで掘られた土坑で、1.95×1.85m、深さ0.7mの不整形土坑である。床面は径1.2mほどの不整円形でやや平坦である。壁は内湾気味に立ち上がる。埋土中の直口壺及び高坏から弥生時代後期の遺構と考えられる。井戸機能を持つものであろうか。

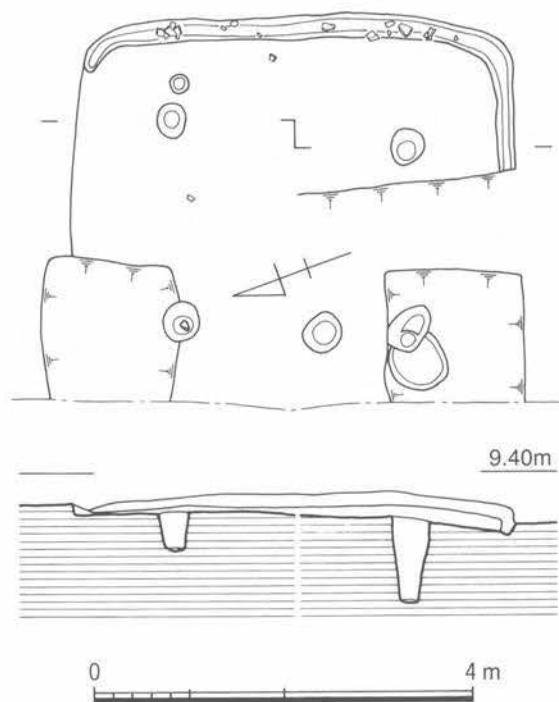
6) SK24 (第26図)

調査区の西端にあつて、1.2×1m、深さ0.4m、底径0.6mの不整円形土坑である。床面はほぼ平坦で、壁は内湾気味に立ち上がる。出土遺物はない。

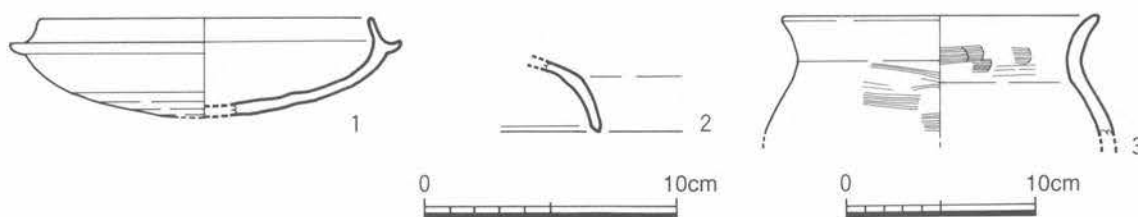
7) SC25 (第11・12図)

調査区的最も西側にあつて、西半は削平で消滅する。一辺が4.6×2.5m、深さ0.4mの方形住居跡である。壁に沿って幅0.2～0.3mの周壁溝が巡り、床面中央に2.2m間隔に4本柱が掘られ、最も深い柱穴は1mほどとなる。カマドの有無は不明である。東側周壁溝から出土した須恵器、土師器は古墳

時代後期のものである。1は須恵器坏身で、浅く内湾して立ち上がる体部に、外上方に尖り気味に引き出した受部が続き、端部が尖り気味となる受部立ち上がりがある。口縁部は横ナデ、体部外面1/2に回転ヘラケズリを施す。内面の体底部は不定方向ナデ。胎土に2mm以下の砂粒を含み、焼成良好。内外面とも灰色。口径13.2cm、受部径15.4cm、器高3.9cm、受部立ち上がり0.9cmを測る。2は須恵器坏蓋片で、天井部と体部境に弱い稜が入る。口縁端部に内傾する段が認められる。粗砂粒を含み、焼成は良好。内外面とも灰色。3は土師器の甕で、球状胴部に外反して立ち上がる口縁部がつく。口縁部は横ナデ、頸部内面及び胴部外面は横刷毛目、胴部内面はヘラ削り後ナデ調整。粗砂粒を含み、焼成良好。内外面とも橙色。口径16.4cm。



第11図 SC25実測図 (1/80)



第12図 SC25出土遺物実測図 (1/3・1/4)

8) SK26 (第13図)

調査区の中央北側、SD 2の北にあって、径0.7m、深さ0.2mの円形土坑である。床面は径0.7mの円形で、平坦である。壁は外開き気味に立ち上がる。底近くから跳ね上げ口縁甕を含む土器群が出土した。弥生時代後期前半の遺構である。

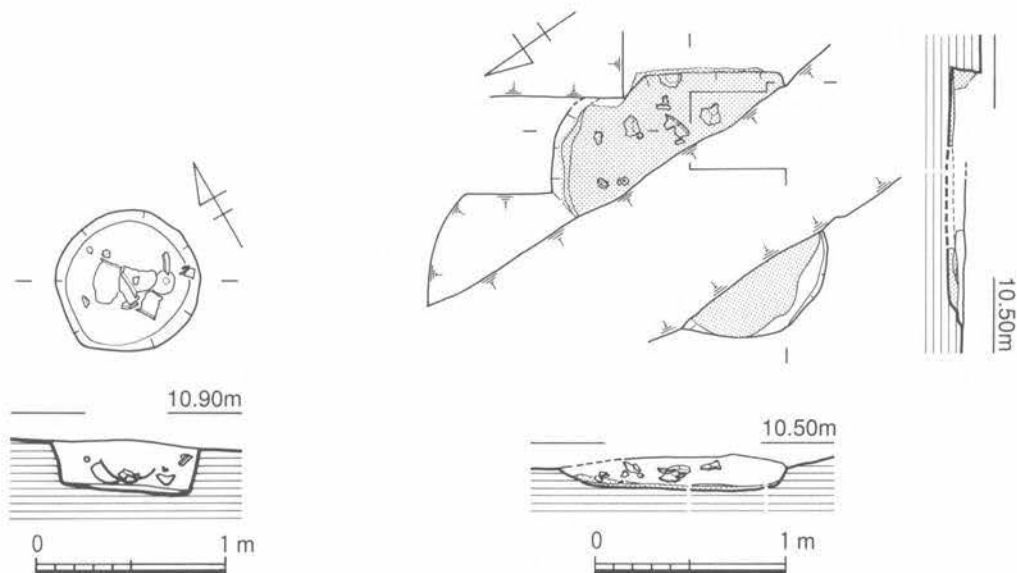
9) SK28 (第27図)

調査区の西側にあって、SD 1・2の合流地点に近いところにある3.9×1.9m、深さ0.8mの楕円形土坑である。当初は地下式横穴墓の可能性を持ちながら掘り進んだが、結果的には地下浸透水による浸

食によるものと判断した。

10) SK30 (第14図)

調査区の中央北側にあって、SD 2 の北にある3.2×2.8m、深さ0.05mの不整円形土坑である。床面に粘土と灰が堆積していたほか、跳ね上げ口縁甕が出土した。

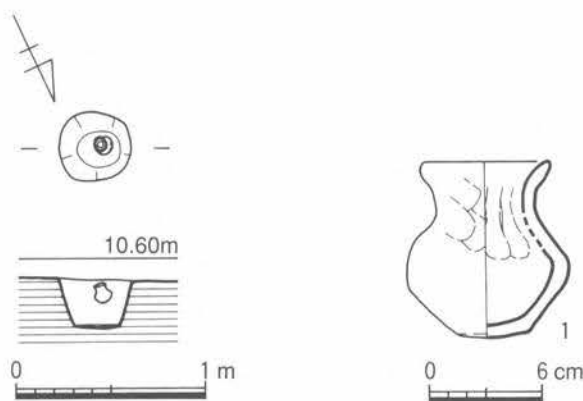


第13図 SK26実測図 (1/40)

第14図 SK30実測図 (1/40)

11) SP56 (第15・16図)

調査区の中央南側にあって、SD 1 の陸橋に近い径0.39m、深さ0.24mの不整円形土坑である。底径0.2mの床は平坦で、壁は外開きに立ち上がる。埋土中から弥生時代前期の完形小壺が正立からやや傾いた状態で出土した。膨らみをもつ平底にそろばん玉状の胴部がつき、口縁部は緩く外反して立ち上がる。口端部は丸くおさめる。頸部と肩部の境は不明瞭である。器面は全体にナデ調整

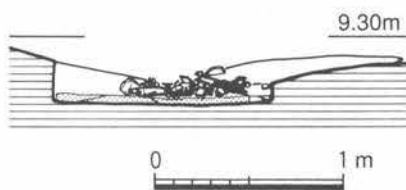
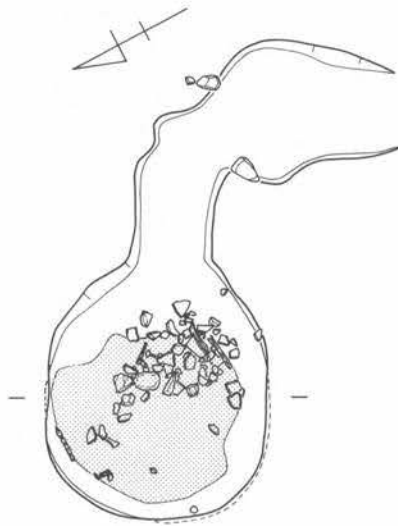


第15図 SP56実測図 (1/40) 第16図 SP56出土遺物実測図 (1/4)

で仕上げ、口頸部内面は指押さえ痕を残す。粗砂粒を多く含み、焼成良好。内外面とも橙色。黒斑あり。口径6.8cm、器高9.2cm、胴部最大径8.5cm、底径3.9cm。

12) SK61 (第17図)

調査区の東側谷部にある径1m、深さ0.2mの円形土坑に、東南にのびるL字溝が付設する遺構である。溝幅は0.4mほどで、円形土坑に向かって傾斜する。土坑床面は平坦で、壁は真っ直ぐ立ち上がる。土坑床にドングリの集積が認められ、直上に弥生時代後期の土器が出土した。



第17図 SK61実測図 (1/40)

13) SK62 (第26図)

調査区の東側谷部にある径1.2m、深さ0.1mの円形土坑である。床面は平坦で、埋土中から弥生時代中期後半～後期の土器が出土した。

14) SK63 (第26図)

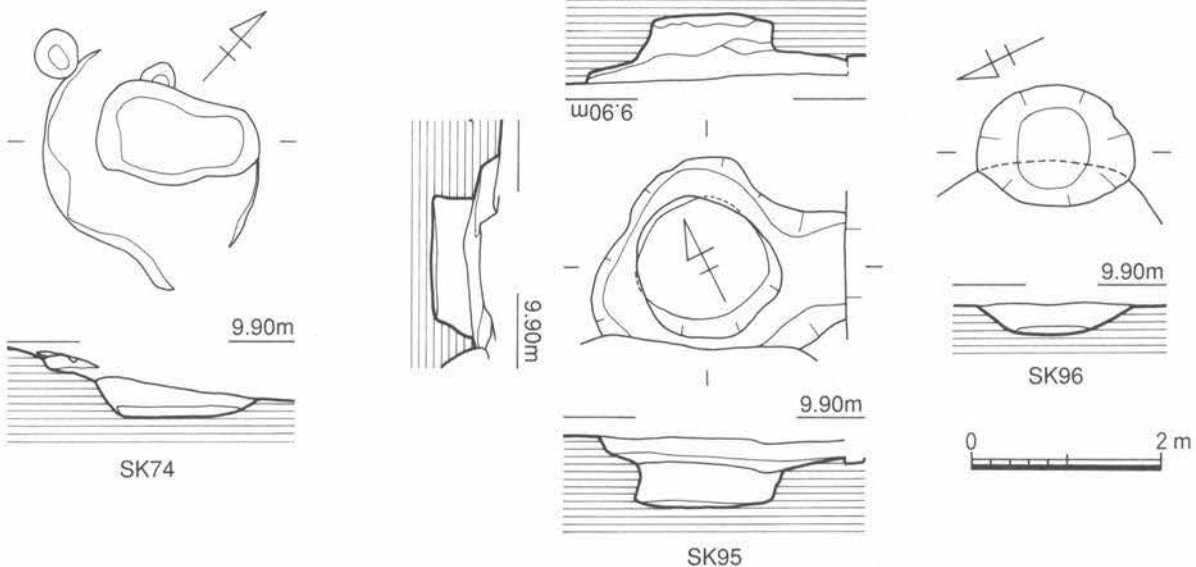
調査区の東側谷部のSD 2 が消滅する際にある径0.95m、深さ0.5mの円形土坑である。底径0.5mの床面は平坦で、壁は外開きに真っ直ぐ立ち上がる。埋土中から弥生時代中期後半～終末期の土器が出土した。

15) SE67 (第26図)

調査区の東側谷部にあって、SD 1 が陸橋部から北に延び、谷で終息する部分に掘られた径1.2m、深さ0.7mの不整円形土坑である。径0.7mの平坦床からさらに0.2m、径0.4mの土坑が掘られている。1段目の床は粘土が堆積していた。埋土中から古代～中世の遺物が出土した。井戸であろうか。

16) SK74 (第18図)

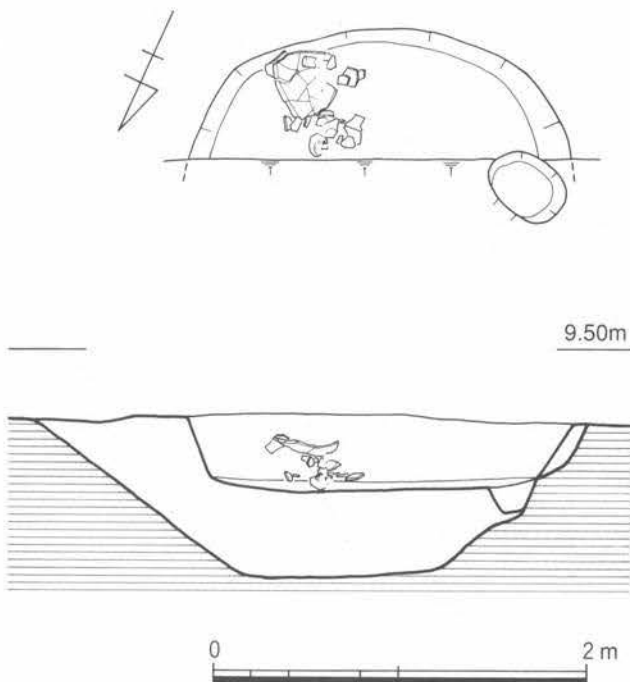
調査区の東側谷部にある径2.3m、深さ0.6mの不整円形土坑である。二段掘りとなっており、弥生時代後期の土器が出土した。ドングリ土坑と思われる。



第18図 SK74・95・96実測図 (1/80)

17) SK77 (第19図)

調査区の西側にあって、SD 2 の埋土中に掘り込まれた土坑である。SD 2 の掘削中に検出したもので、1/2はない。長径2.04m、短径0.69m、深さ0.35mを測る。床は平坦で、埋土中から弥生時代前期の如意形口縁甕、蓋などが出土した。



第19図 SK77実測図 (1/40)

に立ち上がり、その上は大きく外開きに立ち上がる。二段掘りである。埋土中から格子目タタキ目を有する瓦、瓦器、白磁が出土した。

21) SK82 (第82図)

調査区の東側谷部にあって、SD 1・79の中間にある長径2.5m、短径1.9m、深さ0.4mの楕円形土坑である。SK83を切る。床面は平坦で、埋土中から中～近世の土器、すり鉢が出土した。

22) SK83 (第26図)

SK82に南側で切られる不整円形土坑である。径2.3m、深さ0.4m、床面は平坦で、埋土中から弥生時代後期の土器が出土した。

23) SK84 (第20図)

調査区の東南隅にあって、SD79を切って掘られている $3.8a \times 3.5m$ 、深さ0.2mの土坑である。床面は平坦で、埋土中から近世の石棒、土師器が出土した。この遺構は住居跡の可能性がある。

24) SK87 (第26図)

調査区の東端の谷部にあって、 $1.28 \times 1.17m$ 、深さ0.75mを測る円形の土坑である。底径0.8mの床面は平坦で、壁は外開きに立ち上がる。埋土中から弥生時代後期の土器が出土した。この遺構は井戸の可能性がある。

25) SK89 (第26図)

調査区の東端の谷部にあって、SD 1の東にある径2.4m、深さ0.33mの円形土坑で、床面は平坦で、出土遺物はない。

18) SD78 (第20図)

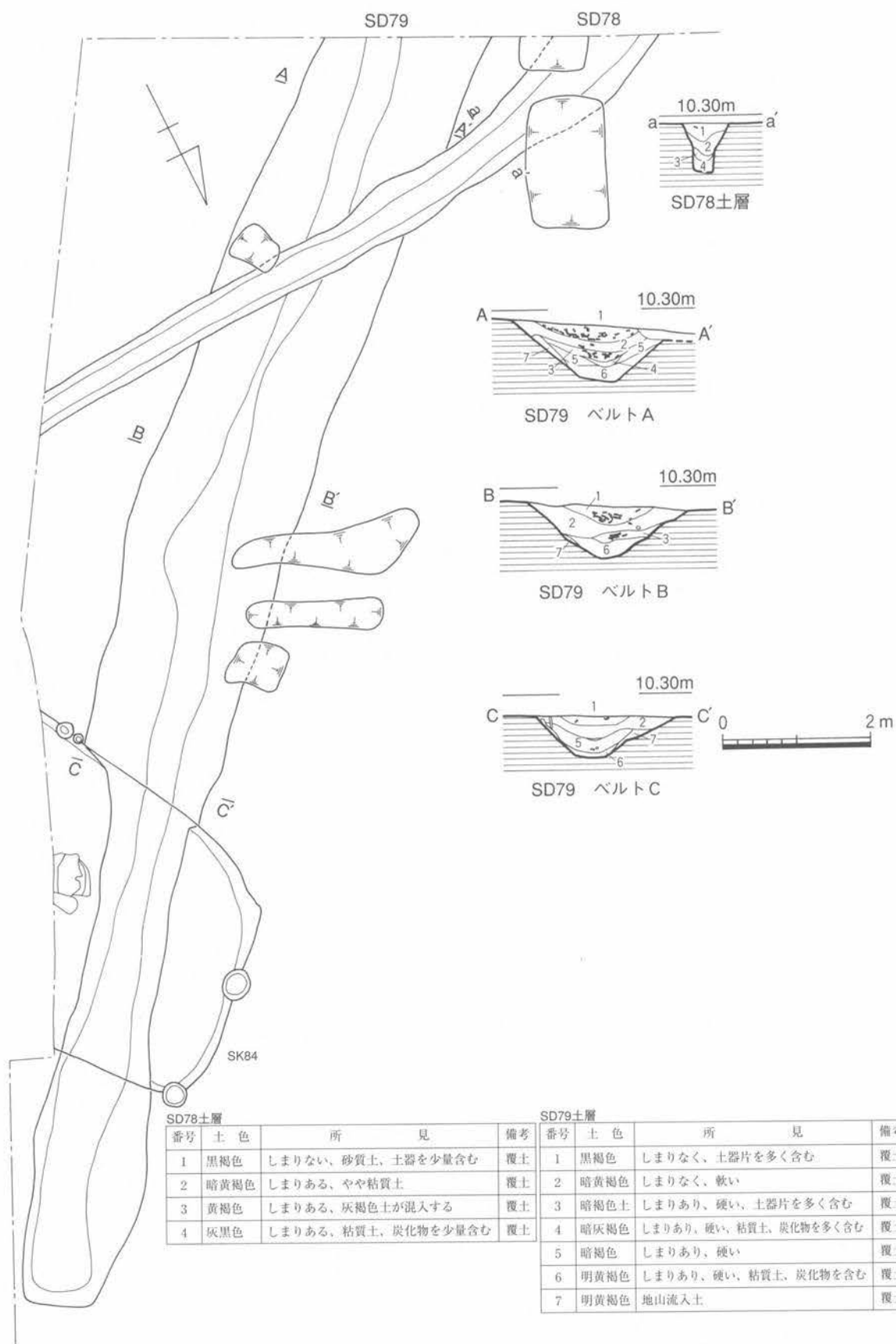
調査区の東南隅にあって、SD79を切る長さ10m、幅1.2～0.4m、深さ0.7mの溝で、断面は長方形～逆台形となる。弥生時代後期の土器が出土した。

19) SD79 (第20図)

調査区の東南隅にある長さ18m、幅0.75～0.4m、深さ0.7mの溝で、北側は、溝が閉じる。断面はV字形～逆台形となる。弥生時代後期の土器が出土した。

20) SE80 (第26図)

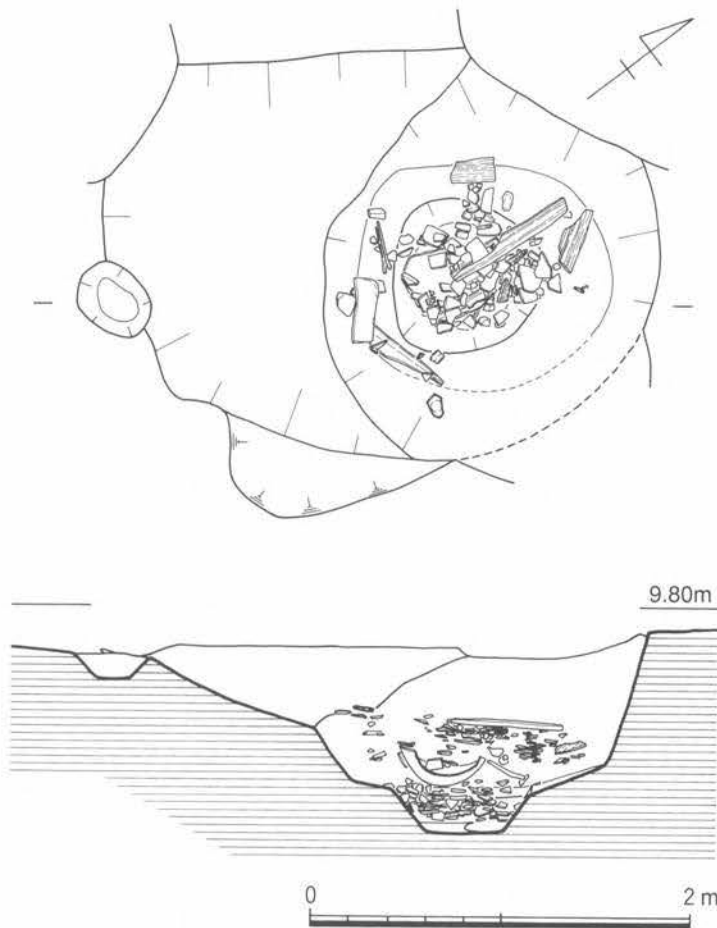
調査区の東側谷部にあって、SD 1の東にある径3.6m、深さ1.4mの円形土坑である。底部は径0.5mの平坦で、壁は0.2m直



第20図 SD78・79・SK84実測図 (1/80)

26) SK93 (第21図)

調査区の東端の谷部にあつて、SD 1 の東にある径2.1m、深さ0.61mの二段掘り円形土坑である。底は径0.4mの円形で平坦である。床面直上から遺物の集積があり、弥生時代後期の土器と木片が出土した。井戸の可能性はある。



第21図 SK93実測図 (1/40)

27) SK95 (第18図)

調査区の東端の谷部にあつて、SD 1 の東にある $2.5a \times 1.98a$ m、深さ0.3mの円形土坑で、床面にドングリが堆積していたほか、弥生時代後期～古墳時代はじめの土器が出土した。

28) SK96 (第18図)

調査区の東端の谷部にあつて、SD 1 の東にある 1.55×1.37 m、深さ0.3mの円形土坑で、床面にドングリが堆積していたほか、古墳時代はじめの土師器が出土した。

29) SE98 (第26図)

調査区の東端の谷部にあつて、SD 1 の東にある 1.87×0.5 m、深さ1.1mの井戸である。床は径0.6mほどの円形で、平坦である。壁は外開きに立ち上がる。埋土中から中世の瓦器が出土した。

30) SE99 (第27図)

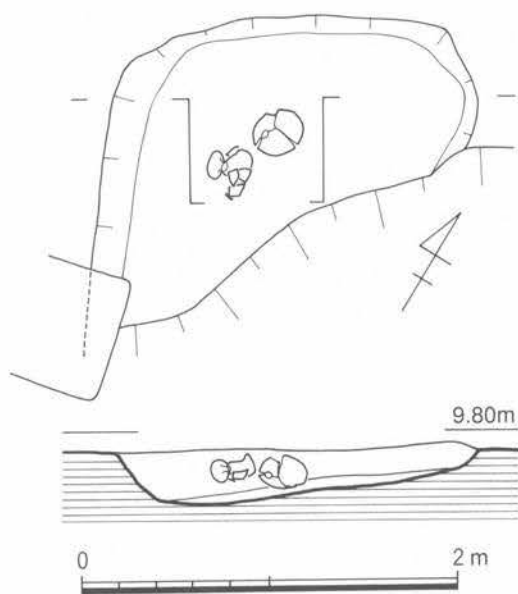
調査区の東端の谷部にあつて、SD 1 の東にある 1.64×1.35 m、深さ1.55mの井戸である。床は0.6mほどの円形で平坦である。底に板石が2点置かれていた。埋土中から弥生時代後期の土器が出土した。

31) SK100 (第27図)

調査区の東端の谷部にあつて、SD 1 の東にある 1.26×0.87 m、深さ0.1mの二段掘り楕円形土坑である。底は0.6mほどの円形で平坦である。壁は緩やかに外開きに立ち上がる。埋土中から弥生時代後期の土器が出土した。

32) SK101 (第26図)

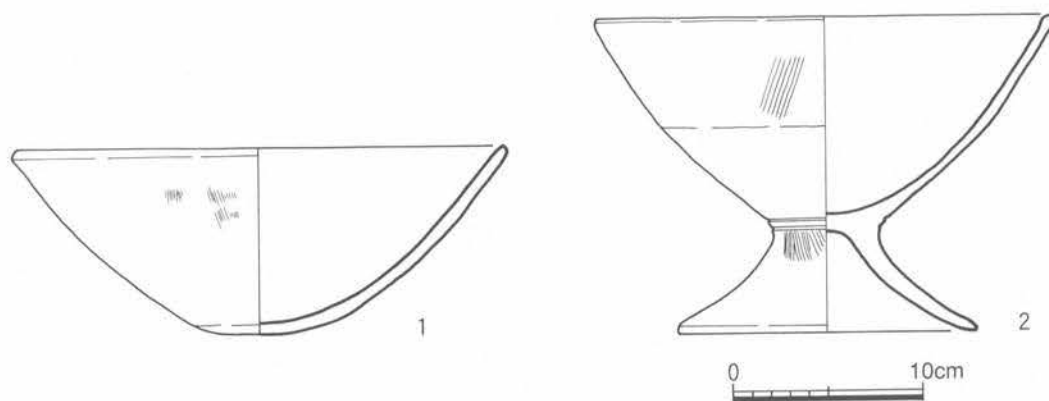
調査区の東端の谷部にあつて、SD 1 の東にある 2.33×1.1 m、深さ0.16mの隅丸方形土坑である。床面は平坦で、壁は緩やかに外開きに立ち上がる。埋土中から弥生時代後期の土器が出土した。



第22図 SK102実測図 (1/40)

33) SK102 (第22・23図)

調査区の東端の谷部にあって、SD 1 の東にある $1.92 \times 1.45\text{m}$ 、深さ 0.28m の隅丸方形土坑である。床面は東から西に緩やかに傾斜する。埋土中から弥生時代後期の高坏、鉢が出土した。1 は完形の鉢で、浅い突状の丸底から外開きに内湾して立ち上がる胴部は、その端部をやや角張らせて口縁部となる。胴部外面は縦刷毛目調整後にナデている。胎土は粗い砂粒を含む。2 は高坏である。大きく外反して裾広がり脚部に内湾して深みのある胴部がつく。坏部の中位がわずかに内側に屈曲する。口端部は面をつくり、内側がわずかに引き出されている。器面は縦刷毛目調整後、ナデている。坏部と脚部境に2条の沈線がめぐる。胎土に粗い砂粒を含む。



第23図 SK102出土遺物実測図 (1/4)

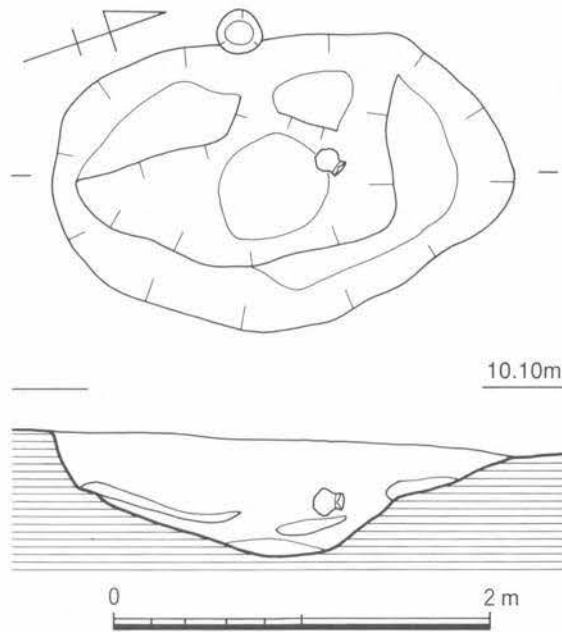
34) SK105 (第24図)

調査区の東端の谷部にあって、SD 1 の東にある $2.4 \times 1.43\text{m}$ 、深さ 0.62m の楕円形土坑である。底は 0.5m ほどの円形で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土中から弥生時代前期のほぼ完形の小壺が出土した。やや上げ底気味の円盤状平底に扁球形の胴部がつづき、最大径は中位にある。胴部と頸部の境はやや不明瞭である。頸部は外反して直立気味に立ち上がる。口縁部外側が肥厚し、頸部との境に段を有する。口縁部は粘土接合面が明瞭に残る。器面は丁寧な研磨痕を残す。

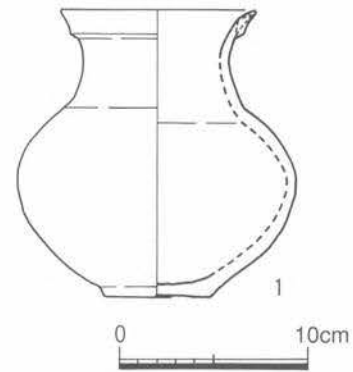
35) SD 1 出土遺物 (第28～35図)

溝内の土層は溝の深さが 1m を越す部分もあり、概ね3～4層に分けられることから、遺物の取り上げは、綿密な層位ごとの取り上げをせず、上端からの深さ $40 \sim 50\text{cm}$ を1層の単位としてあつかい、上・中・下・床面に分けて取り上げた。陸橋部から西側は溝の残りが悪く、深いところで 60cm の深さであったことから、溝の埋土中の遺物は床面及び下層遺物として取り上げた。

SD 1 からの出土遺物は、SD 2 に比べると少なく、土器は甕、壺、鉢、蓋、高坏で、完形品を含まない。石器は石斧、石剣、石鏃、石錐、石庖丁、石鎌、砥石、磨石、敲石がある。また、土製品には紡錘車、土錘がある。



第24図 SK105実測図 (1/40)

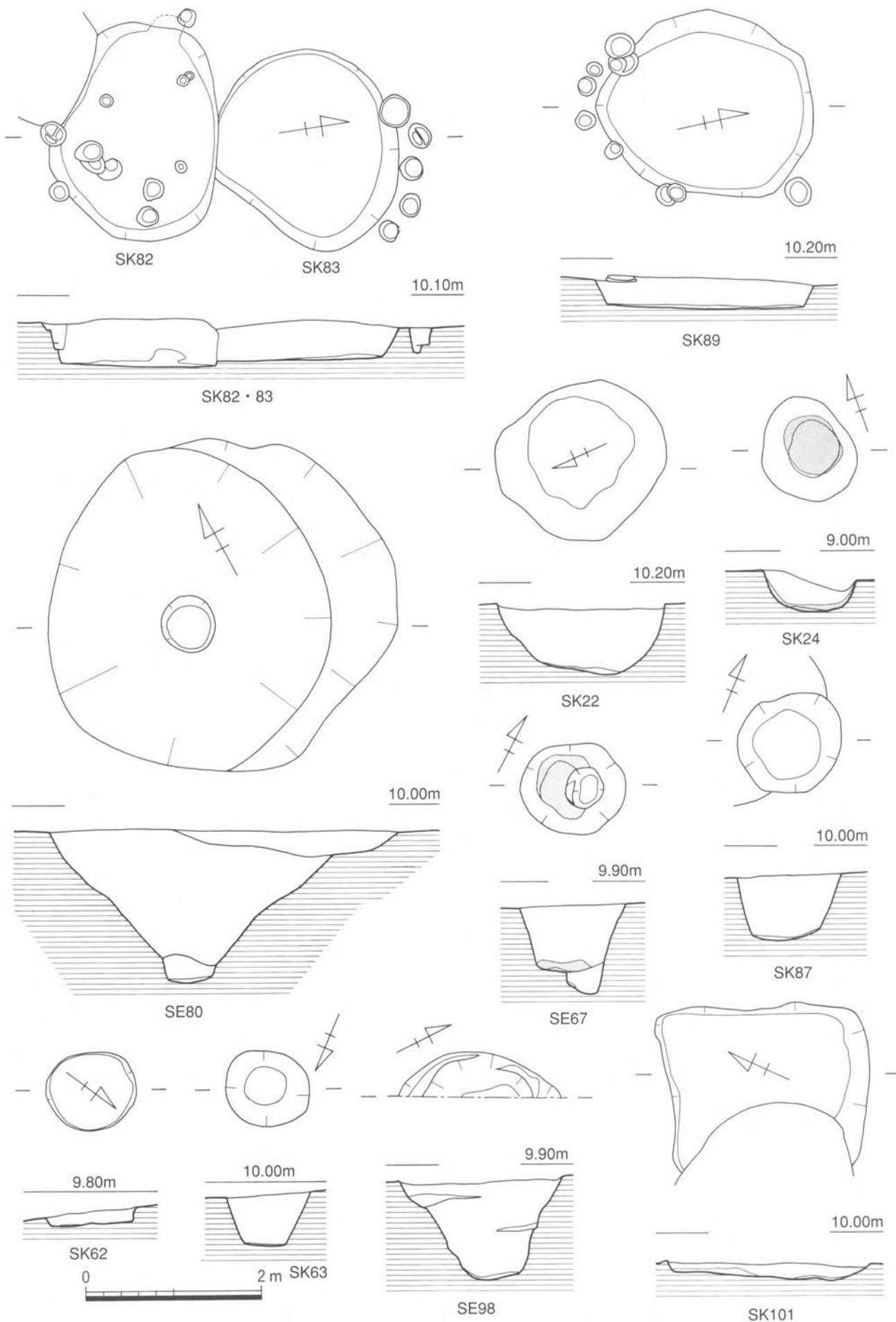


第25図 SK105出土遺物実測図 (1/4)

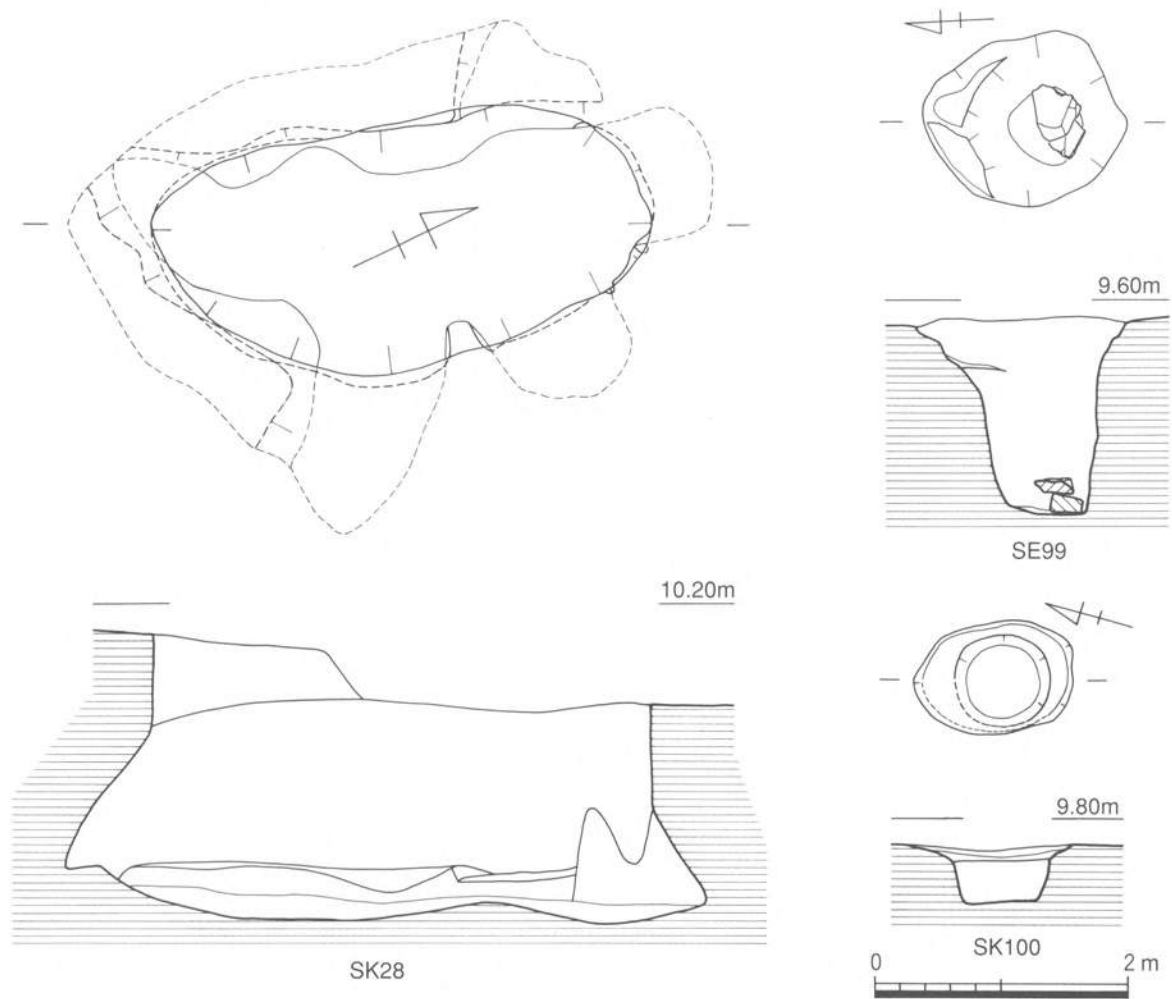
甕

大半の土器が破片資料であり、完形品がないため、全体の器形を捉えることができない。口縁部に1条の刻目突帯を有するもの、胴部が屈曲し、口縁部と屈曲部に刻目突帯を有するもの、口縁端部に直接刻目を入れるもの、口縁部に刻目突帯及び直接刻目を持たないものがある。

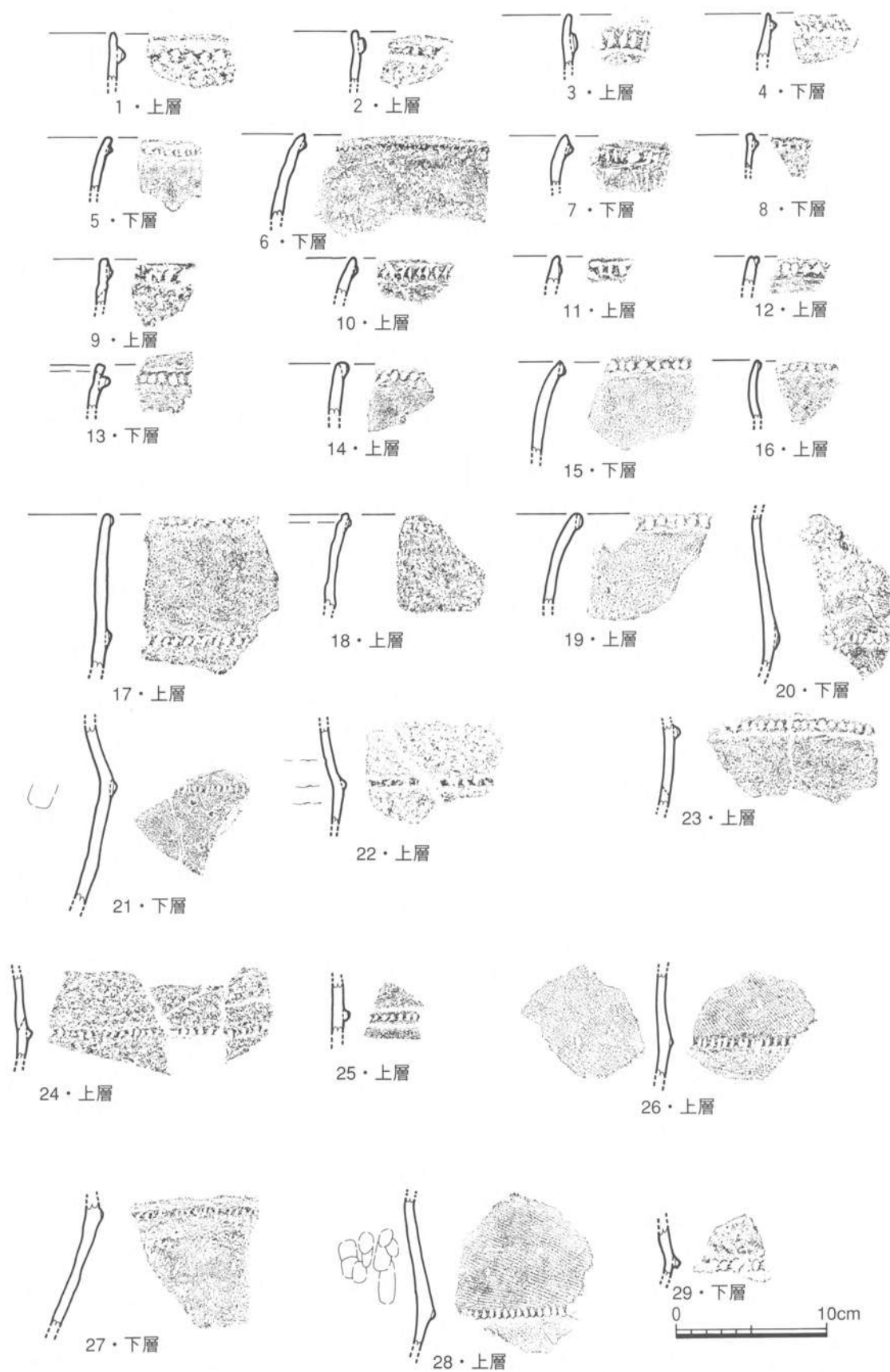
1は直立口縁で、口端部は尖り気味となる。口縁端下1cmにカマボコ形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施す。2は直立口縁で、口端部は尖り気味となる。口縁端下0.5cmにカマボコ形の粘土帯を貼り付けるが、粘土帯の一部は口端部にかかる。ヘラ状工具で浅い刻目を施す。内面に指押さえ痕を残す。3はやや外反気味の直立口縁で、口縁端下1.1cmにカマボコ形のやや幅広の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施す。内面に指押さえ痕を残す。4は直立口縁で、口端部は尖り気味となる。口縁端下0.5cmに三角形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で器面に届く程度の刻目を施す。器面は横方向の条痕、内面は横ナデ調整。5は器壁が薄く、口端部は尖り気味となる。口縁端下0.5cmに薄い三角形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻目を施す。器面はナデ調整。6は外傾する口縁で、口端部は尖る。口縁端下0.3cmに薄い三角形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻目を施す。器面はナデ調整。7は外傾気味の口縁で、口端部は尖る。口縁端に接して下向する三角形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で深めの刻目を施す。外面に縦方向の板ナデ痕が残る。8は直立口縁で、口端部はやや平坦となる。口縁端に接して下向する薄い三角形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻目を施す。9は直立口縁で、口端部は内傾する面をつくる。口縁端に接して薄いカマボコ状の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施す。内面に横方向の板ナデ痕を残す。10は外傾気味の口縁で、口端部に弱い面をつくる。口縁端に接して下向する薄い三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施す。11は口端部が丸くなり、外側は突帯に被さる。口縁端直下にカマボコ形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施す。12は尖り気味の口端部に薄い粘土帯を貼り付け、板もしくは刷毛目工具で刻目を施したもので、一見無突帯刻み目を思わせる。器面は横板ナデ。13の傾きは不明である。口端部は弱い面をつくる。口縁端下0.6cmに張り出しの強い粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻目を施す。14は尖り気味の口端部外側に三角形粘土帯を貼り付けて口端部に面をつくり、外端にヘラ状工具による刻み目を施す。15は弱く外反しながら外傾する口縁部の口



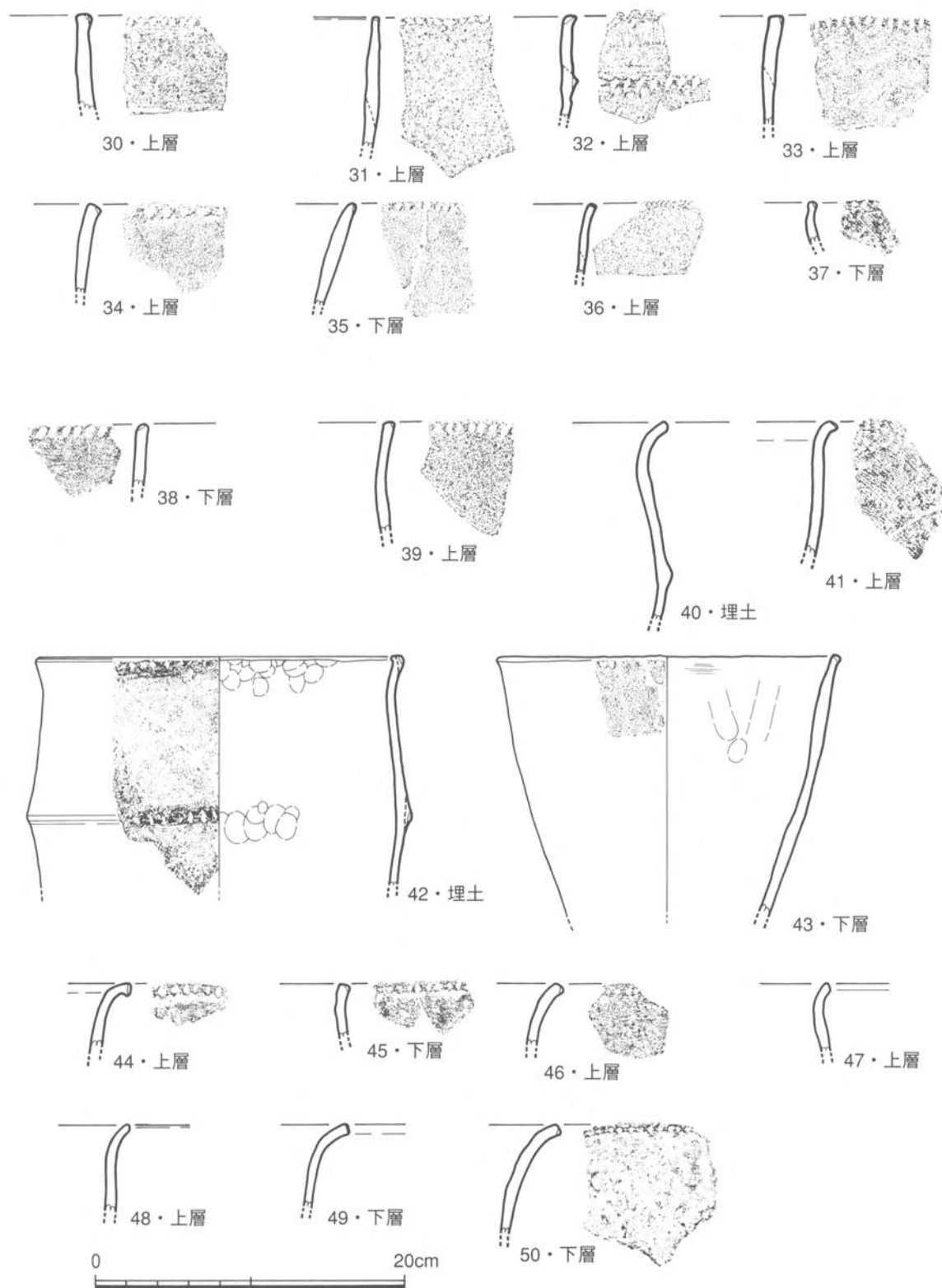
第26図 SK22・24・62・63・SE67・80・SK82・83・87・89・SE98・SK101実測図 (1/60)



第27図 SK28・SE99・SK100実測図 (1/60)



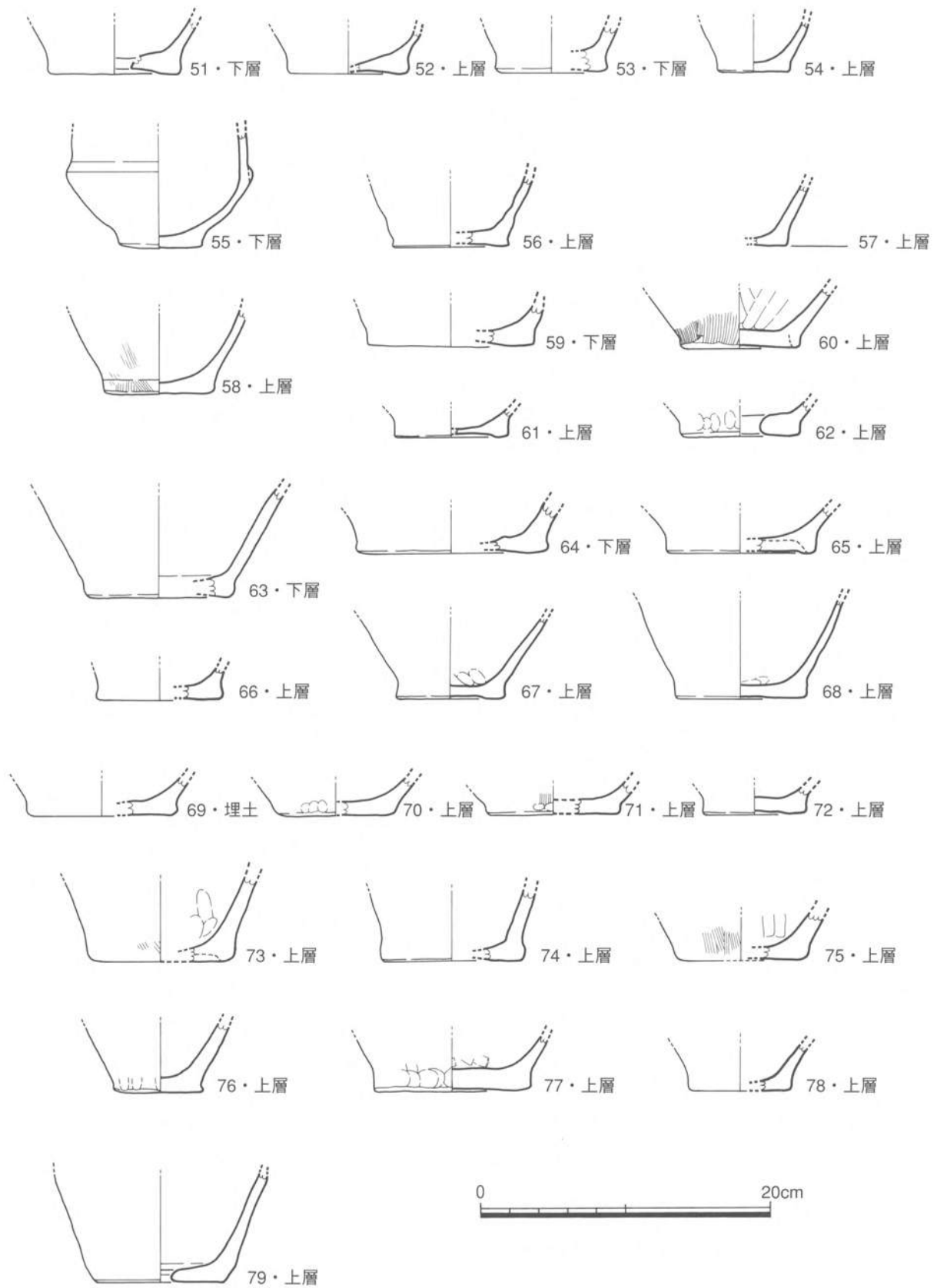
第28図 SD1出土遺物実測図1 (1/4)



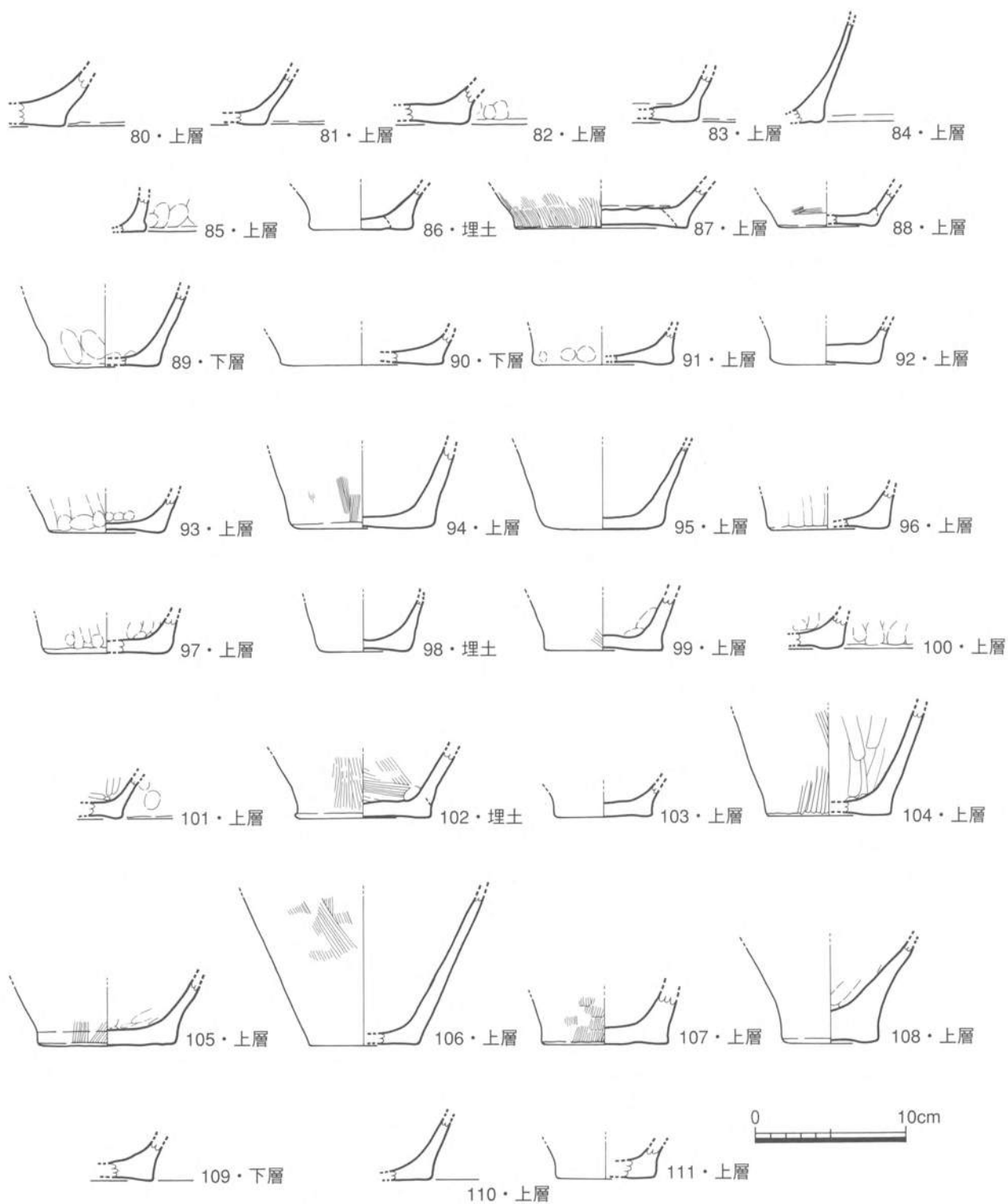
第29図 SD1出土遺物実測図2 (1/4)

端部と同じ高さに粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施したものである。16は器壁が薄く、外反して立ち上がる口縁部の口端部の位置に薄い三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施している。17は直立口縁部の口端部に三角形粘土帯を貼り付けて口端部に面をつくり、ヘラ状工具による刻み目を施す。口縁部下7.5cmの位置にも薄い幅広の三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具による刻み目を施す。18は外傾気味の口縁部に口端部に連続する薄い三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻目を施したものである。19は緩く外反しながら外傾する口縁部の尖り気味の口端部に三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具による刻み目を施す。20は胴屈曲部片で、薄い三角形粘土帯を貼り付けて下端に段をつくり、ヘラ状工具で浅い刻目を施す。器面に横方向の板ナデ痕を残す。21は胴屈曲部に薄い三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻目を施す。器面に横方向の板ナデ痕を残す。22は胴屈曲部に薄い三角形粘土帯を貼り付け、浅い刻目を施す。23は胴部にカマボコ形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻み目を施したものである。24は弱い屈曲胴部に薄い三角形粘土帯を貼り付け、浅い刻み目を施したものである。25は直立する胴部にカマボコ形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻み目を施したものである。26は直立する胴部屈曲部片で、薄い三角形粘土帯を貼り付け、刷毛目工具による浅い刻目を施している。刻み目は右側に付されている。外面の突帯から上部は右下がりの刷毛目調整、下半は横方向の板ナデ調整。内面は横方向の刷毛目調整。27は胴部屈曲部片で、薄い三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で浅い刻目を施している。器面は研磨もしくは丁寧なナデ調整、内面を横方向に研磨している。28は胴部屈曲部片で、薄い三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具による浅い刻目を施している。外面は右下がりの刷毛目、下部は板ナデ調整。内面上半に指押さえ痕を残す。29は三角形粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具による刻目を施している。器面上部は横ナデ調整。

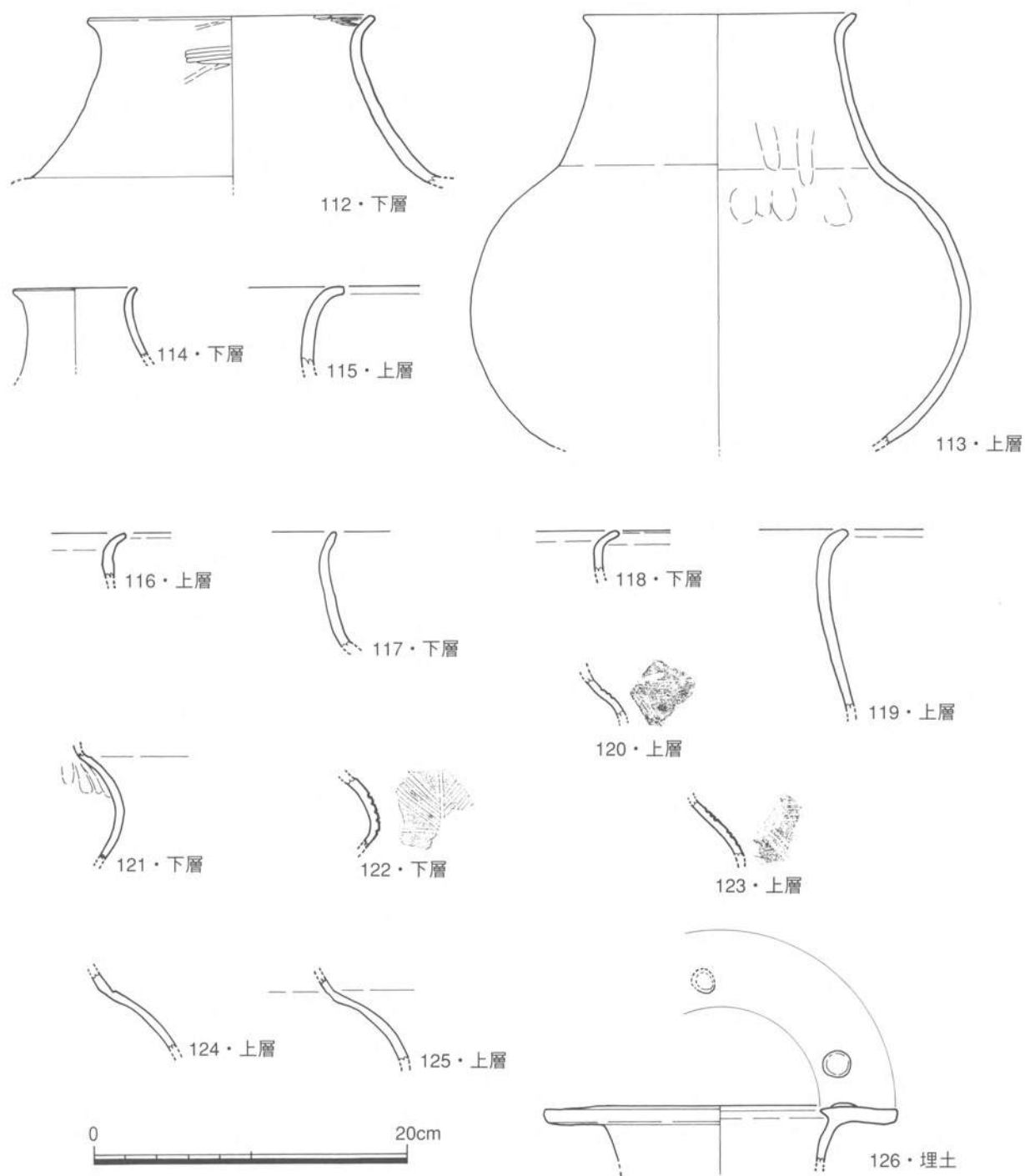
30は直立口縁部の口端部にあわせて粘土帯を貼り付け、口端部を平坦にし、外端にヘラ状工具による右上がりの刻み目を施している。破片の下端に1条の横方向の凹線が入る。器面は丁寧な横ナデ調整、内面に指押さえ痕を残す。31は直立口縁の口端部平坦面にヘラ状工具で直接刻目を施したものである。32は直立口縁の口端部下3.5cmに三角形の粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻目を施し、その上に粘土板2枚を貼り付けて立ち上げて平坦な口端部をつくり、口端部内側にヘラ状工具で刻目を施している。器面は丁寧にナデている。33は直立口縁端部の口端部を平坦に仕上げ、口端部外側にヘラ状工具で浅い刻目を施すものである。器面は丁寧な横方向の板ナデ調整。34は外傾気味の直立口縁部の口端部を平坦に仕上げ、口端部外側にヘラ状工具で刻目を施したものである。器面は丁寧にナデている。35は外傾する口縁部の口端部はやや丸みを有し、口端部外側にごく浅い刻目を施している。器面は丁寧にナデ調整されている。36は外傾気味の胴部に、小さく外反する口縁部がつき、口端部は丸みを有する。口端部には上面からヘラ状工具でごく浅い刻み目を施すが、刻み目の範囲は内側を意識している。37は直立気味の胴部に、短い口縁部が外側に折れる口端部はやや丸みをもつ。口端部の外側に浅い刻目を施している。器面は斜めの刷毛目調整痕を残す。38は直立口縁部の口端部内側に棒状工具で明瞭な刻目を施している。器面は丁寧にナデている。39は直立気味の胴部に外傾気味の口縁部がつき、口端部は平坦となる。口端部外側に浅い刻目を施している。40は内湾して外傾する胴部が屈曲し、屈曲部に粘土帯を貼り付ける。胴部上半は内傾して立ち上がり、口縁部は大きく外反して、口端部は外方に引き出される。口端部は丸い。胴部屈曲部に外反口縁部がつく折衷土器である。口端部、屈曲部ともに刻みはない。41は如意形口縁部の口端部に浅い刻目を施し、外面に縦刷毛目調整を施す。42は外傾胴部の屈曲部に粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で刻み目を施している。胴部上半はやや内傾気味に立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。口端部は平坦に仕上げ、口端部内側が引き出される。口端部外側に浅い刻目を施している。口縁部は板ナデ及び横ナデ調整、胴部器面は縦刷毛目調整。内



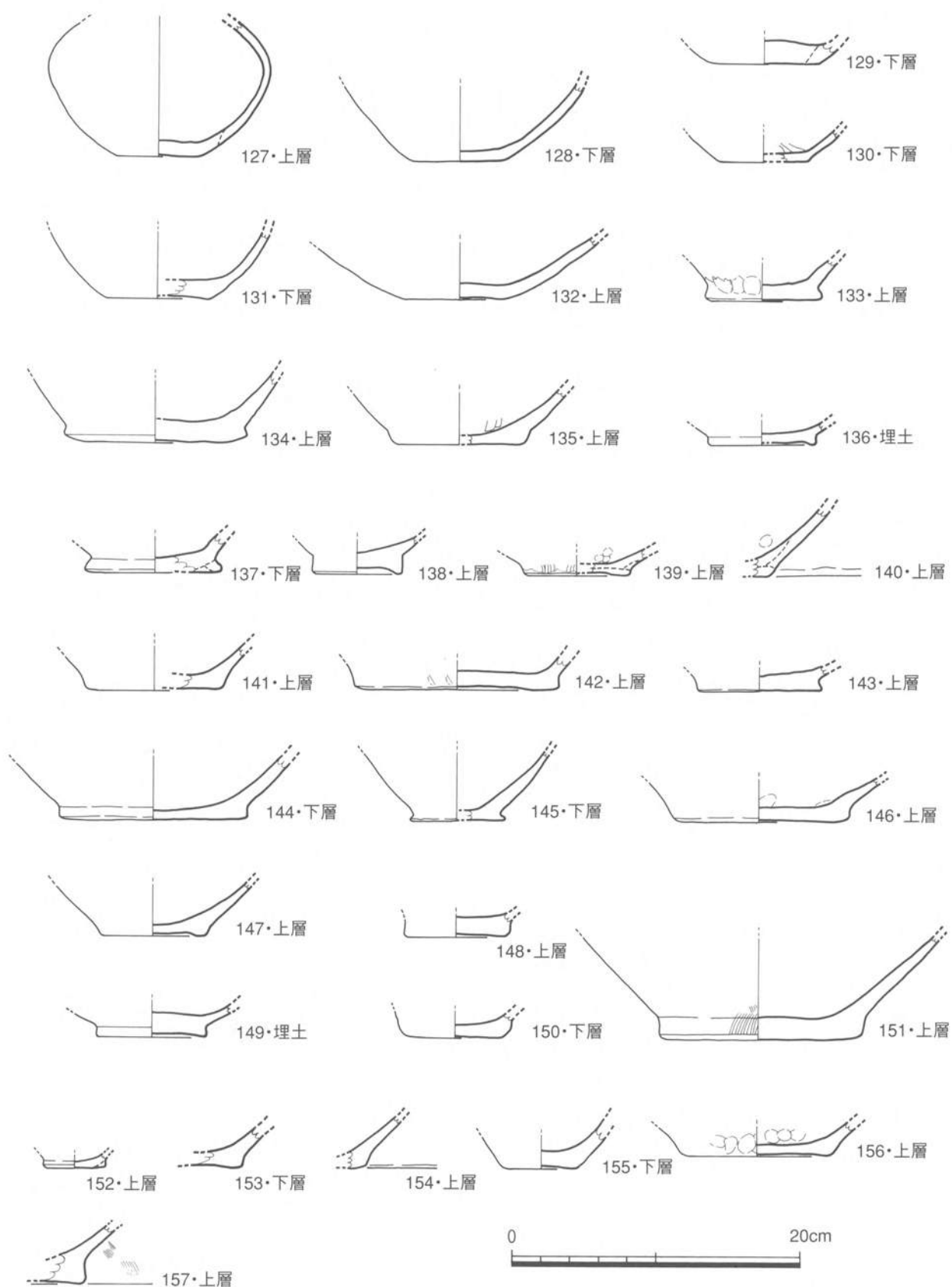
第30図 SD1出土遺物実測図3 (1/4)



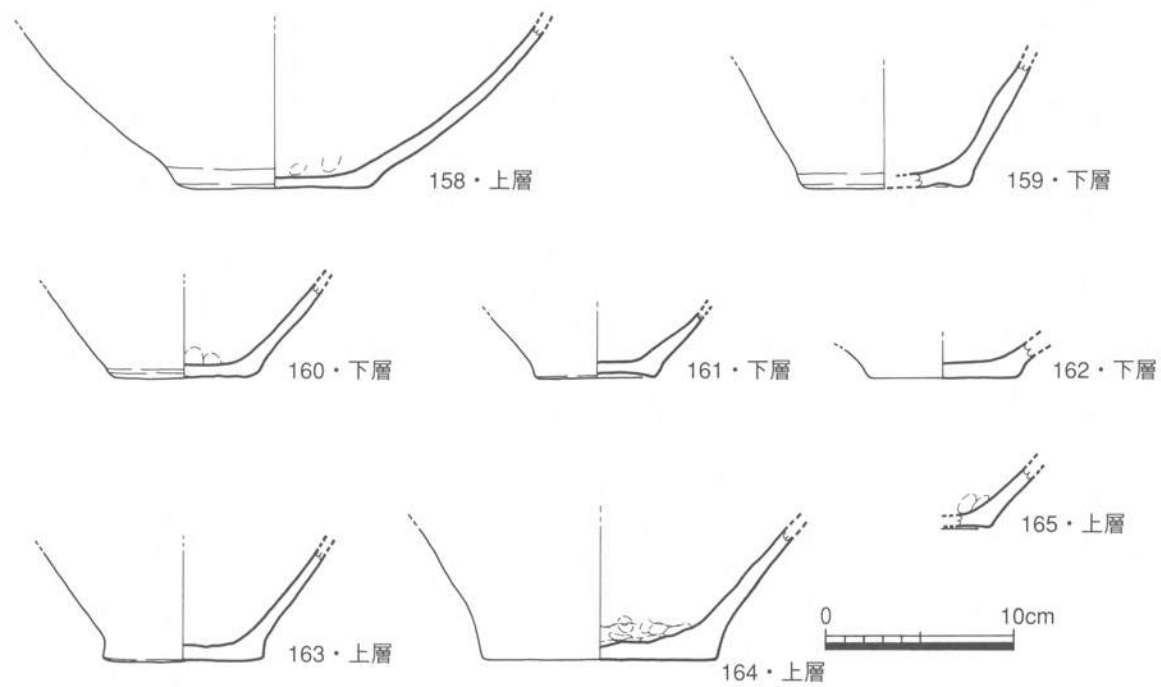
第31図 SD1出土遺物実測図4 (1/4)



第32図 SD1出土遺物実測図5 (1/4)



第33図 SD1出土遺物実測図6 (1/4)



第34図 SD1出土遺物実測図 7 (1/4)

面は指押え痕が明瞭に残る。43は外傾して直線的に立ち上がる胴部に、やや外傾傾きを意識した口縁部がつく。口端部はまるく、端部外側に浅い刻目を施している。器面は丁寧にナデて仕上げている。内面上部に指押さえ痕を残す。44は直立胴部に強く外反して口端部を外方に引き出す如意形口縁部片で、口端部全面に刻目を施したものである。45は小さく外反する口縁部の口端部は面をつくり、口端部外側に刻目を施したものである。46は外反して立ち上がる口縁部の口端部に面をつくり、口端部外側に浅い刻目を施したものである。47は直立気味の胴部に短く外反する口縁部がつく。口端部は丸みをもつが、刻目の有無は不明。48直立胴部にゆるく外反して立ち上がりがつく。口端部は尖り気味で丸く、刻目はない。49は外反口縁部の口端部はやや丸みをもち、端部に浅い刻目を施したものである。50は外反口縁部の口端部が面をつくり、口端部外側に浅い刻目を施したものである。器面は全体に丁寧なナデ調整を施している。

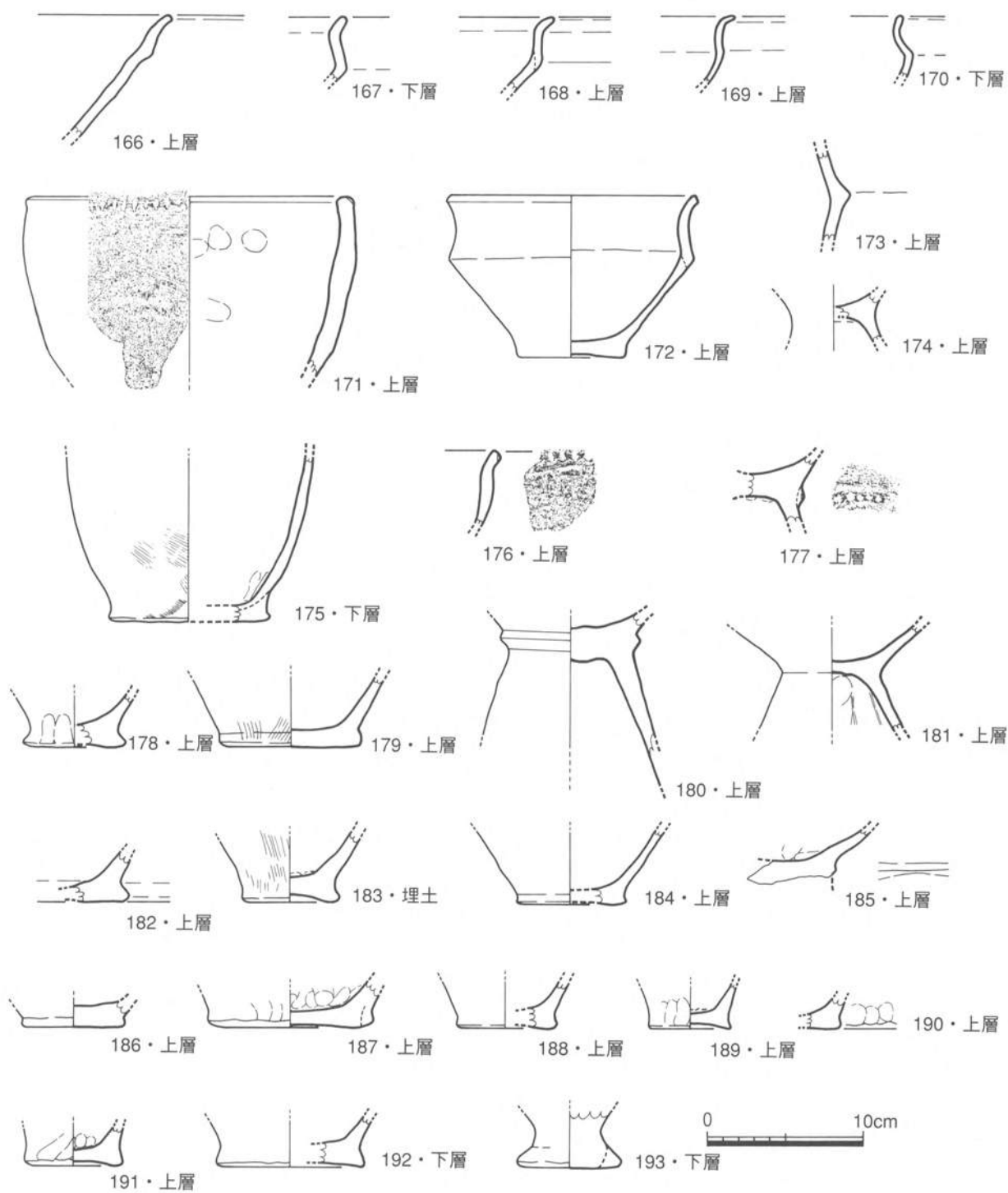
51から111は底部片である。底部は甕、壺、鉢の器形の判断が難しい。断面が明らかに台形となるものはない。台形状に底部を意識したもの、短く直立した後、外開きに立ち上がるもの、外反しながら立ち上がるもの、直線的に外傾して立ち上がるものがある。短く直立して立ち上がる底部は壺あるいは鉢としたほうがよいと思われる。55は壺としたほうがよい資料で、円盤状の平底に内湾して立ち上がる胴部の中位に薄い三角形粘土帯を貼り付けたものである。62・79は底部穿孔を施した甕である。175(35図)は鉢に入れているが、刻み目の存在から甕としておきたい。傾きは正確ではない。短く外反する口縁部の下端に刻み目を施している。器面は丁寧にナデている。

甕は器面に条痕を有するものではなく、刷毛目調整をもつものも少ない、逆に器面を丁寧なナデ調整で仕上げるという、壺の研磨ほどではないにしろ、器形及び技法に甕と壺の折衷が目立つ。

壺

壺の完形品はなく、器形を知りうる資料も甕に比べると少ない。

112は頸部と胴部境を1条の沈線で区画し、内傾して弱く外反する頸部が立ち上がり、口縁部が強くと外反して外開きとなる。口端部は丁寧に研磨により丸く仕上げられている。器面全体に丁寧な横方向の研磨調整を施している。内面は指押さえ痕が残る。口縁部位に黒斑が残る。113は底部を欠く壺である。扁球形の胴部は中位に最大径があり、頸部との境に段、沈線はない。頸部は内傾して直線的に立ち上がり、口縁部は短く折れて外開きとなる。口端部は丸い。器面は横方向の研磨を施し、内面は胴部上半から頸部下半にかけて指押さえ痕を残す。114は小壺の口頸部片である。内傾して立ち上がる頸部は均質ではない。口縁部は短く外反して外開きとなる。口端部は丸い。器面は横方向の研磨を施している。115は口縁部片で、外反する立ち上がりは外開きとなり、口端部は外方に引き出される。116は口縁部が短く大きく外反し、口端部は外方に引き出され、口端部は尖り気味となる。117は胴部と頸部境は段、沈線を有さない。直線的に内傾して立ち上がる頸部に、外反して外方へ引き出される口縁部がつく。口端部はやや尖り気味となる。内外面に丹塗り研磨痕が残る。118は直立気味の頸部に大きく短く外反して外方に折れる口縁部がつく。口端部は丸い。器面に研磨痕を残す。119は内傾して直線的に立ち上がる頸部に短く外反する口縁部がつく。口端部は丸い。器面は丹塗り研磨痕を残す。120は肩部上半の破片で、3本の平行沈線があり、下半に複線山形文を沈線で描く。器面は研磨痕を残す。121は扁球形の胴部片で、頸部との境には段、沈線は持たない。器面は研磨、内面に指押さえ痕を残す。122は扁球形の胴部上半片で、頸部との境及び最大径部位に1条の沈線を引き、間を1本の縦沈線を軸に4本単位の複線山形文を描いている。器面は黒色研磨後、丹を塗布している。123は肩部上半の破片で、3本の平行沈線があり、下半に3本を単位とする複線山形文を沈線で描く。器面は研磨痕を残す。124は頸部下半から胴部上半の破片で、境に段を設けている。器面は丹塗り研



第35図 SD1出土遺物実測図8 (1/4)

磨を施す。125は頸部と胴部は段、沈線で区画しない。器面は丹塗り横研磨を施す。126は10区の埋土中出土の鋤先口縁部片で、上面は平坦となり、口端部内側は尖り気味に引き出され、外端はやや角張る。上面内側に円形浮文を配する。丹塗りの痕跡を残す。

127～164は底部片で、平底の端部が丸みを有し、境が不明瞭となるもの（127～132・155）、台形様底部（133・134・137・143・145・157）、円盤状底部（136・138・142・144・146・149・151・152）、外反気味に立ち上がるものがある。

鉢

165は直線的に外傾して立ち上がる胴部に弱く外反する口縁部がつく。口端部は丸い。口縁部下に三角形粘土帯を貼り付けている。166は胴部屈曲部の上半部は内傾し、口縁部は短く外方に折れる。口端部は丸い。167は胴部屈曲部の上半部は直立し、口縁部は短く外方に折れる。口端部は丸い。168は薄手の破片で、胴部屈曲部は弱く、上半部は直立し、口縁部は短く外方に折れる。口端部は丸い。169は薄手の破片で、胴部屈曲部の上半部は内傾し、口縁部は短く外傾する。口端部は丸い。器面は横研磨調整。170は厚手の土器で、内湾して立ち上がる胴部に直立の口縁部がつづき、口端部は平坦となる。口端部のナデにより粘土が内側に引き出される。口端部外側にヘラ状工具による刻み目が施されている。口縁部は横ナデ調整。器面は板ナデ調整。内面はナデ調整。171は上げ底状の底部に直線的に外傾する胴部がつづき、屈曲部から上部は内傾し、外反する口縁部がつく。口端部下端が外方に引き出され、口端部に面をつくる。172は大型の屈曲部片である。

高坏

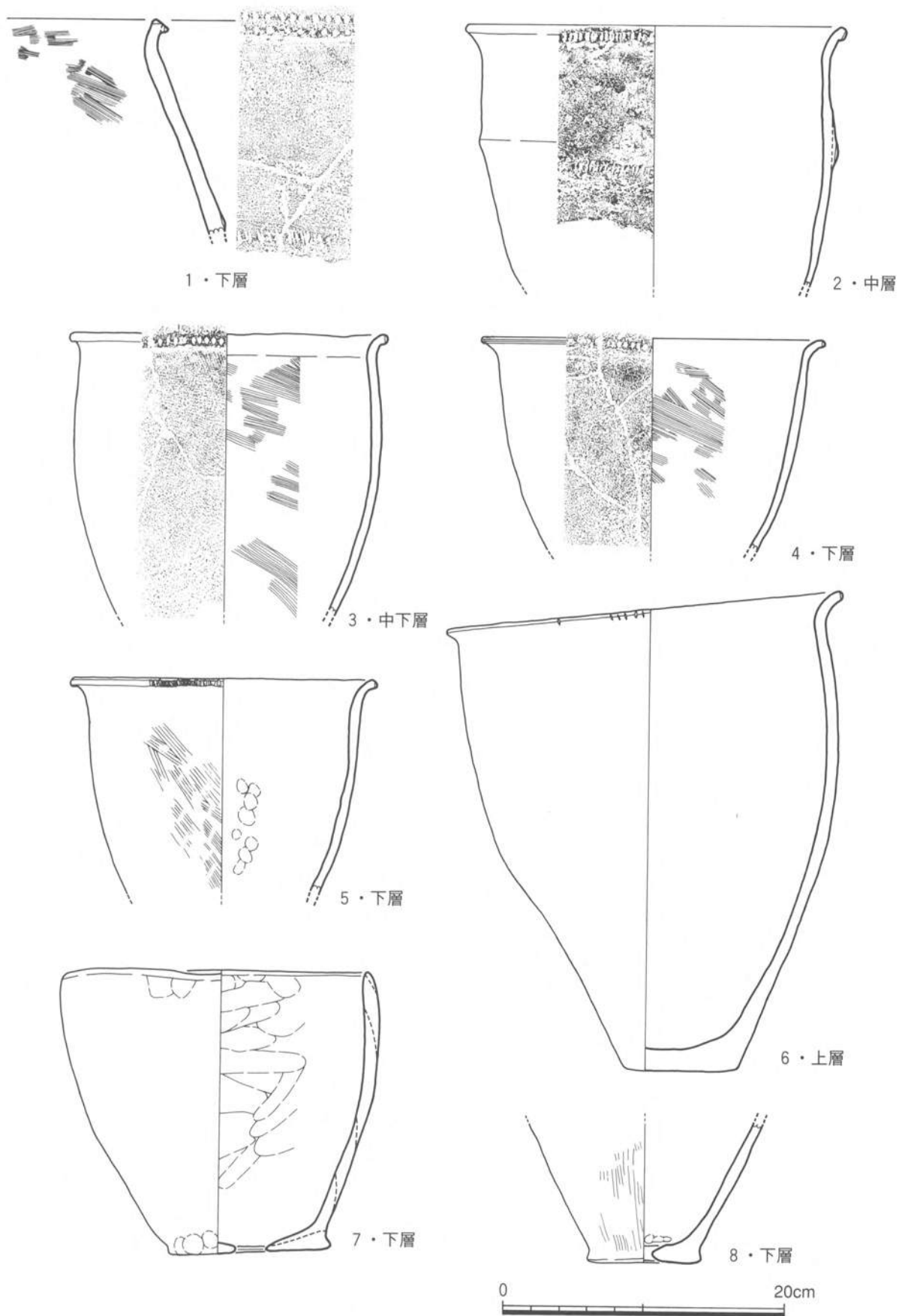
173は脚から坏部の破片で、突帯をもたない。176は脚部の付け根に三角形粘土帯1条を巡らせ、刻み目を施している。179は大型の高坏で、脚部の開きは小さい。脚部の付け根に三角形粘土帯1条を巡らせ、刻み目の有無は不明である。180は脚部の開きは大きく、内面を縦向きの板ナデを行っている。器面は研磨されている。184は脚部片で1条の粘土帯が巡り、器面を研磨している。

36) SD 2 出土遺物（第36～40図）

溝内の土層は溝の深さが1mを越し、概ね3～4層に分けられることから、遺物の取り上げは、綿密な層位ごとの取り上げをせず、上端からの深さ40～50cmを1層の単位としてあつかい、上・中・下・床面に分けて取り上げた。上層には弥生時代中期の遺物を含む。4区西半部では中・下層においてそれぞれ一群の遺物群を抽出することができた。ここではSD 2 出土遺物の全資料を整理できていないため、一部を報告するにとどめる。

甕

1は器壁の厚い大型甕で、胴部が屈曲し、屈曲部より上半は直線的に内傾して立ち上がる。口縁部は短く外反し、口端部は面をつくる。口端部は内外両方向へ引き出され、口端部内外端に浅い刻み目を施す。屈曲部には刷毛目工具による浅い刻目を施している。器面は口縁部付近を縦刷毛目調整、胴部を横刷毛目調整。内面は口縁部を横刷毛目、下半を縦刷毛目調整する。2は内湾気味に直立して立ち上がる胴部に如意形の口縁部がつく。口端部は丸みを有し、刻み目を施す。胴部の上位に薄い三角形粘土帯を貼り付け、刻み目を施す。器面はナデ調整で、一部に板ナデの痕跡を残す。3は内湾して立ち上がる胴部に如意形口縁部がつく。口端部に浅い刻目を施している。口縁部付近に縦刷毛目調整を施し、胴部は横あるいは斜めの刷毛目調整を施す。内面も刷毛目調整を施している。4は開きの大きい胴部に如意形口縁部がつく。口端部下端に浅い刻目を施している。器面は刷毛目調整後、板ナデを施す。5は胴部は内湾しながら外開きに立ち上がり、如意形口縁部がつく。口端部は外方へ引き出

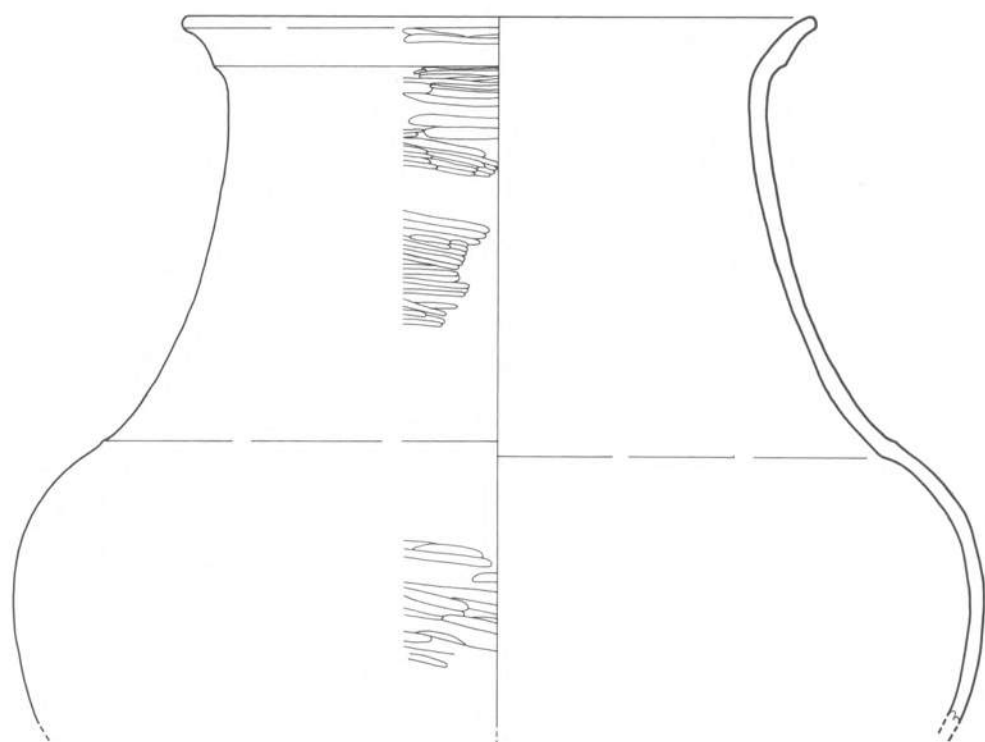


第36図 SD2出土遺物実測図1 (1/4)

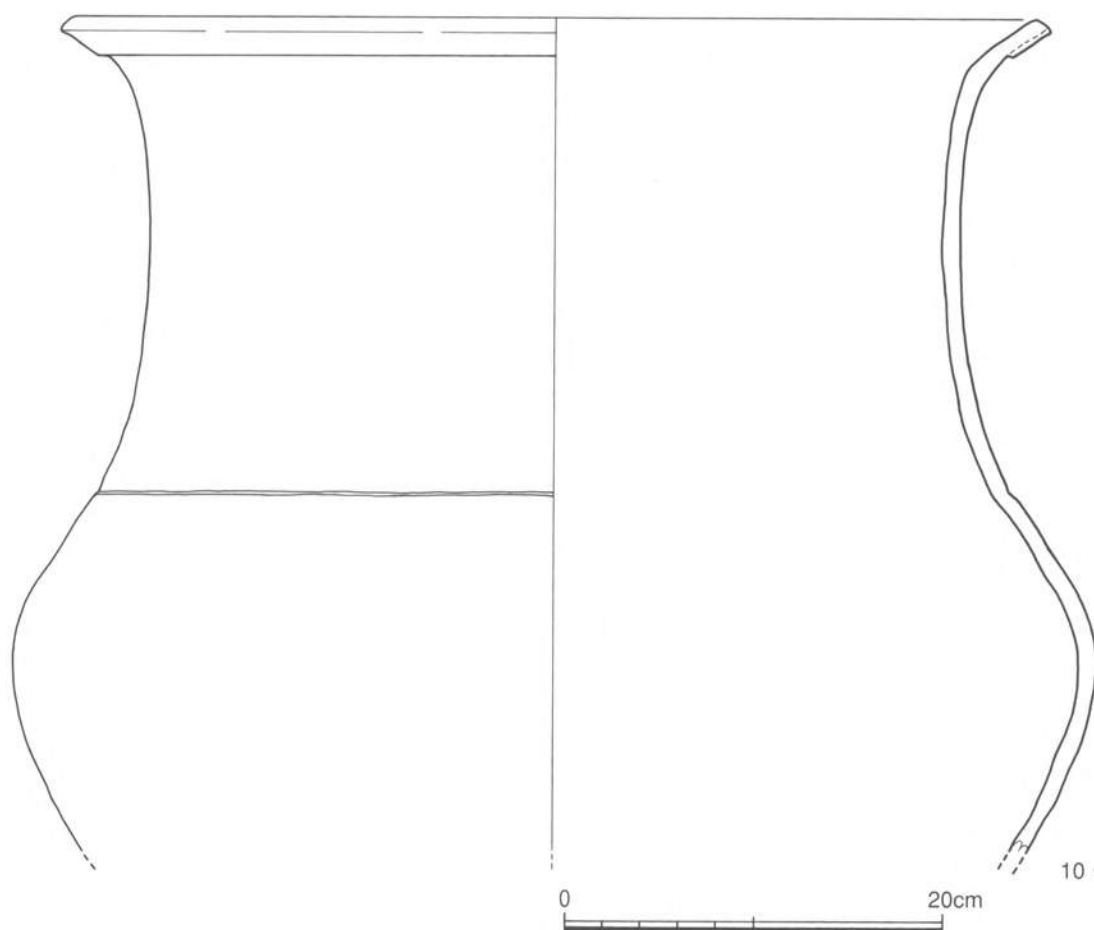
され、外側端部に浅い刻目を施す。器面は刷毛目調整。内面は指押さえ痕を残す。6は平底に直線的に立ち上がる胴部下半に、外膨らみの胴上半部がつづき、如意形口縁部がつく。口端部は丸く、端部に浅い刻目を施す。7は厚手の甕で、台形様底部に内湾気味に直立する胴部がつづき、直立のまま口縁部となる。口端部は丸い。器面はナデ調整と指押さえ痕を明瞭に残している。底部中央に焼成後に穿孔を施す。8は甕底部片である。やや上げ底状の底部は台形様で、胴部下半は直線的に立ち上がる。器面は縦刷毛目調整。内底部に指押さえ痕を残す。底部中央に焼成後の穿孔を施している。

壺

9は胴部下半を欠く大型壺である。扁球形の胴部は肩が張り、頸部との境は弱い段となって区画する。頸部の立ち上がりは高く内傾し、緩やかに外反する。頸部上半は直立気味である。口縁部は強く外反し、外側が外反気味に肥厚する。肥厚部下端は厚みを増して段を有する。口端部は丸い。外面は横方向の丹塗り研磨調整を施している。内面は口縁部を横研磨調整。胴部に黒斑を認める。10は3区西半下層と4区西半中層の資料が接合した壺である。胴部下半を欠いているが、扁球形の胴部上位に最大径がくるが、肩の張りは9に比べ緩い。頸部との境は段をつくって区画している。頸部は高く、外反しながら直立する。口縁部は大きく外反し、外側が肥厚し、肥厚部下端は明瞭な段を有する。口縁端部は面をつくる。器面は全面を横方向の丹塗り研磨調整を施している。内面口縁部も丹塗り研磨調整を施している。11は球形胴部の上位に最大径があり、頸部との境は段で区画する。頸部は直線的に内傾して立ち上がる。胴部上半の上下に3本の平行沈線を配し、間を3本単位の複線山形文を沈線で表現する。器面は丹塗り研磨を施している。内面は指押さえ痕を残す。12は内傾して直線的に立ち上がる頸部に大きく外反する口縁部がつく。口縁部外側は肥厚口縁を意識した浅い段が残る。口縁部から器表面は丹塗り研磨調整。内面は指押さえ痕を残す。13は台形様底部に肩の張る球形胴部がのり、頸部との境は浅い段がつく。頸部は直立気味に外反し、口縁部は短く外反する。口縁部外側に頸部と区画する沈線が1条巡る。胴部上端に2本、胴部最大径部位に1本の沈線を巡らし、間に4本単位の複線山形文を配する。頸部には2本2組単位の縦沈線が3箇所配されている。器面は丁寧な研磨調整を施している。14は直立頸部に大きく外折れする口縁部がつく。口縁部外側が肥厚し、段をつくる。口端部下端が引き出され、口端部に面をつくる。口縁部横研磨調整。内面下半に刷毛目調整。15は平底に扁球形の胴部がのり、最大径が中位にくる。器面は研磨調整。16は平底に球形胴部がのり、最大径部位は上位にくる。頸部との境は不明瞭である。頸部は内傾して立ち上がるが、頸部上半は直立する。口縁部は二段に折れながら外反し、口端部は外方に引き出される。口端部は丸い。器面は丁寧なヘラ研磨調整を施す。17は円盤状底部に扁球形の胴部がのり、最大径部位は中位にくる。胴部と頸部の境は2条の沈線で区画し、頸部は短く内傾して立ち上がり、大きく外反する口縁部がつく。口端部は尖り気味となる。器面は丁寧な横研磨が施されている。18は平底に長めの胴部がのり、短い頸部に外反する口縁部がつく。19は上げ底の円盤状底部に算盤玉様の胴部がのり、最大径部位は上位にくる。頸部との境は1条の沈線で区画する。20は平底に扁球形の胴部がのり、最大径部位は上位にくる。胴部下半に外傾接合痕を明瞭に残す。21は台形様の底部に半球形の胴部がのり、頸部との境は弱い段で区画する。頸部は直線的に内傾して立ち上がり、口縁部は強く外反して口端部は外方に引き出される。頸部に横位の板ナデ調整。胴部に横研磨を施している。外傾接合痕を明瞭に残す。22は胴部中位片で、最大径部位で屈曲する。屈曲部位の直上に2条の平行沈線を配し、その上位に沈線で複線山形文を配している。器面は丁寧な横研磨を施している。23は胴部上半片で、最大径部位の直上に4本の平行沈線を配し、上位にも平行沈線を描く。間に4本単位の複線山形文を描く。24は大型壺の台形様底部である。器面は底部に縦刷毛目調整。胴部は研磨調整を施している。25は大型壺の平底に大きく開きな

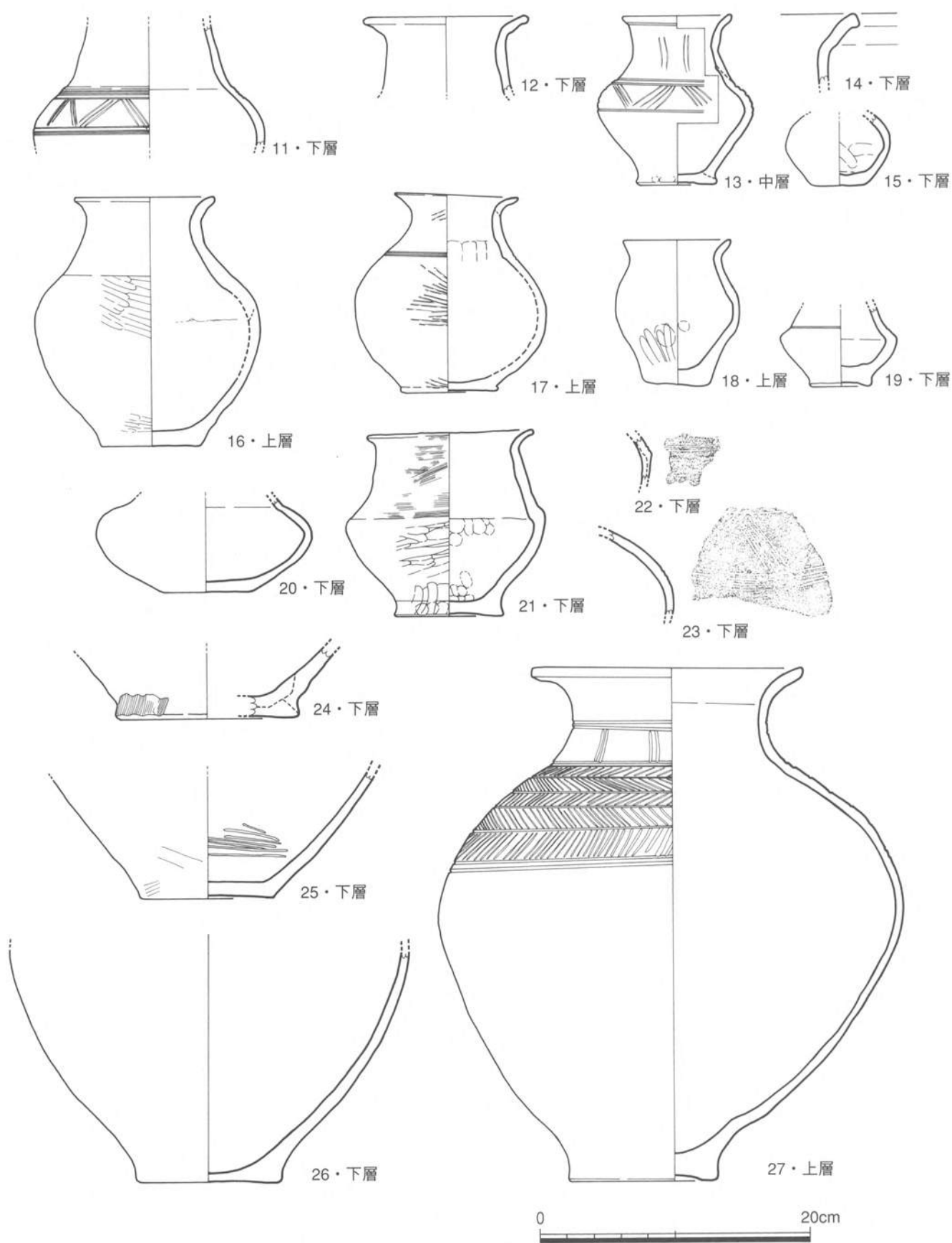


9・下層

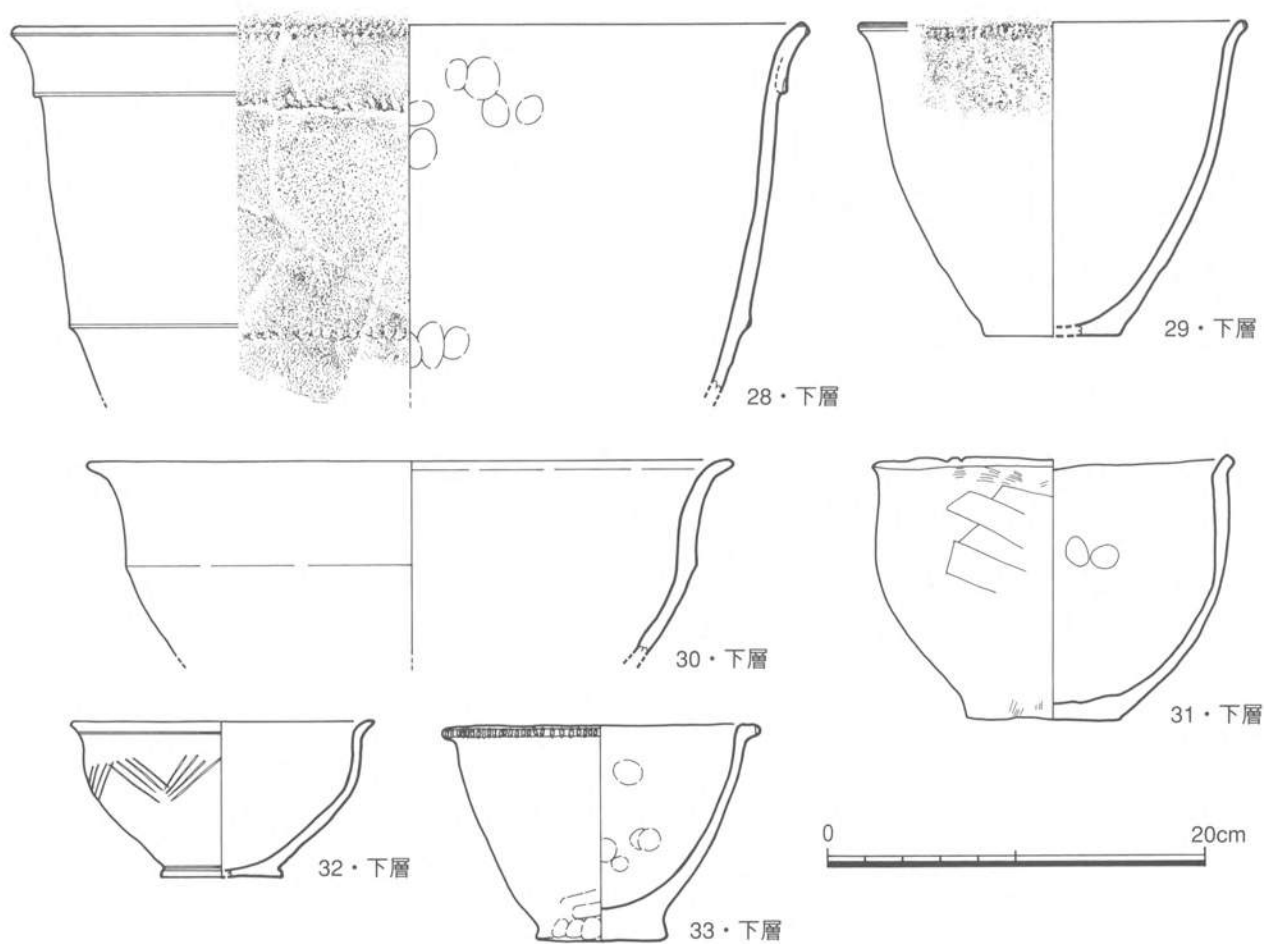


10・中下層

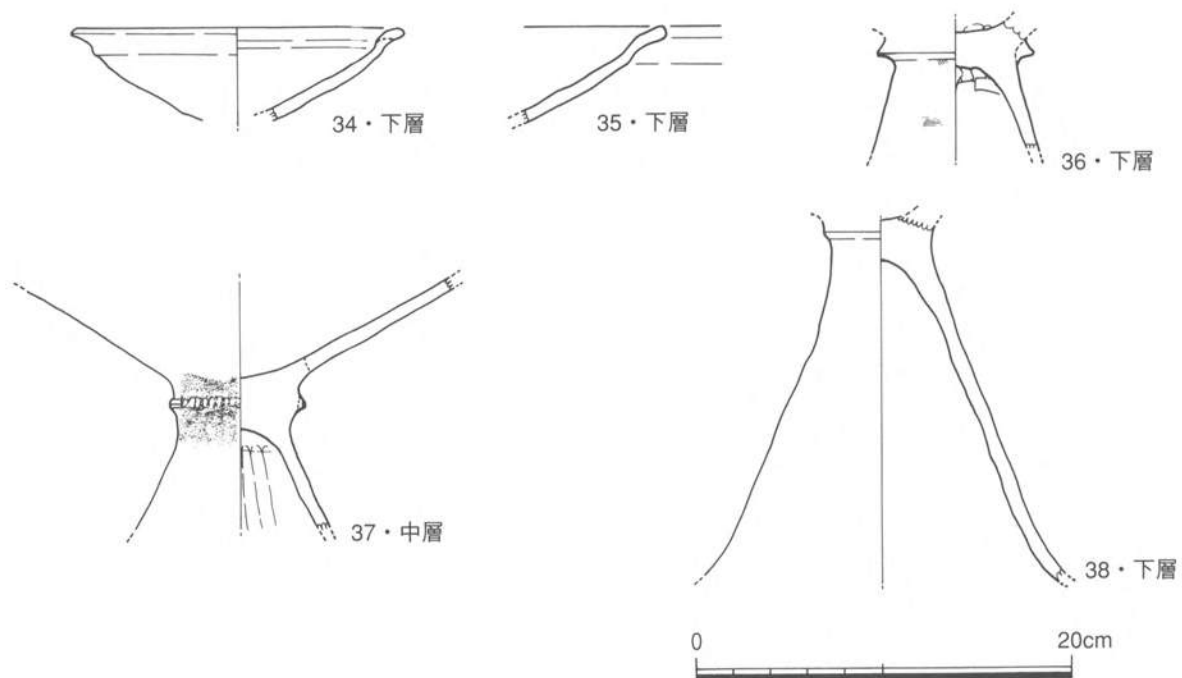
第37図 SD2出土遺物実測図2 (1/4)



第38図 SD2出土遺物実測図 3 (1/4)



第39図 SD2出土遺物実測図 4 (1/4)



第40図 SD2出土遺物実測図5 (1/4)

がら立ち上がる胴部がつく。26は大型壺の平底に長い胴部が続く。27は12区上層の大型壺で、上げ底にやや長胴気味の胴部がのり、最大径部位は上位にくる。頸部との境は不明瞭で、2条沈線で区画する程度である。頸部が外反して直立気味に立ち上がり、そのまま大きく外反する口縁部につづく。口端部は丸みを帯びる。文様は胴部上位に2条平行沈線を設け、頸部境の2条平行沈線との間に有軸羽状文を配する。頸部中位にも2条平行沈線を配し、胴部との境に2本単位の縦沈線を配している。

28は2区下層出土の甕で、胴部は中位で弱く屈曲し、緩く内湾しながら外開きに立ち上がり、口縁部が小さく外反する肥厚口縁部がつく。肥厚部外側下端に段を有する。口端部は面をつくり、口端部の内外端、肥厚口縁部の下端の3箇所に浅い刻目を施す。胴部の中位にも薄い粘土帯を貼り付け、浅い刻目が施されている。外面は縦刷毛目調整、内面は指押さえ痕を残す。29は2区下層出土の甕で、平底に緩く内湾しながら外開きに立ち上がる胴部がのり、如意状口縁部がつく。口端部は丸みを有する。口端部に浅い刻目を施す。器面調整は不明。

鉢

30は1区下層出土の丹塗り研磨の鉢破片で、緩く内湾して外開きに立ち上がる胴部は口縁下5.5cmの位置で屈曲反転し、外反口縁部がつく。口端部は丸みを有する。器面は屈曲より上を刷毛目調整後に横方向の丹塗り研磨を加え、下半は板ナデ調整。31は6区下層出土の鉢で、平底に内湾して外開きに立ち上がる胴下半部に、直立する胴上半がのり、口縁部は短く屈曲して外へ折れる。口端部は面をつくる。外面は刷毛目調整。内面は指押さえ痕を残す。32は6区下層出土の鉢で、台形底部に内湾気味に立ち上がる胴部がつく。胴上半部は直立し、強く短く外反する口縁部がつく。口端部はやや尖り気味となる。器面は丁寧な丹塗り研磨を施し、胴部上半に4本一単位の沈線で、端部が連続しない複線山形文が描かれている。33は6区下層出土の鉢で、厚みのある平底は台形状となり、胴部は内湾して外開きに立ち上がる。口縁部は強く屈曲させて横外方に引き出し、口端部を丸くおさめる。口端部にヘラ状工具による浅い刻目を施す。器面はナデ調整を施し、内面は指押さえ痕を残す。

高坏

34は坏部片で、外開きの浅い坏部の屈曲部に「く」の字に反転する口縁部がつき、口端部は横外方へ引き出される。口端部は丸い。器面全体に丁寧な横研磨調整を施している。35は丹塗り研磨の坏部片で、外開きの浅い坏部の屈曲部にくの字に反転する口縁部は外に折れる。口端部は横外方へ引き出される。口端部に面をつくる。36は高坏脚上半部片で、脚部付け根に高い三角形粘土帯を1条巡らせる。脚部は直線的に開く。脚部内面は指押さえ痕を残す。37は脚部付け根に三角形粘土帯を1条巡らせ、浅い刻目を施している。坏部は大きく開く。38は脚部付け根に三角形粘土帯を薄く1条巡らせ、脚部は直線的に開き、下半は外反する。

37) SD1・2出土石器 (第41図)

打製石鏃 (1～5)

打製磨製石鏃は、三角鏃で基部はほぼ平坦なものと緩やかな挟りが入るものがある。石材は黒耀石が大半で、安山岩製が一点認められる。

磨製石鏃 (10～12)

いわゆる柳葉形の有茎磨製石鏃で、完形品は認められないものの6個体を検出している。身の中央に鑄がとおり、茎の断面は丸みを帯びた六角形となる。12は、幅広のもので、他のものとは形式が異なる。

磨製石剣 (13・14)

いずれも破片であるため全体の形状は不明であるが、身には鎬がとおる。14は、刃部鎬部分が剥離したもので他の部分を欠損する。

スクレイパー（8・9）

8・9ともに縦長剥片を素材として腹面から背面へ剥離を行い刃部を形成している。

石斧（15～18）

出土石斧には、蛤刃石斧・扁平片刃石斧・柱状片刃石斧があり、未製品・破片を含めると27個体を数える。15は、蛤刃石斧で、基部を欠損する。16・17は、扁平片刃石斧で、16は刃部を欠損する。18は、柱状片刃石斧で、石ノミと呼ばれるものである。他に図示していないが、浅い抉り入りの柱状片刃石斧も出土している。

石包丁（19・20）

19は、外湾刃半月形で、中央に1穴両面から穿孔する。20は、過半を欠損するものの外湾刃半月形と思われ、穿孔は両面穿孔である。

石錘（21）

楕円形の自然石の両側面に抉り部を作成し錘としている。

石核（6・7）

石核は、黒耀石のみで、39個体を数える。主に長さ3cm前後の方形～不整円形の剥片を2～3枚剥ぎ取るものが多く、石鏃を作成することを主目的として剥片剥離を行ったと考えられる。剥離方法には法則性は見受けられず、目的の剥片を得るために任意の場所から剥離作業を行っている。

その他、今回は図示し得なかったが、SD1・2からは、膨大な量の石器が出土している。これらの組成については、表3を参照とされたい。

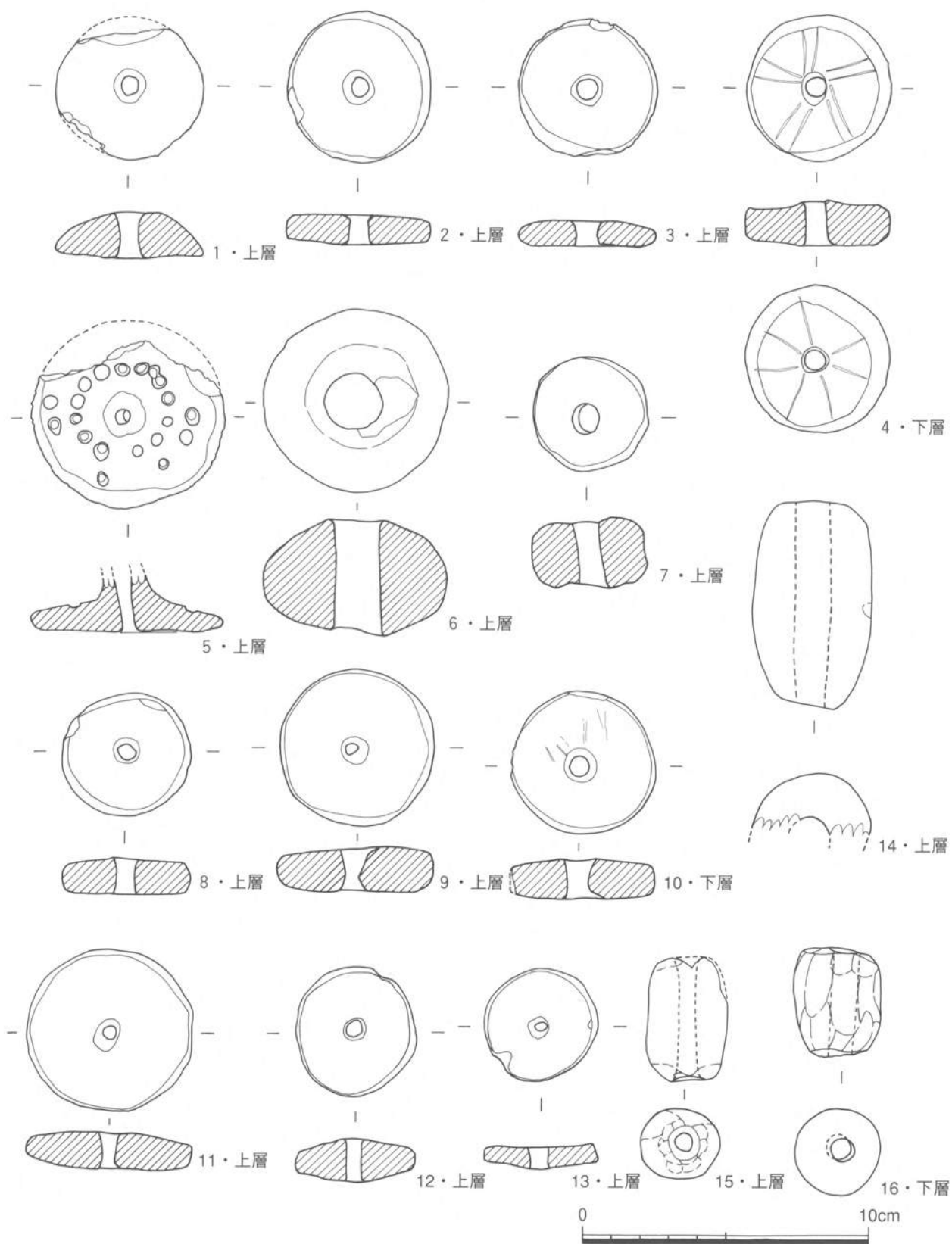
38) SD1・2出土土製品（第42図）

紡錘車（1～13）

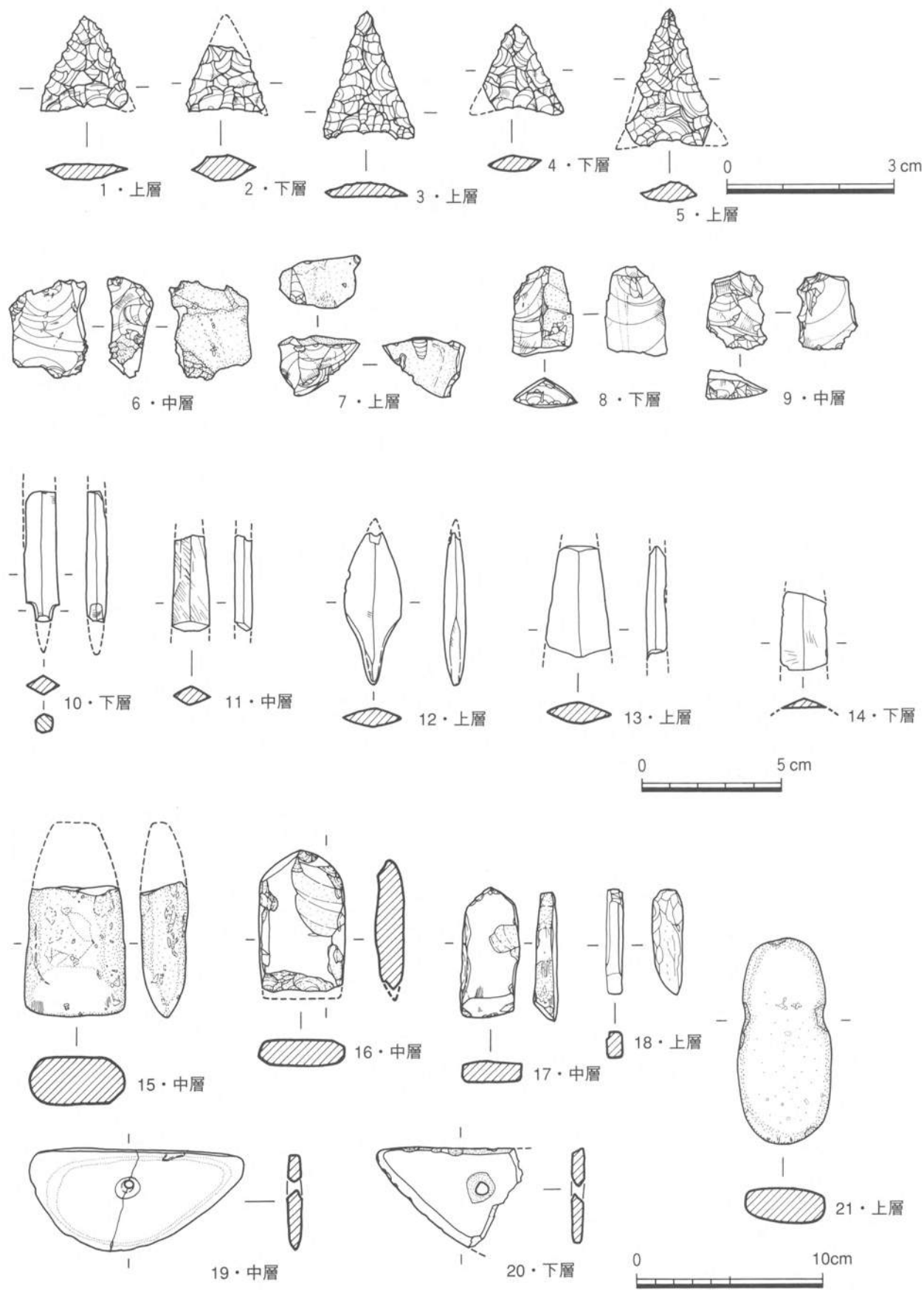
紡錘車は、19点が出土し、内訳は、SD1が3点、SD2が16点である。4は、両面に放射状の沈線を施すもので、両面とも研磨調整である。5は、背面に孔を中心に同心円状に刺突による浅い穴が施されている。

土錘（14～16）

出土した土錘は、いずれも管状土錘で、軸断面は楕円形を呈す。



第41図 SD1・2出土土製品実測図 (1/2)



第42図 SD1・2出土石器実測図 (1/1・1/2・1/3)

第3章 ま と め

1) 環溝について

東郷登り立遺跡は、2回にわたる土地の造成を受けて、旧地形から1m以上削平されており、集落遺跡にある住居跡などは消滅し、掘り方の深い溝及び谷部の井戸などが残っていた。主要遺構は断面V字形の溝で、SD1は南端部から東西方向に広がる弧状の溝で、現状で東西に100m、南北で40mを測る。この溝は東側では谷に消え、西側はSD2に切られて消滅する。SD1は南北に延びる台地を東西に掘り切る溝であり、調査区最南端の台地稜線の位置に溝を掘りきらない陸橋部をつくり、ここから東側では、谷に消滅する間に溝中に2箇所の仕切りを壁を掘り残す特徴を有するが、用途は不明である。溝底の標高は陸橋部よりやや西側で最も深くなり、ここから東西に向かって下降する傾斜を有する。

SD2はSD1の末端をつなぐ弦状溝で、西側ではSD1の末端を切り、ここから断面がU字形となってさらに西に延びた後、向きを北に変えて調査区外にさらに続くものと思われる。東側では谷の奥で自然消滅する。調査区の東端ではSD1の延長線上に断面V字形の溝が谷を挟んで出現するが、この溝の下層から口縁下に沈線を1条巡らす甕が出土しており、この溝はSD1の延長溝ではなく、SD2が谷を挟んで北に方向転換して延びる延長溝として捉える方が解釈しやすい。溝底の標高は陸橋部よりやや西側で最も深くなり、ここから東西に向かって下降する傾斜を有する。SD2の溝底はSD1に比べて数10cmほど低くなっている。

溝に囲まれた空間には住居跡、貯蔵穴が推定できるが、調査では確認できなかった。

西側での遺構切り合いから、SD1が先行して掘られ、その後にSD2が掘削されたものであるが、削平の規模が大きいことから、溝がどの程度埋まってきた段階で掘られたものかは不明である。仮に一定期間SD1・2が共用されていたものとし、完掘されないまでも、ほぼ台地状の環溝として復元してみると、その平面形は既存調査の環溝遺構と比べると、弧状溝と弦状溝で構成される板付遺跡に類似し、本遺跡の谷部分を板付環溝の溝を掘り切らない空間に対応させると、その企画性に類似がみられる。環溝内には一定の削平を受けていながら掘り込みの深い袋状堅穴の痕跡が確認されていない。東郷登り立遺跡の立地、遺跡の規模、SD2上層の中期土器、前期環溝の外側に後期の溝が部分的に確認されたこと。さらに、谷部分を中心に主に弥生時代後期以降、平安時代までの土坑、井戸が出土していること、台地基部の高位丘陵に古墳時代前期の前方後円墳である東郷高塚古墳が存在することなどから、本遺跡は宗像地域における弥生時代前期からの中心的な拠点集落とすることができよう。

宗像地域には弥生時代前期の溝を有する遺跡として古賀市井手流遺跡、津屋崎町今川遺跡、宗像市大井三倉遺跡、光岡長尾遺跡、東郷登り立遺跡があり、ともに弥生時代前期の環溝遺跡として重要である。弥生時代の環溝集落の変遷をたどると、今川遺跡の3号住居跡および包含層形成の時期に並行して東郷登り立遺跡の拠点集落形成がはじまるものと考えておきたい。さらにこの拠点集落を軸にして今川遺跡および大井三倉遺跡の環溝集落が形成されたものと思われる。光岡長尾遺跡は出土遺物から上記の3遺跡からは時期がくんだり、環溝内に住居を持たず、袋状堅穴のみを守る特色を有する。この時期、光岡長尾遺跡のような環溝をもたないが、丘陵頂部に袋状堅穴群が集中して造営される遺跡が形成される。

以上から、弥生時代の宗像地域は前期初めの環溝集落形成と前期後半の貯蔵施設の集中管理のはじ

まりに集落形成の画期を求めることができる。

2) 弥生時代前期の土器について

前期の土器はSD 1・2 及び土坑から出土したが、SD 2 出土土器については大半が図化できていないため、今後の課題としたい。SD 1 については破片が多く良好な状態ではないが、一部混入があるものの比較的まとまったものであり、検討を加え、一部SD 2 についても触れてみたい。

SD 1 出土土器は甕、壺、(浅)鉢、高坏であり、

甕 1 類 胴部上半が屈曲し、口縁部と屈曲部に刻み目突帯を有するもの(胴部に突帯を有しながらも刻み目のないもの、屈曲部が内折れ、外折れ、不明瞭なものも含む)。

甕 2 類 胴部が内湾しながら外傾して立ち上がり、口縁部に刻み目突帯を有するもの。

甕 3 類 直立気味に立ち上がる胴部に口縁部が連続して続き、口端部に直接刻み目を施すもの(外傾、外反志向のものを含む)。

甕 4 類 胴部が内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反して口端部に刻み目を施すもの。

壺 球形胴部に内傾して立ち上がる頸部がつき、口縁部が短く強く外反する。

鉢 坏部上半が屈曲し、口縁部が外反するもの。

高坏 脚部付け根に突帯を付すもの。1 条突帯に刻み目を付すものと付さないものがある。

突帯を有する甕の口縁部片は直立するものと、外反気味に立ち上がるものに分けられることから、甕 1・2 類に属する。甕 1 類は胴部屈曲部以上の傾きが内傾するものではなく、直立か外反するものを特徴とする。器壁が薄く、貼り付け突帯の粘土はそれほど高くない。刻み目はヘラ状工具で浅く刻み込まれている。器面に条痕をもつものではなく、すべて板ナデもしくは刷毛目調整、ナデ調整となっている。これらの特徴を有する甕は古賀市井手流遺跡 3 号溝及び津屋崎町今川遺跡遺物包含層、宗像市大井三倉遺跡 1・2 号溝に数点ずつみられる。

甕 2 類は口縁部の細片が多く 1 類との仕分けが難しく、甕 1 類に入る可能性もある。

甕 3 類は直立口縁部の口端部に刻み目を直接施すものである。器壁は甕 1 類同様に薄く、やや傾きをもつもの、口縁部が少し外に屈曲を示すものがある。器面調整はすべて板ナデもしくは刷毛目調整、ナデ調整である。刻み目は①口端部全面に入れるもの、②口端部外端に入れるもの、③口端部内端に入れるものがある。今川遺跡 3 号住居跡及び遺物包含層にみられる。

甕 4 類は如意形口縁に刻み目を付すものである。明瞭に如意形口縁とするのは 44 (29 図) であり、他の資料は如意形志向の傾きをもち、口端部に全面、口端部外端に刻むもの、刻み目をもたないものがある。井手流遺跡 3 号溝、今川遺跡 3 号住居跡、遺物包含層にある。

壺は外反口縁部の外側に粘土を貼り付けて肥厚させる壺を含まず、内傾頸部に短く外反する口縁部がつく特徴を有する。出土資料が少ないことがネックであるが、このことは井手流遺跡 3 号溝、今川遺跡 3 号住居跡、遺物包含層にも共通してみられる。

鉢は屈曲部から短く外反して立ち上がる口縁部は内傾、直立、外傾、直線的となるものに分かれる。以上の出土土器の観察から①器壁が厚手で、厚底の台形底部を有し、器面を条痕調整する深鉢形土器をもたない②屈曲型 2 条突帯を有する甕が比較的多くみられる、③器種構成に肥厚口縁壺をもたない、④如意形志向の甕が認められることなどから、本遺跡の SD 1 の土器は井手流遺跡 3 号溝、今川遺跡 3 号住居跡、遺物包含層に並行し、那珂遺跡の溝より新しくなること、雀居遺跡 5 次調査 SK188 より先行するといえる。

今川遺跡の V 字溝出土資料で如意形口縁甕に肥厚口縁壺が相伴する板付 I 式新段階が設定されたが、

今回の調査で、宗像地域の板付Ⅰ式平行期に如意形口縁甕に肥厚口縁壺を伴わない夜臼式壺を組み合わせを設定できるものと思われるが、さらに資料の増加を待ちたい。

SD 2 は図示した土器は 6・16・17・18・27 が上層の出土であり、他は下～中層出土である。大型壺の 9 は 4 区西半下層、10 は同じ 4 区西半の中層と 3 区西半の下層が接合した土器である。

甕は如意形口縁甕を主体となるが、口端部内外端に刻目を付す甕（36図1）、肥厚口縁、刻目突帯を取り混ぜた折衷甕（39図28）。屈曲は失われるが、胴部に刻目突帯を残す甕（36図2）がある。また、直立口縁甕がある（36図7）。

大型壺は頸部が高い肥厚口縁壺（37図9・10）がある。小壺は肥厚口縁部はないが、外反口縁部が二段に折れるものがあり（38図12・13など）、口縁部外側下端に弱い段を残す。

鉢は口縁部の外反度は弱くなるもの（39図30・32）。口端部を横外方に引き出し、口端部に刻目を付す鉢がある（39図33）。

高坏は坏部上半の屈曲度が緩やかになり、口縁部の立ち上がり及び外反も弱くなる（40図34・35）。

小壺・鉢に付された文様はSD 1・2ともに彩文はなく、肩部上半に直線による複線山形文を配するへら描き沈線文が主体で、重弧文はない。また、SD 2 上層に有軸羽状文が認められる。

SD 2 出土土器は如意形口縁甕、有段甕、沈線甕（トレンチ17下層）、肥厚口縁壺、外反口縁壺があり、時期的に幅があるが、SD 1 に後続する時期におさまるものと思われる。

単位：m

表1 東郷登り立遺跡遺構一覧表

遺構名	遺 構 種 別	長軸 (径)	短軸 (径・幅)	深 さ	時 期	出 土 遺 物	備 考
SX3	飼育用遺構?		0.32~0.08	0.04	弥生後期	鋤先・跳ね上げ口縁	住居?
SP12	土坑	0.46	0.36	0.08	弥生後期	土器	
SK19	土坑	1.3	0.9	0.82	弥生後期~古墳初	土師器口縁	SD2を切る土坑
SK21	井戸	1.04	0.83	0.6~0.45	弥生前期後半	刻み目付甕口縁	SD2を切る土坑
SK22	不整形土坑	1.95	1.85	0.74~0.52	弥生後期~終末	直口壺、高杯	
SK24	不整形土坑	1.2	1	0.39~0.19	?	無し (不明)	
SC25	方形住居跡	4.6	2.5+ <i>a</i>	約0.35	古墳後期 6 C	須恵器、土師器	4 本柱
SK26	円形土坑	0.74		0.26~0.21	弥生後期前半	跳上・鋤先縁甕	高三瀦式併行
SK28	楕円形土坑	3.9	1.9	1.7~0.8	?	無し (不明)	
SK30	土坑	3.20~?		約0.05	弥生後期	甕底部、跳上口縁	底面に粘土・灰
SP56	円形土坑	0.39		0.24	弥生前期	完形小壺	
SK61	ドングリ土坑	1.1		0.2	弥生後期	鼓形器台?、中期甕片	円形部のみの計測値
SK62	円形土坑	1.2		0.14~0.1	弥生中期後~後期	土器	
SK63	円形土坑	0.95		0.57~0.53	弥生中期~終末	土器	
SE67	井戸? 2 段目	1.2 0.42		0.73 0.3	古代~中世	石鍋片、滑石製品?	不整円形 2 段掘り土坑
SK74	ドングリ土坑? 2 段目	2.3 1.53		0.15 0.45~0.15	弥生後期	土器	2 段掘り
SP76	円形土坑	0.5		0.22	?	無し (不明)	
SK77	円形土坑	2.04	0.69+ <i>a</i>	0.35	弥生前期?	蓋・如意状口縁・石斧	1/2を削平される
SD78	溝		1.2~0.4	0.7~0.5	弥生後期	土器	断面長方形~逆台形
SD79	溝		0.75~0.40	0.7~0.55	弥生後期	土器	断面逆台形~V字形
SE80	井戸 2 段目	3.65 0.6		1.4 0.3	中世	土器・白磁・瓦器 格子目タタキ瓦	円形土坑

単位：m

遺構名	遺 構 種 別	長軸 (径)	短軸 (径・幅)	深 さ	時 期	出 土 遺 物	備 考
SK82	楕円形土坑	2.5	1.9	0.4~0.2	中世~近世	土器・すり鉢	SK83を切る
SK83	円形土坑	2.3		0.4~0.3	弥生後期	土器	
SK84	住居?	3.8+ <i>a</i>	3.5	0.2	近世	石棒・土師皿	石棒は砥石の可能性あり
SK87	井戸?	1.28	1.17	0.75	弥生後期?	土器	
SE88	井戸	2.07		1.2	中世	土器	
SK89	円形土坑	2.4		0.33	?	無し (不明)	
SP92	円形土坑	0.27		0.25	?	土器小片 1	
SK93	井戸? 2 段目	2.1 0.83		0.61 0.23	弥生後期	土器・木片、支脚	2 段
SK95	ドングリ土坑 2 段目	2.5+ <i>a</i> 1.42	1.98+ <i>a</i>	0.3 0.45	弥生後期~古墳初	土器・土師器	2 段、下段は円形ビット
SK96	ドングリ土坑?	1.55	1.37	0.3	古墳初	小型器台脚部、低脚杯	
SE98	井戸	1.87+ <i>a</i>	0.5+ <i>a</i>	1.1	中世	瓦器	調査区境にあり未完掘
SE99	井戸	1.64	1.35	1.55	弥生後期	土器	底面に石あり
SK100	楕円形土坑 2 段目	1.26 0.77	0.87	0.1 0.3	弥生後期	土器	2 段
SK101	隅丸方形土坑	2.33	1.1+ <i>a</i>	0.16	弥生後期?	土器	
SK102	隅丸方形土坑	1.92	1.45	0.28~0.13	弥生後期	高杯・鉢	
SP103	楕円形土坑	0.65	0.5	0.1	?	無し (不明)	
SK105	楕円形土坑	2.4	1.43	0.62~0.28	弥生前期	ほぼ完形小壺	
SK107	円形?土坑	1.0+ <i>a</i>		0.28	弥生後期	甕片他	ST17内、調査区境にあり未完掘

表2 東郷登り立遺跡出土遺物観察表

法量の()内数値は復元値・残存高 (cm)

遺構番号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口径 器底 高径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考
SD1 11区上層	第28図1 図版12-1 00195	甕	(3.2)	口縁部小片 口縁端部外面下方に刻み目突帯付設	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内外-にぶい黄橙色	
SD1 13区上層	第28図2 図版12-2 00175	甕	(3.4)	口縁部小片 口縁端部外面に刻み目突帯付設	内面摩滅のため調整不明 外面横ナデ?	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-黒灰色 外-明黄褐色	
SD1 13区上層	第28図3 図版12-3 00062	甕	(3.5)	口縁部片 外面刻み目突帯を付設 端部上面に面を有す	内面調整不明 外面突帯上面に板状工具による押え	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-明赤褐色	
SD1 7区下層	第28図4 図版12-4 00129	甕	(3.0)	口縁部小片 口縁部外縁に刻み目突帯付設	内面擦痕(条痕?) 外面横位の条痕	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内外-黒色	
SD1 9区下層	第28図5 図版12-5 00130	甕	(3.8)	口縁部小片 口縁部外縁に刻み目突帯付設	内面ナデ、口縁端部内面指押え 外面横位の擦痕?	1mm以下の 白色細粒を 含む	良	内-黒色 外-にぶい黄褐色	
SD1 8区下層	第28図6 00040	甕	(5.3)	口縁部片	内面横位の研磨	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-黒褐色	
SD1 8区下層	第28図7 図版12-7 00041	甕	(3.2)	口縁部片 口縁部外面に刻目突帯あり	内面ナデ 外面条痕後縦位の板ナデ	1~2mmの 砂粒を多く 含む	良好	内-褐灰色 外-灰褐色	
SD1 7区下層	第28図8 00133	甕	(2.5)	口縁部小片 口縁端部外面に刻み目突帯付設 口縁端部上面に平坦面を有す	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-黒色 外-黒~浅黄色	
SD1 14区上層	第28図9 00179	甕	(3.1)	口縁部小片 口縁端部外面に刻み目突帯付設	内面横位の板状工具による擦痕 外面ナデ?	2mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-黒灰色 外-黒~明黄褐色	
SD1 14区上層	第28図10 00066	甕	(2.6)	口縁部小片 口縁端部外面に刻み目突帯付設	内面横位ナデ(板ナデ?) 外面板ナデ後研磨?	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-黒色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺構番号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口径 器底 直径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考
SD1 13区上層	第28図11 00063	甕	(1.8)	口縁部小片 外面刻み目突帯を付設 口縁端部は丸くおさめる	内外面調整不明	1mm以下の 砂粒を含む	良	内-浅黄橙色 外-灰褐色	
SD1 13区間仕切上層	第28図12 00065	甕	(2.0)	口縁部片 口縁端部外面に刻み目突帯付設	内面縦位板ナデ 外面縦位板ナデ後横ハケ	1mm以下の 砂粒を含む	良好	内-灰黄褐色 外-灰褐色	
SD1 18区下層	第28図13 図版12-13 00184	甕	(3.1)	口縁部小片 口縁端部外面下方に刻み目突帯付設 口縁部はやや内傾する	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-にぶい橙色 外-にぶい褐色	
SD1 17区上層	第28図14 00097	甕	(3.5)	口縁部片 口縁端部外面に刻み目突帯付設 端部上面を平坦におさめる	内面ナデ 外面横位の条痕後ナデ?	2mm以下の 砂粒を含む	良	内外-にぶい黄褐色	
SD1 2区下層	第28図15 図版12-15 00030	甕	(6.1)	口縁部片 口縁端部外面に刻目を施す	内外面とも摩滅が著しく調整不明 刻目付近に赤色顔料付着?	0.5~5mm大 の砂粒を多 く含む	良	内-橙色 外-にぶい黄褐色	
SD1 17区上層	第28図16 00098	鉢?	(3.9)	口縁部片 口縁端部外面に刻み目を施す	内面調整不明 外面ハケ	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-黒褐色~灰褐色 外-暗褐色	甕?
SD1 16区上層	第28図17 図版12-17 00087	甕	(10.2)	口縁部片 口縁端部外面・胴部上面に刻目突帯	内外面調整不明 外面胴部突帯下板ナデ?	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄橙色 外-橙色	
SD1 14区上層	第28図18 00180	甕	(6.3)	口縁部小片 口縁端部外面に刻み目突帯付設 口縁部は緩やかに内傾する	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-黒灰色 外-にぶい黄橙色	
SD1 17区上層	第28図19 図版12-19 00101	甕	(6.1)	口縁部片 口縁端部外面に刻み目突帯を付設 胴部付近から内向しながら立ちあがる	内外面調整不明	1mm以下の 砂粒を含む 精製胎土	良	内外-橙色	
SD1 12区下層	第28図20 00139	甕	(10.5)	胴部片 残存部下方に刻み目突帯付設 突帯より口縁部に向かい緩やかに内傾	内面摩滅のため調整不明 外面横位~斜位のハケ目 黒斑有り	5mm以下の 白色砂粒を 含む	不良	内-灰黄色 外-にぶい褐色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 2区下層	第28図21 00029	甕	(12.0)	胴部破片 中央に刻目を施す	外面ハケ後ナデ 内面ナデ	0.5～3mm大 の砂粒を多く含む	良	内-灰白色 外-灰黄褐色	
SD1 16区上層	第28図22 00080	甕	(5.8)	口縁～胴部片 胴部上位に刻み目突帯をめぐらす	内面横位ナデ (板ナデ?) 外面突帯下横位ナデ	白色細粒を 含む精製胎土	良	内-黒色 外-黒褐色	
SD1 16区上層	第28図23 00089	甕	(5.3)	胴部片 残存部上端に刻目突帯付設	内外面調整不明	2mm以下の 砂粒を多く含む	良	内-橙色 外-にぶい黄褐色	
SD1 18区上層	第28図24 00108	甕	(5.7)	胴部片 残存中央に刻み目突帯付設	内外面摩滅のため調整不明	1mm以下の 砂粒を多く含む	良	内-にぶい黄橙色 外-橙色	
SD1 16区上層	第28図25 00093	甕	(3.4)	胴部片 刻み目突帯を付設	内外面調整不明 突帯下部横ナデ? 外面丹塗り?	1mm以下の 砂粒を多く含む	良	内-橙色 外-にぶい黄橙色	
SD1 13区上層	第28図26 00059	甕	(7.0)	胴部破片 胴部上位屈曲部に刻み目 突帯よりゆるやかに外反し立ちあがる	内面ハケ 外面ハケ 突帯直下横ナデ	1mm以下の 砂粒を多く含む	良好	内外-橙色	
SD1 8区下層	第28図27 00039	甕	(8.2)	胴部片 刻目突帯あり	内面横位研磨 (条痕?) 外面研磨	2mm以下の 砂粒を多く含む	良好	内-黒褐色 外-にぶい褐色	
SD1 13区上層	第28図28 00060	甕	(10.0)	胴部～口縁部破片 胴部上位屈曲部に刻み目 突帯よりゆるやかに内傾し立ちあがる	内面指押え 外面刻み目上部横位条痕、 下部斜位条痕	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	内-にぶい黄橙色 外-黒色	
SD1 13区下層	第28図29 00140	甕	(3.8)	胴部小片 残存部上方外側に刻み目突帯付設	内面ナデ? 外面板ナデ	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-灰褐色 外-灰黄褐色	
SD1 16区上層	第29図30 00088	甕	(6.1)	口縁部片 口縁部外面に刻目 口縁端部上面は平坦	内面斜め方向のナデ 外面ナデ	1mm以下の 砂粒を含む	良	内外-明黄褐色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 17区上層	第29図31 図版12-31 00120	甕	(8.5)	口縁部片 口縁端部上面から外面に刻み目を 施す	内外面とも摩滅により調整不明	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄褐色 外-灰白色	
SD1 16区上層	第29図32 00114	甕	(6.6)	口縁部片 口縁端部内側と胴部に刻み目を施す	内面横位～斜位のナデ 外面縦ハケ後横ナデ	2mm以下の 砂粒を含む	良	内-にぶい黄色 ～橙色 外-にぶい黄褐色	
SD1 16区上層	第29図33 図版12-33 00091	甕	(7.0)	口縁部片 口縁端部上面は平坦	内面横ナデ 外面ナデ	1mm以下の 砂粒を含む	良	内-にぶい橙色 外-灰黄褐色	
SD1 1区上層	第29図34 図版12-34 00027	甕	(5.7)	口縁部破片 口縁部外面に刻目を施す	外面ナデ調整	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-にぶい黄褐色	
SD1 5区No.7 下層	第29図35 00033	甕	(6.6)	口縁部片	内面摩滅顕著のため不明 外面ナデ	細砂粒を含 み精良	良	内-橙色 外-赤褐色 一部黒色	
SD1 16区上層	第29図36 00115	甕	(4.4)	口縁部片 口縁端部上面に刻み目を施す	内外面摩滅のため調整不明	1mm以下の 砂粒を少量 含む	良	内-灰褐色 外-褐灰～浅黄色	
SD1 7区下層	第29図37 00134	甕	(3.6)	口縁部小片 端部外面に刻み目を施す	内面ナデ 外面に斜位のハケ目	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-灰黄褐色 外-にぶい黄褐色	
SD1 16区下層	第29図38 図版12-38 00094	甕	(4.1)	口縁部片 口縁端部内面に深い刻み目を施す	内面縦位の板ナデ 外面横ナデ	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-灰黄褐色 外-暗赤褐色	
SD1 16区上層	第29図39 00092	甕	(7.2)	口縁部片 口縁端部外面に刻み目	内外面調整不明	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-にぶい黄褐色	
SD1 10区埋土	第29図40 00045	甕	(12.8)	口縁部片 胴部で屈曲し、口縁部は短く 強く外反する	内面不明 外面ナデ	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-浅黄橙色 外-浅黄色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 14区上層	第29図41 00181	甕	(8.5)	口縁部片 口縁端部外側に刻み目を施す 口縁部は強く外反する	内面摩滅のため調整不明 外面斜方向のハケ	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-にぶい黄橙色 外-にぶい褐色	
SD1 14区埋土	第29図42 図版12-42 00072	甕	(23.3) (14.7)	口縁部～胴部片 口縁部外面と胴部に刻み目突帯付設	口縁部・胴部刻み目部内面指押え 外面縦ハケ後横位板ナデ	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良好	内-にぶい黄橙色 外-明赤褐色	
SD1 1区下層	第29図43 図版12-43 00028	甕	(22.0) (16.7)	口縁部～胴部破片 口縁端部外面に刻目を施す	外面ハケ後ナデ 口縁内面横ハケ 内面ナデ	微砂粒を 含み精良	良好	内-にぶい黄褐色 外-灰褐色	
SD1 13区上層	第29図44 図版12-44 00176	甕	(4.6)	口縁部小片 口縁端部外側に刻み目を施す 口縁部は強く外反し如意状を成す	内面横ナデ 外面摩滅のため調整不明	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-浅黄色 外-灰黄色	
SD1 4区下層	第29図45 00170	甕	(3.5)	口縁部小片 口縁端部外側に刻み目を施す 口縁端部上面は平坦面をなす	内面横ハケ、丹塗りの痕あり 外面横ナデ	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-黄灰色 外-灰黄色	
SD1 2区下層	第29図46 00166	甕	(3.9)	口縁部小片 口縁端部外側に刻み目を施す 口縁端部緩やかに外反する	内面横位のナデ 外面板ナデ?	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-灰黄色 外-灰褐色	
SD1 12区上層	第29図47 00189	甕	(4.4)	口縁部小片 口縁部はやや強く外反する	内面摩滅により調整不明 外面斜方向のハケ	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-にぶい黄橙色 外-にぶい橙色	
SD1 13区上層	第29図48 00190	甕	(5.7)	口縁部小片 口縁端部は緩く外反する	内外面摩滅により調整不明	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内外-橙色	
SD1 8区下層	第29図49 00138	甕	(5.3)	口縁部小片 口縁端部外面に刻み目を施す 口縁部は強く外反する	内外面摩滅のため調整不明				
SD1 2区下層	第29図50 00162	甕	(7.0)	口縁部片 口縁端部外面に刻み目を施す 口縁は外反し、端部は平坦におさめる	内面縦方向の板ナデ（ハケ？） 外面横位の横ナデ（板状工具か）	3mm以下の 砂粒を含む	良	内-浅黄色 外-にぶい黄橙色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 9 区下層	第30図51 00131	甕	(4.0) (9.2)	底部片 底部中央に穿孔あり	内外面摩滅のため調整不明	3 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－黄橙色 外－橙色	
SD1 13区上層	第30図52 00206	壺	(2.9) (8.2)	底部片 底部断面台形状を呈す	内面摩滅のため調整不明 外面研磨？	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黄橙色 外－にぶい黄橙色	
SD1 2 区下層	第30図53 00164	甕	(3.1) (7.6)	底部片 外側に内湾しながら立ちあがる	内面ナデ 外面横位のハケ	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黄灰色 外－黒褐～橙色	
SD1 14区上層	第30図54 00068	鉢	(3.3) 5.0	底部 底部断面台形状をなす	内外面調整不明	1 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外－にぶい黄橙色	
SD1 7 区下層	第30図55 図版13 00036	壺	(8.0) 5.8	底部～頸部片 平底、胴部・頸部の境は明瞭で、段 を有す	内外面摩滅顕著のため不明	1～2 mm大 の砂粒を多く 含む	良	内外－にぶい黄褐色	
SD1 17区上層	第30図56 00117	甕	(5.0) (8.0)	底部片 底部外縁やや張り出し、外湾しながら 胴部へ至る	底部内面指押え 内外面摩滅のため調整不明 外面 2 次焼成のため赤変す？	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－浅黄～黄灰色 外－にぶい橙色 底部外面－暗褐色	
SD1 13区上層	第30図57 00219	甕	(4.3)	底部小片 底部立ちあがりは緩やかに外反する	内外面摩滅のため調整不明	4 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－にぶい褐色 外－黒～褐色	
SD1 12区上層	第30図58 00053	甕	(5.8) 7.6	底部 底部断面やや台形状	内面底部は指押え、他は不明 外面縦位のハケ、後ナデ	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－灰黄色 外－灰黄褐色	
SD1 7 区下層	第30図59 00132	甕	(2.7) (10.4)	底部片	内面摩滅のため調整不明 外面摩滅のため調整不明、一部ハケ 目？	8 mm以下の 砂礫を多く 含む	良	内外－橙色	
SD1 13区上層	第30図60 00149	壺	(4.1) (8.2)	底部片 円盤状底部、断面台形状を呈す 外面中央は接地面より 2 mm中空	内面板ナデ 外面縦ハケ、研磨	2 mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良好	内－灰白色 外－灰黄褐色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 器 底 径 高 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 16区上層	第30図61 00082	壺	(1.8) (7.8)	底部片 円盤貼付状で、外面底部中心は中空となる	内外面剥落著しく調整不明	1 mm以下の 砂粒を含む	良	内-灰白色 外-にぶい黄橙色	
SD1 11区上層	第30図62 00217	甕	(2.3) (8.2)	底部片 円盤状底部 底部中央付近に穿孔あり	内面指押え、摩滅のため調整不明 外面摩滅のため調整不明	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-にぶい黄橙色 外-にぶい橙色	
SD1 2区下層	第30図63 00163	甕	(7.4) (10.0)	底部～胴部片 立ちあがりほぼ直線に外傾する	内面摩滅のため調整不明 外面指押え	4 mm以下の 砂粒を含む	良	内-にぶい黄橙色 外-橙色	
SD1 3区下層	第30図64 00167	壺	(3.4) (13.2)	底部片 底部断面台形状を呈す	内面摩滅のため調整不明 外面研磨	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-浅黄橙色 外-橙色	
SD1 13区上層	第30図65 00178	壺	(3.0) (10.2)	底部片 円盤状底部	内面摩滅のため調整不明 外面摩滅のため調整不明	4 mm以下の 砂粒を含む	良	内-浅黄色 外-橙色	
SD1 11区上層	第30図66 00198	底部	(2.2) (8.6)	底部片	内外面とも摩滅のため調整不明	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内外-橙色	
SD1 18区上層	第30図67 00107	甕	(5.5) 7.5	底部～胴部片 底部断面やや台形状をなす	底部内面指押え 内外面摩滅のため調整不明	1 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄橙色 外-橙色	
SD1 17区上層	第30図68 00095	甕	(6.6) (9.0)	底部～胴部片 底部から胴部は緩やかに外湾し 胴部はやや内湾ぎみに立ちあがる	内外面剥落著しく調整不明	3 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄褐色 外-明赤褐色	
SD1 14区埋土	第30図69 00207	壺?	(2.5) (10.2)	底部片 円盤状底部	内面摩滅のため調整不明 外面研磨?	2 mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-橙色 外-灰褐色	
SD1 12区上層	第30図70 00210	底部	(2.6) (8.0)	底部片 円盤状底部	内面指押え、摩滅のため調整不明 外面指押え、摩滅のため調整不明	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-明黄褐色 外-黄橙色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 12区上層	第30図71 00213	壺	(2.3) (9.1)	底部片 円盤状底部	内面指押え、摩滅のため調整不明 外面研磨？	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－にぶい黄橙色 外－灰褐色	
SD1 16区上層	第30図72 00083	壺	(1.8) (7.1)	底部片 断面台形状を呈する	内面調整不明 外面ナデ	白色細粒を 含む精製胎 土	良	内－灰白色 外－橙色	
SD1 13区上層	第30図73 00144	甕	(5.7) (10.0)	底部片 円盤貼付け	内面指押え 外面斜位ハケ	4mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－灰黄色 外－橙色	
SD1 調査区南端	第30図74 00237	甕	(4.9) (9.6)	底部片 円盤状底部	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－褐灰色 外－明赤褐色	
SD1 13区上層	第30図75 00143	甕	(3.2) (9.2)	底部片	内面板ナデ 外面縦ハケ	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－浅黄色 外－黄灰色	
SD1 13区上層	第30図76 00061	甕	(4.8) 6.1	底部 外面赤変、二次焼成を受ける？	外面下部指押え その他、剥落のため調整不明	2mm以下の 砂粒を多く 含む	不良	内－褐灰色 外－にぶい赤褐色	
SD1 13区上層	第30図77 00145	壺	(3.7) 10.7	底部 円盤状底部 やや台形状を呈す	内面板ナデ 外面底部との接合部指押え、研磨 体部に黒斑あり	5mm以下の 白色砂粒を 含む	やや 不良	内－黄橙色 外－灰黄～黒	
SD1 12区上層	第30図78 00204	壺	(3.2) (7.0)	底部片 底部断面やや台形状を呈す	内面摩滅のため調整不明 外面研磨	2mm以下の 砂粒を含む	良	内－明赤褐色 外－灰褐色	
SD1 ベルトC上層	第30図79 00235	甕	(7.4) (9.0)	底部片 底部中央に穿孔あり	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－にぶい橙色 外－浅黄橙色	
SD1 12区上層	第31図80 00216	底部	(3.7)	底部小片 二次焼成のため赤変？	内外面摩滅・剥落のため調整不明	3mm以下の 白色砂粒を 含む	やや 不良	内－灰黄褐色 外－赤色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 13区上層	第31図81 00192	底部	(3.3)	底部小片	内外面とも摩滅のため調整不明	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-浅黄橙色 外-明黄褐色	
SD1 11区上層	第31図82 00158	底部	(2.6)	底部小片 残存部中央は。接地面より 2 mm中空	内外面摩滅のため調整不明	1 mm以下の 白色砂粒を 微量含む	良	内-淡黄色 外-黄橙色	
SD1 14区上層	第31図83 00194	底部	(3.2)	底部小片 残存部中央付近は接地面より 2 mm中空	内外面とも摩滅のため調整不明	2 mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-黒～明黄褐色 外-橙色	
SD1 12区上層	第31図84 00214	底部	(6.6)	底部片	内外面摩滅のため調整不明	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-にぶい黄褐色 外-浅黄～橙色	
SD1 12区上層	第31図85 00215	底部	(2.7)	底部小片	内外面摩滅のため調整不明 外面指押え	1 mm以下の 白色砂粒を 微量含む	良	内-灰白色 外-黄橙色	
SD1 10区埋土	第31図86 00171	壺 鉢	(2.7) (6.8)	底部片	内面ナデ 外面指押え、磨き	4 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-暗灰黄色 外-黒色	
SD1 16区上層	第31図87 00084	甕	(2.8) (11.5)	底部 底部中央外面は、3 mm程浮く	内面ナデ 外面縦ハケ	1 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-褐灰色 外-暗灰黄色	
SD1 16区上層	第31図88 00086	小壺	(2.5) (6.6)	底部片 底部中央外面は、2 mm程浮く	内面ナデ? 外面ハケ後丹塗研磨	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄褐色 外-赤褐色	
SD1 8区下層	第31図89 00038	鉢	(4.8) (7.2)	底部～胴部片 平底、底部内外面指押え	内外面摩滅顕著のため不明	1 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-褐灰色 外-赤橙色	
SD1 8区下層	第31図90 00135	壺?	(1.9) (10.8)	底部小片 底部中央付近は接地面より 2 mm中空	内面摩滅のため調整不明 外面研磨?	3 mm以下の 砂粒を含む	良	内-橙色 外-黒色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 13区上層	第31図91 00205	底部	(2.1) (9.3)	底部片 底部中央付近は接地面より 2 mm中空	内面摩滅のため調整不明 外面ナデ	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－褐色 外－褐～橙色	
SD1 12区上層	第31図92 00200	甕	(2.6) (7.2)	底部片	内面ナデ 外面摩滅のため調整不明	2 mm以下の 白色砂粒を 多く含む	やや 不良	内－黒色 外－橙色	
SD1 12区上層	第31図93 00147	底部	(2.6) (7.4)	底部片 底部中央外面は接地面より 2 mm中空	内面指押え、摩滅のため調整不明 外面摩滅のため調整不明	5 mm以下の 白色砂粒を 多く含む	やや 不良	内－浅黄橙色 外－にぶい黄橙色	
SD1 12区上層	第31図94 00142	甕	(5.7) (9.4)	底部片	内面板ナデ、底部内面指押え 外面ハケ目残存	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	やや 不良	内外－暗灰黄色	
SD1 12区上層	第31図95 00199	甕	(5.5) (7.9)	底部～胴部片	内面摩滅・剥落のため調整不明 外面ハケ・ナデ	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－浅黄橙色 外－浅黄橙～橙色	
SD1 12区上層	第31図96 00212	底部	(2.5) (8.0)	底部片	内面摩滅のため調整不明 外面板ナデ	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黄褐色 外－橙色	
SD1 11区上層	第31図97 00155	底部	(2.3) (8.5)	底部片 底部中央は接地面より 1 mm中空	内面指押え、摩滅のため不明 外面指押え、摩滅のため不明	1 mm以下の 白色砂粒を 微量含む	良	内－灰白色 外－にぶい黄橙色	
SD1 14区埋土	第31図98 00146	甕	(3.4) (5.8)	底部 底部中央外面は接地面より 2 mm中空	内面指押え 外面摩滅のため調整不明 底部～胴部1/3黒斑	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	やや 不良	内－淡黄色 外－橙色	
SD1 16区上層	第31図99 00081	甕	(3.5) (7.8)	底部片 断面やや台形を呈す	内面指押え後、横ナデ 外面縦ハケ 一部黒斑あり	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－浅黄色 外－にぶい黄橙色	
SD1 11区上層	第31図100 00159	壺？	(2.2)	底部小片 円盤状底部、円盤貼付け 残存部中央は、接地面より 2 mm中空	内面指押え 外面指押え、一部丹塗り残存	3 mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内－褐色 外－浅黄色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺構番号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口径 器高 底径	形態特徴	手法特徴	胎土	焼成	色調	備考
SD1 1区上層北側	第31図101 00218	壺	(2.8)	底部小片 円盤状底部 底部中央付近は2mm中空	内面磨き 外面磨き？	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-にぶい橙色 外-黒～浅黄色	
SD1 南側埋土	第31図102 00074	甕	(4.4) 9.0	底部～胴部片	胴部内面ハケ、底部内面指押え 外面縦ハケ	3mm以下の 砂礫を少量 含む	良好	内外-明褐色	
SD1 15区上層	第31図103 00079	壺 (鉢)	(2.2) (6.4)	底部片	内面ナデ？ 外面調整不明	1mm以下の 砂粒を含む	やや 不良	内-黒褐色 外-にぶい黄橙色	
SD1 13区上層	第31図104 00151	底部	(6.9) (8.2)	底部片 残存部中央は接地面より2mm中空	内面縦位の板ナデ 外面縦ハケ、一部丹塗り研磨の痕跡 を残す	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	内-灰白色 外-灰黄色	
SD1 12区上層	第31図105 00054	甕	(4.3) 9.2	底部	内面底部指押え 外面縦位のハケ、後横ナデ	1mm以下の 砂粒を含む	不良	内外灰黄色	
SD1 14区上層	第31図106 00209	甕	(9.9) (7.2)	底部～胴部片	内面ナデ 外面縦位のハケ	2mm以下の 砂粒を含む	良	内-にぶい黄橙色 外-淡黄色	
SD1 12区上層	第31図107 00201	甕	(3.4) (8.4)	底部片	内面板ナデ？ 外面縦位ハケ	4mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内外-明赤褐色	
SD1 11区上層	第31図108 00046	甕	(6.6) 6.4	底部片 底部から胴部への立ちあがりは緩やかに外反する。	底部内面指押え 内外面摩滅顕著のため調整不明	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄色 外-明赤褐色 内面底-黒褐色	
SD1 5区下層	第31図109 00124	底部	(2.6)	底部片 底部中央付近は、接地面より2mm前後中空	内外面ともに摩滅のため調整不明	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-灰白色 外-浅黄橙色	
SD1 12区上層	第31図110 00211	底部	(4.1)	底部小片	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-赤色 外-橙色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 底 高 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 5区上層	第31図111 00122	底部	(2.2) (6.6)	底部片	内面摩滅・剥落のため調整不明 外面研磨?	2mm以下の 砂粒を含む	良	内-橙色 外-にぶい橙色	
SD1 5区No.9下層 6区No.6下層	第32図112 図版13 00075	壺	(10.7) 18.4	口縁～肩部片 ゆるやかに外湾しながら口縁部に至り 口縁部は強く外反する	内面、口縁部横磨き 外面横磨き 胴部～口縁部にかけ黒斑あり	2mm以下の 砂粒を含む	良好	内-橙色 外-にぶい黄褐色	
SD1 13区上層北側	第32図113 00070	壺	17.3 (27.4)	口縁部～胴部下半 胴部と頸部の境は明瞭 口縁部は強く外反する	肩部内面指押え、他調整不明 外面は横位の研磨が大勢を占める	0.5mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄褐色 外-にぶい黄褐色	
SD1 12区下層	第32図114 00056	壺	7.9 (5.4)	口縁部 口縁部はいびつに歪む	内面調整不明 外面丹塗研磨、丹塗りは、一部剥落 する	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-明赤褐色	
SD1 16区上層	第32図115 00090	鉢?	(5.2)	口縁部片 口縁部は外反し、端部外側に平坦面 を有す。	内外面調整不明	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい橙色 外-橙色	
SD1 11区上層北側	第32図116 00187	壺	(2.8)	口縁部小片 口縁端部はやや強く外反する	内外面摩滅のため調整不明	1mm以下の 白色砂粒を 微量含む	良	内外-にぶい橙色	
SD1 7区下層	第32図117 00137	壺	(7.2)	口縁部片 口縁部は内傾して立ちあがり端部下 端でゆるやかに外反する	内外面ともに剥落が顕著、丹塗り残 存外面は磨痕も残る。	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内外-赤褐色～ にぶい黄褐色	
SD1 5区No.9下層	第32図118 00034	壺	(2.6)	口縁部片	内外面横位の磨き	1～2mm大 の砂粒を多 く含む	良	内外-黒褐色	
SD1 14区上層	第32図119 00067	壺	(11.5)	口縁部～胴部片	外面丹塗り残存 内外面剥落著しく調整不明	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-橙色	
SD1 11区上層	第32図120 00173	壺	(2.8)	肩部小片 沈線で山形文を施す	内面摩滅のため調整不明 外面磨き	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-灰黄色 外-灰黄褐色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 底 高 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 12区下層	第32図121 00057	壺	(7.1)	胴部破片 内湾する胴部で、最大径を胴部上半 に有すと考えられる。	内面上部指押え 外面丹塗研磨	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-灰褐色 外-赤褐色	
SD1 12区下層	第32図122 図版13 00077	壺	(4.5)	胴部片	内面調整不明 外面横位磨き、縦方向に軸を持つ山 形文に赤彩を施す	白色細粒を 含む精製胎 土	良好	内外-黒色	彩文土器
SD1 10区上層	第32図123 00071	壺	(3.6)	胴部小片	内面調整不明 外面丹塗研磨、沈線による山形文有り	1 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-橙色	
SD1 11区上層	第32図124 00186	壺	(5.1)	胴部片 肩部と頸部の境に沈線を1条施す	内面摩滅・剥落のため調整不明 外面丹塗り、横方向のハケ	2 mm以下の 白色砂粒を 微量含む	良	内-淡黄色 外-明赤橙色	
SD1 13区上層	第32図125 00191	壺	(5.4)	胴部片 胴部と頸部の境に段を有す	内面摩滅・剥落のため調整不明 外面横位の磨き	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-黄灰色 外-橙色	
SD1 10区埋土	第32図126 00043		(22.5) (3.5)	口縁片 鋤先口縁壺・甕 口縁上部平坦面に円形浮文有り	丹塗り一部残存 内外面摩滅顕著のため調整不明	3 mm以下の 砂粒を含む	良	内外-浅黄色	
SD1 18区上層	第33図127 00110	壺	(9.2) (5.7)	底部～胴部片 底部は丸底ぎみの平底	内面摩滅のため調整不明 外面研磨痕一部残存	3～4 mm以 下の砂礫を 多く含む	良	内外-黒褐色 ～にぶい黄橙色	
SD1 12区下層	第33図128 00058	壺	(5.2) 6.3	底部～胴部片 丸底に近い平底をなす	内面ナデ 外面研磨	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-黄灰色 外-灰褐色	
SD1 4区下層	第33図129 00168	壺	(1.4) (7.2)	底部 丸底ぎみの平底 円盤充填痕が確認される	内面摩滅・剥落のため調整不明 外面横位の磨き	3 mm以下の 砂粒を含む	良	内-黄灰色 外-橙色	
SD1 3区下層	第33図130 00154	壺	(2.2) (6.0)	底部片 丸底ぎみの平底	内面板ナデ 外面摩滅のため調整不明	3 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-灰色 外-橙色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 7区下層	第33図131 00127	壺	(4.6) (7.0)	底部片 丸底に近い平底をなす 底部中央は接地面より2mm前後中空	内面ナデ 外面研磨？	2mm以下の 砂粒を含む	良	内外－灰黄褐色	
SD1 11区上層	第33図132 00047	壺	(4.2) 6.2	底部 丸底に近い平底をなす 底部中央は中空となる	内面は摩滅・剥落のため調整不明 外面丹塗研磨、丹塗りは、一部剥落 する	細粒を含む 精製胎土	良	内－浅黄色 外－赤色	
SD1 15区No.8 上層	第33図133 00078	壺	(2.8) 8.0	底部 断面台形の底部	内面横位の板ナデ 外面指押え、ナデ	1mm以下の 白色細粒を 多く含む	良	内－黒褐色 外－にぶい黄橙色	
SD1 17区上層	第33図134 00116	壺	(5.0) (12.7)	底部片 底部断面やや台形状をなす	内外面摩滅のため調整不明	3mm以下の 砂粒を多く 含む	不良	内－暗灰色 外－赤橙色	
SD1 13区上層	第33図135 00152	壺	(3.9) (9.0)	底部片 円盤状底部	内面研磨 外面縦位ハケ、研磨	5mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－黒色 外－灰黄褐色	
SD1 南側埋土	第33図136 00073	壺	(1.6) (7.4)	底部片 底部は、円盤貼付け状をなし、底部 端高台風になる	内面ナデ 外面調整不明	1mm以下の 砂粒を含む	良	内－黒色 外－黒色～灰色	
SD1 7区下層	第33図137 00128	壺	(2.6) (8.65)	底部 底部断面台形状をなす 円盤貼付け、底部外面剥落	内面ナデ 外面剥落及び摩滅のため調整不明	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黒褐色 外－橙色	
SD1 11区上層	第33図138 00197	壺	(2.7) 6.2	底部片 円盤状底部、底部外縁高台状を呈す 底部中央外面接地面より4mm中空	内面研磨 外面磨き？	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黒～浅黄色 外－黒色	
SD1 12区上層	第33図139 00161	壺	(1.9) (6.8)	底部片 円盤状底部、円盤貼付け 底部中央外面は、接地面より2mm中空	内面指押え 外面縦ハケ、研磨	1mm以下の 砂粒、赤色粒 を微量含む	良	内－浅黄橙色 外－黄橙色	
SD1 13区上層	第33図140 00221	壺	(4.6)	底部小片 円盤状底部	内面指押え、摩滅のため調整不明 外面摩滅のため調整不明	5mm以下の 白色砂粒と炭 化物を含む	不良	内－灰色 外－黄灰色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 12区上層	第33図141 00202	壺	(3.1) (9.4)	底部片 底部立ちあがりは緩やかに外反する 円盤貼付け	内面板ナデ 外面研磨	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-黒褐色 外-赤橙色	
SD1 18区上層	第33図142 00109	壺	(2.4) 14.2	底部 底部中央は2 mmほど中空になる	内面指押え 外面一部丹塗り残存	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-浅黄橙色 外-橙色	
SD1 18区上層	第33図143 00105	壺	(1.7) 8.5	底部片 底部断面やや台形状をなす	内外面摩滅・剥落のため調整不明	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外-にぶい黄褐色	
SD1 7区下層	第33図144 00035	壺	(4.2) (13.0)	底部完存	内外面摩滅顕著のため不明	1 mm以下の 砂粒を多く 含む	良好	内-浅黄橙色 外-橙色	
SD1 17区上層	第33図145 00102	壺	(4.9) (6.4)	底部~胴部片 底部断面台形状をなす	内面研磨 外面横位磨き	白色細粒を 含む精製胎 土	良	内-黒色 外-にぶい橙色	
SD1 10区上層	第33図146 00042	壺	(3.0) (12.0)	底部片 台形状底部	底部内面指押え 内外面摩滅のため不明	2 mm以下の 砂粒を含む	良	内外-黄褐色	
SD1 13区上層	第33図147 00153	壺	(3.7) (7.0)	底部片 円盤状底部、底部外縁は高台状とな り中央は2 mm中空	内面摩滅のため調整不明 外面研磨?	2 mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	内-黄灰色 外-橙色	
SD1 11区上層	第33図148 00196	壺	(1.6) 7.3	底部 円盤状底部	内面ナデ 外面研磨	3 mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-黒色 外-褐灰色	
SD1 14区埋土	第33図149 00208	壺	(2.4) (7.6)	底部片 円盤状底部 断面台形状をなす	内面板ナデ 外面磨き 残存部1/4に黒斑あり	2 mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-黒~灰褐色 外-黒~浅黄色	
SD1 7区下層	第33図150 00126	底部	(1.7) 6.8	底部	内外面摩滅のため調整不明	1 mm以下の 細粒を含む 精製胎土	良	内-浅黄色 外-にぶい橙色	

法量の（ ）内数値は復元値・残存高（cm）

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 底 高 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 12区上層	第33図151 00055	壺	(7.2) 13.9	底部	内面調整不明 外面縦ハケ	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－明褐灰色 外－橙色	
SD1 17区上層	第33図152 00118	小壺	(1.0) 4.4	底部片 底部断面台形状をなす	内面摩滅のため調整不明 外面丹塗り磨研	白色細粒を 含む精製胎 土	良好	内外－灰褐色	
SD1 2区下層	第33図153 00165	壺	(2.7)	底部小片 円盤状底部 円盤貼付け	内面研磨 外面横位の磨き	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－灰黄褐色 外－黄褐色	
SD1 13区上層	第33図154 00220	壺	(3.5)	底部小片 円盤状底部	内面研磨 外面摩滅のため調整不明	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	不良	内外－黒色	
SD1 7区下層	第33図155 00125	小壺	(3.5) 5.1	底部片 丸底に近い平底をなす	内面摩滅のため調整不明 外面磨き 黒斑あり	3mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外－にぶい橙色	
SD1 12区上層	第33図156 00148	壺	(2.3) 10.6	底部 底部中央外面は接地面より1mm中空 底部からの立ちあがりは緩やかに外反	内面指押え、摩滅のため調整不明 外面指押え、磨き	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	内－灰白色 外－明黄褐色	
SD1 13区上層	第33図157 00150	壺	(4.0)	底部片 円盤状底部	内面ナデ？ 外面縦位ハケ後研磨	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－灰白色 外－浅黄褐色	
SD1 13区上層北側	第34図158 00064	壺	(8.5) 10.2	底部～胴部片 平底底部	内面調整不明 外面磨き、下端は横位のナデ	1mm以下の 砂粒を含む	良	内－黄褐色 外－にぶい褐色	
SD1 7区下層	第34図159 00037	壺	(6.6) (9.0)	底部～胴部片 平底、円盤貼付け？	内面摩滅顕著のため不明 外面磨き	1～2mm大 の砂粒を多 く含む	良	内－灰褐色 外－にぶい赤褐色	
SD1 2区下層	第34図160 00031	壺	(4.9) 7.9	底部～胴部片 底部～胴部黒斑	内面摩滅顕著のため不明 外面横方向のヘラ磨き	1～5mm大 の砂粒を多 く含む	良好	内－にぶい褐色 外－橙色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 1区2区間ベルト下層	第34図161 00234	壺	(3.3) (6.1)	底部 円盤貼付け、底部中央外面は接地面 から2mm中空	内面、指押え後研磨 外面磨き	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-にぶい赤褐色 外-黒色	
SD1 8区下層	第34図162 00136	壺	(1.9) (8.2)	底部片	内面研磨 外面摩滅のため調整不明 残存部の1/3黒斑有り、丹塗り痕跡有り	4mm以下の 砂粒を含む	良	内-にぶい黄橙色 外-にぶい橙色	
SD1 18区上層	第34図163 00104	壺	(6.0) 8.4	底部～胴部片 底部断面やや台形状をなす	底部内面指押え 内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良好	内-黄橙色 外-浅黄褐色	
SD1 17区上層	第34図164 00100	壺	(7.1) 12.4	底部～胴部片 底部からの立ちあがりは若干外湾し ながら胴部に至る	内面指押え、横ナデ 外面調整不明 内面に丹塗痕あり、底部外面黒斑有り	4mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄褐色 外-橙色	
SD1 11区上層	第34図165 00157	壺	(3.3)	底部小片 底部残存最内は、接地面より1mm中 空になる	内面指押え 外面横位の磨き	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内外-橙色	
SD1 14区上層	第35図166 00182	鉢	(7.8)	口縁部～胴部片 口縁部下の凸線より緩やかに外反し 端部にいたる	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-にぶい黄橙色 外-灰黄褐色	
SD1 4区下層	第35図167 00169	鉢	(4.2)	口縁部小片 肩部で強く屈曲し口縁端部は短く外 反する	内面横位磨き 外面横位磨き	4mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-灰黄褐色 外-黒色	
SD1 11区上層北側	第35図168 00048	鉢	(4.8)	口縁部片 肩の屈曲部から外反しながら端部に いたる	内面は剥落のため調整不明 外面研磨?	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-にぶい黄橙色 外-橙色	
SD1 11区上層	第35図169 00188	鉢	(4.3)	口縁部小片 胴部でくの字に屈曲し口縁端部は短 く外反する	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-明黄褐色 外-にぶい黄褐色	
SD1 5区下層	第35図170 00123	鉢	(3.9)	口縁部片 肩部から強く外湾し口縁端部に至る 端部は丸く仕上げる	内面調整不明 外面磨き	1mm以下の 砂粒を含む 精製胎土	良	内外-にぶい黄褐色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 調査区南端	第35図171 00236	鉢	(21.0) (11.6)	口縁部～胴部片 口縁端部外側に直刻み目を施す	内面指押え 外面板ナデ	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	内外－浅黄橙色	
SD1 17区上層	第35図172 00099	鉢	16.1 10.4 6.8	約1/2残存 胴部中央に段を有し、段から上に外 湾しながら立ちあがり、口縁に至る	内面調整不明 外面研磨痕残存 底部～胴部段まで黒斑有り	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外－にぶい橙色	
SD1 12区上層	第35図173 00174	鉢	(5.9)	肩部小片 残存部くの字に屈曲	内面研磨 外面磨き	1 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黒褐色 外－にぶい褐色	
SD1 12区上層	第35図174 00051	高坏	(3.1)	高坏接合部 杯部底に焼成後穿孔をする	脚部内面指押え、坏部内面ナデ？ 外面横位のナデ	1～2 mmの 砂粒を多く 含む	良	杯内－黄褐色 脚内－明黄橙色 外－橙色	
SD1 4区下層	第35図175 00032	鉢	(10.5) (10.3)	底部～胴部片	内面摩滅顕著のため不明 外面ハケ後ナデ	1 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－橙色 外－にぶい橙褐色 ～灰褐色	
SD1 17区上層	第35図176 00096	甕	(4.8)	口縁部片 口縁部は、やや外反する 口縁端部外面に刻み目をほどこす	内面指押え後、横ナデ 外面横位の研磨	白色細粒を 含む精製胎 土	良	内－橙色 外－黒褐色～暗褐色	
SD1 11区上層北側	第35図177 00050	高坏	(4.3)	高坏接合部 脚部接合部に刻目突帯が巡る	坏底部内面・脚部内部上面指押え その他、剥落のため調整不明	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－灰褐色 外－灰黄褐色	
SD1 18区上層	第35図178 00103	壺	(3.5) (6.6)	底部片 底部断面台形状をなす	内面ナデ 外面指押え	2 mm以下の 砂粒を含む	良	内－淡黄色 外－黒色	
SD1 14区上層	第35図179 00069	甕	(4.6) 9.1	底部 底部断面台形状をなす	内面底部指押え 外面縦ハケ	1 mm以下の 砂粒を含む	良	内－にぶい黄橙色 外－オリーブ黒色	
SD1 17区上層	第35図180 00119	高坏	接合部径 (7.9) (11.2)	坏部～脚部片 接合部に断面三角形の突帯を付設	内外面摩滅・剥落が著しく調整不明	2 mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－灰褐色 外－橙色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 12区上層	第35図181 00052	高坏	(6.9)	高坏脚部～坏部片	坏部内面不明、脚部内面縦位板ナデ 外面横位の研磨	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外－黒褐色	
SD1 17区上層	第35図182 00121	甕	(3.3)	底部片 底部断面台形状をなす	内外面とも摩滅により調整不明	3mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外－にぶい橙	
SD1 10区埋土	第35図183 00044	甕	(4.5) 6.3	底部片 やや上げ底気味の底部をなす	内面ナデ 外面縦ハケ後下端は横位のハケ	1mm以下の 砂粒を含む	良	内－暗灰黄色 外－浅黄色	
SD1 18区上層	第35図184 00106	甕	(4.7) (7.0)	底部～胴部片 底部断面台形状をなす	内外面摩滅のため調整不明	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内外－にぶい橙色	
SD1 11区上層北側	第35図185 00049	高坏	(3.0)	高坏接合部 接合部に断面三角形の突帯を巡らす 外面に黒斑あり	内面横位のハケ、接合部指押え 外面横位のナデ	2mm以下の 砂粒を含む	良	内－橙色 外－黒褐色	
SD1 16区上層	第35図186 00085	壺	(1.6) 6.6	底部 断面台形	内外面剥落のため調整不明	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－にぶい黄褐色 外－橙色	
SD1 11区上層	第35図187 00156	底部	(3.0) (10.6)	底部片 円盤状底部 底部断面やや台形状を呈す	内面指押え 外面指押え	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黒色 外－赤褐色	
SD1 13区上層	第35図188 00193	底部	(3.1) (6.4)	底部片 底部断面やや台形状を呈す	内面摩滅のため調整不明 外面縦位のハケ後ナデ?	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－灰黄褐色 外－橙色	
SD1 13区上層	第35図189 00222	底部	(2.9) (5.0)	底部片 底部立ちあがりは緩やかに外反する 底部中央外面は4mmほど上底となる	内面摩滅のため調整不明 外面指押え	2.5mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	内－橙色 外－黄橙色	
SD1 11区上層	第35図190 00160	底部	(2.0)	底部小片 円盤状底部	内面摩滅のため調整不明 外面指押え	1mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内外－橙色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD1 13区上層	第35図191 00223	底部	(2.5) (6.3)	底部 底部中央外面は2mmほど上底となる	内面指押え 外面板ナデ	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-浅黄色 外-橙色	
SD1 2区下層	第35図192 00141	底部	(3.2) (9.4)	底部片 底部断面台形状を呈す 底部は上底ぎみ	内外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 含む	やや 不良	内外-橙色	
SD1 5区No.9下層	第35図193 00076	底部	(3.6) 6.6	底部 平坦面をなす	内面調整不明 外面ナデ	1mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-不明 外-にぶい黄褐色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD2 2区下層	第36図1 図版13 00242	甕	(15.0)	口縁部～胴部片 胴部・口縁端部上面・外面に刻み目 を施す。口縁部は短く外反する	内面斜位のハケ、口縁は横位のハケ 外面横位のハケ、口縁付近は縦位の ハケ	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－黄褐～黒色 外－灰黄褐色	
SD2 4区西半中層	第36図2 図版13 00258	甕	26.6 (18.3)	口縁部～胴部片、口縁部は、短く緩 やかに外傾し端部外面に刻み目、胴 部に刻み目突帯を施す	内面ナデ 外面横位のハケ、後板ナデ	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－黒～褐灰色 外－黒～浅黄色	
SD2 中層・下層	第36図3 図版13 00266	甕	(22.0) (19.9)	口縁部～胴部片 口縁部は短くやや強く外反し、端部 外面に刻み目を施す	内面斜位のハケ、口縁部はナデ 外面斜位のハケ、口縁部付近縦ハケ後 横位のナデ	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－黒～浅黄色 外－黒～暗褐色 外面下半は、橙色	
SD2 2区下層	第36図4 図版13 00265	甕	(24.0) (15.0)	口縁部～胴部片 口縁部は短く強く外反し、端部外面 に刻み目を施す	内面横～斜位のハケ目 外面縦～斜位のハケ、後ナデ	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－にぶい黄褐色 外－黒褐色	
SD2 1区下層№15	第36図5 図版13 00023	甕	(21.2) (15.0)	口縁部～胴部片 口縁部は短くやや強く外反し、端部 外面に刻み目を施す	内面指押え、斜位のハケ 外面斜位のやや目の粗いハケ後、 一部細かい目のハケ調整を施す	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－にぶい黄橙色 外－暗褐色	
SD2 5区西半上層	第36図6 図版13 00018	甕	28.3 33.8 8.1	完形甕、口縁端部外面に直刻み目を 施す。口縁部は短く強く外反する 黒斑2箇所	内外面摩滅のため調整不明	5mm以下の 砂粒を多く 含む	良好	内－灰褐色 外－黒～橙色	
SD2 4区西半下層	第36図7 図版13 00026	甕	20.0 21.0 11.1	口縁部・胴部・底部の一部を欠損 口縁部は直立する 底部円盤貼付け、穿孔あり	内面指押え、指ナデ 外面指押え、ナデ	4mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－黒～橙色 外－橙色	
SD2 2区下層	第36図8 00244	甕	(10.0) (8.0)	底部～胴部片 底部中央に焼成後穿孔を施す	内面横ナデ、底部付近指押え 外面縦位のハケ	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	内－褐灰色 外－灰黄褐色	
SD2 4区西半下層	第37図9 図版13 00241	壺	(33.2) (37.3)	口縁部～胴部片 口縁部下位に段を有す 肩部に緩い段をなす	内面、口縁部横位のミガキ、他調整 不明 外面、丹塗り後横位のヘラミガキ	4mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	内－橙色 外－赤～橙色	
SD2 3区西半下層 4区西半中層	第37図10 00257	壺	(51.9) (44.1)	口縁部～胴部片 口縁部は短く外反し、下位に段を有す 肩部に明瞭な段を有す	内面、口縁横ミガキ、胴部横ハケ残存 外面、ハケ後ミガキ	4mm以下の 砂粒を含む	良好	内－橙色 外－赤～浅黄色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD2 1 区下層No.13	第38図11 図版13 00253	壺	(8.9)	肩部片 肩部に3条の沈線で山形文を施文する 頸部と肩部の境に段を有す	内面摩滅のため調整不明 外面丹塗り、横位の研磨	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	内-にぶい黄橙色 外-赤色	
SD2 1 区下層	第38図12 00255	壺	(11.5) (5.8)	口縁部片 口縁部は、短く強く外反する	内外面丹塗り後ミガキ	2mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内-赤~褐灰色 外-赤~にぶい黄橙色	
SD2 7 区西半中層	第38図13 図版13 00024	壺	7.9 12.4 5.9	壺口縁部・頸部一部欠損、黒斑あり 肩部に沈線で山形文を施す 円盤状底部、中央は1mm上底	内面研磨 外面横位のミガキ	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-橙色 外-黒~にぶい橙色	
SD2 1 区下層No.7	第38図14 00250	壺	(5.3)	口縁部小片 口縁部は緩やかに外反する 口縁部下端に段を有す	内面、口縁部横位のミガキ、頸部ハケ 外面摩滅のため調整不明	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-橙色 外-にぶい黄橙色	
SD2 2 区下層	第38図15 00267	壺	(5.2) (3.5)	底部~胴部片	内面篋磨き 外面横位のミガキ	1.5mm以下の 白色砂粒を 含む	やや 不良	内外-橙色	
SD2 3 区東半上層	第38図16 図版13 00239	壺	10.2 18.4 7.4	壺口縁部・胴部一部欠損、黒斑1 口縁部は短くやや強く外反する 肩部に若干段を有す。円盤状底部	内面横位の研磨 外面横位~斜位のミガキ	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-にぶい黄橙色 外-黒~浅黄色	
SD2 3 区東半上層	第38図17 図版13 00238	壺	8.9 14.7 7.1	壺胴部一部欠損、胴部黒斑1 肩部に2条の沈線をめぐらす 円盤状底部、口縁部は短く外反する	内面口縁部はミガキ、胴部ナデ、指 押え 外面横位のミガキ	3mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良	内-淡黄色 外-浅黄~黒色	
SD2 ベルト11上層	第38図18 図版14 00264	壺	7.6 10.6 4.8	完形小壺、胴部~底部黒斑1 口縁部は短く緩やかに外反する 底部から外反し立ちあがり胴部に至る	内面ナデ 外面指押え、縦位のミガキ	4mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-浅黄橙色 外-黒~浅黄橙	
SD2 3 区西半下層	第38図19 図版14 00271	壺	(5.8) 4.6	底部~肩部片 肩部に1条の沈線をめぐらす 円盤状底部、中央は3mmほど上底	内面摩滅のため調整不明 外面ミガキ	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	内-浅黄橙色 外-橙色	
SD2 13区下層	第38図20 図版14 00272	壺	(7.0) 15.8	底部~肩部片 丸底ぎみな平底、胴部が強く張り出す	内外面摩滅・剥落のため調整不明	1.5mm以下の 白色・赤色砂 を微量含む	やや 不良	内-灰白色 外-褐灰~灰白色	

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD2 1 区下層No.9	第38図21 図版14 00022	壺	12.1 13.5 8.0	壺口縁一部欠損、胴部黒斑 1 肩部に段つき、口縁端部は短く外反 円盤状底部、底部断面台形状をなす	内面ナデ、指押え 外面斜位の板ナデ後丹塗りミガキ	4 mm以下の 黒色砂粒を 多く含む	良	内-橙～黄褐色 外-橙～浅黄色	
SD2 7 区下層	第38図22 00260	壺	(3.7)	肩部片 肩部はくの字に屈曲する 外面に沈線で山形文を施す	内外面横位のミガキ	3 mm以下の 白色砂粒を 含む	やや 不良	内外-暗褐色	
SD2 1 区下層No.12	第38図23 00252	壺	(6.3)	肩部片 肩部に 4 条の沈線で山形文を施文する	内面摩滅のため調整不明 外面丹塗り、横位の研磨	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-浅黄色 外-黒～橙色	
SD2 1 区下層No.13	第38図24 00254	壺	(5.1) (12.8)	底部片 円盤状底部、円盤貼付け 底部断面は台形状を呈す	内面摩滅のため調整不明 外面縦位のハケ、丹塗り後ミガキ	3 mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-橙色 外-明赤褐色	
SD2 13区下層	第38図25 図版14 00280	壺	(9.2) (9.8)	底部～胴部片 底部円盤貼付け、中央は 1 mm上底 底部からの立ちあがりはやや外反する	内面横位のヘラミガキ 外面ミガキ	2 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-灰褐色 外-赤橙～橙色	
SD2 13区下層	第38図26 図版14 00263	壺	(17.0) (10.7)	底部～胴部片 円盤状底部	内面摩滅のため調整不明 外面ミガキ	4 mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内-浅黄橙色 外-橙色	
SD2 12区上層	第38図27 図版14 00261	壺	19.8 37.8 10.3	口縁部・胴部一部欠損 口縁部は、短く強く外反。肩部に 5 段の 有軸羽状文と横・縦方向の沈線を施す	内外面摩滅のため調整不明	3 mm以下の 砂粒を含む	良	内外-橙色	
SD2 2 区下層	第39図28 図版14 00247	鉢	(41.4) (19.3)	口縁部～胴部片 口縁端部外面・口縁部下端・胴部に 刻み目を施す	内面指押え 外面ハケ後ナデ	4 mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-にぶい黄橙色 外-にぶい黄褐色	
SD2 2 区下層	第39図29 図版14 00243	甕	(20.0) 16.5 (7.0)	甕片、口縁端部外側に直刻み目を施 す。口縁部は短く緩やかに外反する	内外面摩滅のため調整不明	6 mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内-浅黄橙～褐灰色 外-橙～褐灰色	
SD2 1 区下層No.4 1 区下層No.6	第39図30 図版14 00248	鉢	(33.1) (10.3)	口縁部片 胴部上半でくの字に屈曲し 外反しながら口縁部へいたる	内面、横位のハケ後丹塗り、ミガキ 外面横～斜位のハケ後丹塗り、ミガキ	2 mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良好	内外-赤橙色	No.4, 6

法量の () 内数値は復元値・残存高 (cm)

遺 構 番 号	図版番号 写真番号 原図番号	器種	口 径 器 高 底 径	形 態 特 徴	手 法 特 徴	胎 土	焼成	色 調	備 考
SD2 ベルト5・6区下層	第39図31 図版14 00016	鉢	19.0 13.7 8.1	鉢、胴部最大径はほぼ中位となり、 口縁部は短く外反する 胴部下位～口縁部にかけ黒斑あり	内面摩滅のため調整不明、指押え 外面斜位のハケ後ミガキ	3mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－橙色 外－黒～橙色	
SD2 6区下層	第39図32 00259	鉢	(16.0) 8.2 (6.4)	口縁部～底部片 口縁部は短く外反する。底部円盤状、 口縁部・底部沈線、胴部山形文を施す	内面丹塗り後横位のミガキ 外面丹塗り後横位中心のミガキ	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	内外－灰褐色	丹塗りは風 化が顕著
SD2 6区下層	第39図33 図版14 00017	鉢	(16.6) 11.3 6.8	鉢、口縁端部外側に刻み目突帯付設 円盤状底部、底部断面台形状をなす	内面指押え後横位のナデ 外面ナデ	2mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良	内－黒～黄褐色 外－橙～黄褐色	
SD2 1区下層No.11	第40図34 00251	高坏	(16.8) (4.9)	口縁部～坏部片、ほぼ全体黒斑 口縁端部下位に屈曲部を有し、短く 強く外反する	内外面ヘラミガキ	2mm以下の 白色砂粒を 微量含む	良	内外－橙～黒色	
SD2 1区下層No.7	第40図35 00249	高坏	(5.2)	口縁部片 口縁部は、下位で屈曲し、段から短 く外反する	内外面丹塗り後横位のミガキ	5mm以下の 砂粒を多く 含む	良	内－赤橙～浅黄色 外－赤橙～淡黄色	
SD2 2区下層	第40図36 00246	高坏	(7.0)	接合部～脚部片 接合部付近に断面三角形の突帯付設	内面、脚部板ナデ、坏部ミガキ 外面、横位の板ナデ	2mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良好	内－浅黄橙色 外－灰白色	
SD2 4区東半中層	第40図37 図版14 00240	高坏	(13.1)	坏部～脚部片 脚部上位接合部に刻み目突帯を付設 坏部内面に黒色物（スス）付着	内面、脚部指ナデ、坏部研磨 外面摩滅のため調整不明	2mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	内－明黄褐～橙色 外－淡橙色	
SD2 3区西半下層	第40図38 00274	高坏	(18.7)	接合部～脚部片 接合部外面に突帯を付設、形態は 摩滅・剥落のため不明瞭	内面摩滅・剥落のため調整不明 外面ミガキ	3mm以下の 白色砂粒を 含む	良	内－褐～浅黄橙色 外－褐～橙色	

表3 東郷登り立遺跡土製品・石器観察表

遺 構 番 号	図版番号	写真番号	器 種	径 (cm)	孔径 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	特 徴	胎 土	焼成	色 調	原図番号
SD1-18区上層	第41図1	図版15	紡錘車	5.1	1.1	1.6	31.5	断面半円状、調整不明	2mm以下の白色砂粒を含む	不良	浅黄色	00113
SD1-16区上層	第41図2	図版15	紡錘車	5.3	1.1	1.1	34.8	ミガキ	2mm以下の白色砂粒を多く含む	良	浅黄色	00112
SD1-13区上層	第41図3	図版15	紡錘車	4.8	1.0	0.9	21.3	ナデ	3mm以下の白色砂粒を多く含む	不良	赤色	00111
SD2-8区西半下層	第41図4	図版15	紡錘車	5.1	0.7	1.6	42.7	放射状沈線、ミガキ	3mm以下の白色砂粒を多く含む	良	赤～黒色	00277
SD2-4区西半上層	第41図5	図版15	紡錘車	6.7	0.5	(2.0)	40.0	孔から同心円状に刺突文	3mm以下の白色砂粒を多く含む	良	浅黄色	00276
SD2-13区上層	第41図6	図版15	紡錘車	6.4	1.5	3.8	140.5	ヘラミガキ、黒斑あり	2mm以下の白色砂粒を含む	良	浅黄橙色	00279
SD2-下層	第41図7	図版15	紡錘車	4.0	1.1	2.5	42.2	一部ミガキ残る	2mm以下の白色砂粒を含む	良好	浅黄橙色	00275
SD2-6区上層	第41図8	図版15	紡錘車	4.5	0.9	1.3	25.2	丹塗り一部残存	2mm以下の白色砂粒を多く含む	良	浅黄橙色	00285
SD2-12区上層	第41図9	図版15	紡錘車	5.4	0.9	1.6	50.6	丹塗り一部残存	2mm以下の白色砂粒を含む	良	橙～灰白色	00282
SD2-7区西半下層	第41図10	図版15	紡錘車	5.0	1.2	1.4	37.3	ナデ	1mm以下の白色砂粒を含む	良	灰黄褐色	00004
SD2-7区西半上層	第41図11	図版15	紡錘車	5.8	1.2	1.3	47.5	丹塗り一部残存	3mm以下の白色砂粒を含む	良好	橙色	00013
SD2-4区東半上層	第41図12	図版15	紡錘車	4.2	0.9	1.5	25.7	丹塗り、ミガキ	3mm以下の白色砂粒を多く含む	良	橙色	00284
SD2-12区上層	第41図13	図版15	紡錘車	4.0	0.75	0.8	14.6	ナデ	2mm以下の白色砂粒を多く含む	良	赤褐色	00281
SD2-7区西半上層	第41図14	図版15	土錘	4.15	?	7.2	63.2	1/2欠損、調整不明	1cm以下の砂粒を含む	良好	橙色	00283
SD2-8区上層	第41図15	図版15	土錘	2.8	1.2	4.3	31.2	調整不明	3mm以下の白色砂粒を含む	良	橙色	00010
SD2-8区下層	第41図16	図版15	土錘	3.1	0.7	3.8	39.2	調整不明	3mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	橙色	00278
SD2-4区西半中層			紡錘車	4.1	—	0.7	7.5	1/2欠損、丹塗り	1mm以下の白色砂粒を微量含む	良	橙色	
SD2-10区下層			紡錘車	5.3	—	1.7	31.6	1/2欠損、調整不明	2mm以下の白色砂粒を少量含む	良	橙色	
SD2-6区下層			紡錘車	5.7	—	1.2	18.4	1/2欠損、調整不明	2mm以下の白色砂粒を多く含む	良	にぶい黄褐色	

遺 構 番 号	図版番号	写真番号	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	特 徴	石 材	色 調	原図番号
SD2-4区東半上層	第42図1	図版16	打製石鏃	1.7	1.7	0.3	0.53	三角鏃、赤色物付着	黒耀石	黒色	00286
SD2-8区西半下層	第42図2	図版16	打製石鏃	1.2	1.35	0.45	0.62	抉り浅く先端部欠損	黒耀石	黒色	00290
SD2-6区陸橋側上層	第42図3	図版16	打製石鏃	2.3	1.6	2.5	0.61	抉りの浅い三角鏃	黒耀石	黒色	00287
SD2-13区下層	第42図4	図版16	打製石鏃	1.6	1.4	0.25	0.48	抉り浅く脚部欠損	黒耀石	黒色	00289
SD2-4区東半上層	第42図5	図版16	打製石鏃	2.4	1.5	0.35	0.99	抉り浅く脚部欠損	黒耀石	黒色	00288
SD2-4区東半中層	第42図6	図版16	石核	3.5	2.7	1.25	13.62		黒耀石	黒色	00323
SD1-10区上層	第42図7	図版16	石核	2.15	2.95	1.75	8.32		黒耀石	黒色	00301
SD2-2区東半下層	第42図8	図版16	スクレイパー	3.2	2.2	1.0	6.3	搔器	黒耀石	黒色	00294
SD2-7区東半中層	第42図9	図版16	スクレイパー	2.8	2.0	1.0	5.54	搔器	黒耀石	黒色	00293
SD1-1区下層	第42図10	図版16	磨製石鏃片	4.7	1.2	0.7	4.95	先端部・基部欠損	頁岩質	暗青灰色	00009
SD2-2区西半中層	第42図11	図版16	磨製石鏃片	3.5	1.3	0.7	3.69	先端・基部欠損	頁岩質	明青灰色	00015
SD2-3区西半上層	第42図12	図版16	磨製石鏃	5.5	2.1	0.7	6.8	先端部欠損	頁岩質	灰白色	00011
SD2-3区東半上層	第42図13	図版16	磨製石剣片	4.0	2.2	0.8	7.05	先端・基部欠損	頁岩質	明オリーブ灰	00005
SD1-16区下層	第42図14	図版16	石剣片	2.7	1.6	0.3	1.59	刃部に使用痕あり	頁岩質	灰白色	00291
SD2-2区東半中層	第42図15	図版16	磨製石斧片	7.3	5.7	2.5	185.3	上半部1/3を欠損	玄武岩	灰白色	00008
SD2-4区西半中層	第42図16	図版16	扁平片刃石斧片	7.6	4.6	1.4	86.5	刃部欠損	頁岩質	灰白色	00014
SD2-2区東半中層	第42図17	図版16	扁平片刃石斧片	7.0	3.1	1.1	47.3	未製品?	粘板岩	灰白色	00007
SD2-6区上層	第42図18	図版16	柱状片刃石斧	5.6	1.5	0.75	11.5	一部欠損	頁岩質	暗青灰色	00337
SD2-7区西半中層	第42図19	図版16	石包丁	11.5	5.5	0.8	68.2	穿孔中央に1穴両面穿孔	頁岩質	灰色	00012
SD2-6区下層	第42図20	図版16	石包丁片	7.8	5.5	0.7	34.0	1/2を欠損	頁岩質	灰色	00006
SD2-12区上層	第42図21	図版16	石錐	11.2	5.1	2.4	202.0		川原石	明緑色	00003
SD2-No.1下層			扁平片刃石斧片	3.8	4.9	2.0	80.7	基部欠損	頁岩質	灰白色	00001
SD2-3区西半上層			砥石片	10.4	10.3	4.9	540.0	1/2を欠損	砂岩	灰白色	00002

遺 構 番 号	図版番号	写真番号	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	特 徴	石 材	色 調	原図番号
SD2-13区中層			使用痕剥片	4.3	2.4	0.4	5.77		黒耀石	黒色	00295
SD2-7区西半下層			2次加工剥片	2.1	2.4	0.7	2.79		黒耀石	黒色	00296
SD1下層			石核	2.0	2.1	2.2	6.70		黒耀石	黒色	00297
SD1-18区下層			石核	2.1	2.0	1.7	8.27		黒耀石	黒色	00298
SD1-14区埋土			石核	2.15	2.9	2.9	13.83		黒耀石	黒色	00299
SD1-16区上層			石核	2.7	3.95	1.55	10.48		黒耀石	黒色	00300
SD2-10区下層			石核	4.2	3.9		46.33		黒耀石	黒色	00302
SD2-8区上層			石核	2.8	3.6	2.3	21.36		黒耀石	黒色	00303
SD2-7区西半中層			石核	2.3	3.2	2.8	21.28		黒耀石	黒色	00304
SD2-3区東半土層			石核	3.6	2.3	1.3	10.65		黒耀石	黒色	00305
SD2-6区上層			石核	2.8	2.9	1.8	13.22		黒耀石	黒色	00306
SD2-3区西半上層			石核	2.8	4.7	1.5	22.62		黒耀石	黒色	00307
SD2-12区上層			石核	2.6	2.5	0.9	5.87		黒耀石	黒色	00308
SD2-6区上層			石核	2.8	2.5	2.1	11.41		黒耀石	黒色	00309
SD2-4区東半中層			石核	2.3	2.9	1.3	11.18		黒耀石	黒色	00310
SD2-10区下層			石核	2.9	3.5	2.0	19.38		黒耀石	黒色	00311
SD2-2区下層			石核	2.0	2.5	1.4	6.85		黒耀石	黒色	00312
SD2-3区東半上層			石核	2.6	3.1	1.6	13.67		黒耀石	黒色	00313
SD2-10区下層			石核	3.3	2.2	1.9	11.59		黒耀石	黒色	00314
SD2-4区東半中層			石核	2.3	3.1	1.2	12.32		黒耀石	黒色	00315
SD2-11区上層			石核	2.45	3.9	1.6	11.82		黒耀石	黒色	00316
SD2-9区下層			石核	2.9	3.7	2.2	26.45		黒耀石	黒色	00317
SD2-2区下層			石核	1.4	4.5	2.0	9.31		黒耀石	黒色	00318
SD2-7区西半中層			石核	2.4	3.0	1.7	15.11		黒耀石	黒色	00319

遺 構 番 号	図版番号	写真番号	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	特 徴	石 材	色 調	原図番号
SD2-12区下層			石核	3.1	3.7	2.1	24.96		黒耀石	黒色	00320
SD2-8区上層			石核	3.3	2.8	1.5	14.73		黒耀石	黒色	00321
SD2-8区上層			石核	4.3	3.0	1.5	18.18		黒耀石	黒色	00322
SD2-11区上層			石核	2.3	3.6	1.1	6.95		黒耀石	黒色	00324
SD2-13区下層			石核	3.0	3.6	1.45	14.48		黒耀石	黒色	00325
SD2-10区下層			石核	2.3	3.4	1.6	9.30		黒耀石	黒色	00326
SD2-4区西半上層			石核	3.4	5.2	1.9	28.45		黒耀石	黒色	00327
SD2-10区下層			石核	1.7	2.4	3.2	12.68		黒耀石	黒色	00328
SD2-4区西半中層			石核	2.9	3.7	1.7	20.99		黒耀石	黒色	00329
SD2-3区西半中層			石核	2.5	2.9	0.9	6.45		黒耀石	黒色	00330
SD2-4区東半上層			石核	2.3	3.3	1.1	8.41		黒耀石	黒色	00331
SD2-4区東半上層			石核	3.2	3.6	2.1	24.45		黒耀石	黒色	00332
SD2-12区下層北側			石核	2.8	2.9	1.4	11.30		黒耀石	黒色	00333
SD2-13区下層			石核	2.2	4.8	1.5	10.01	尖頭状石器・石錐か?	黒耀石	黒色	00334
SD2-7区西半中層			剥片	3.5	2.8	1.1	6.31		黒耀石	黒色	00336
SD1-10区下層			磨石	9.3	8.1	1.4	248.0	平坦面に擦痕有り	川原石	明オリーブ灰	
SD1-10区下層			磨石片	8.9	4.6	4.3	279.0	両平坦面に擦痕有り	川原石	明紫灰色	
SD1-11区上層			石斧再加工品	6.0	5.3	1.9	91.5	蛤刃石斧再加工品	玄武岩	灰白色	
SD1-11区上層			磨石	8.7	6.0	4.0	356.0	平坦面に擦痕有り	川原石	明緑色	
SD1-12区上層			磨石	9.0	7.7	3.4	386.0	両平坦面に擦痕有り	川原石	明緑色	
SD1-13区上層			柱状片刃石斧	11.0	4.5	4.1	391.0	刃部先端欠損著しい	頁岩質	明緑灰色	
SD1-13区上層			砥石片	5.7	5.5	2.7	171.1	1側片を残し欠損	砂岩	灰色	
SD1-14区上層			扁平片刃石斧片	9.4	4.5	2.6	228.0	刃部を一部欠損	砂岩?	オリーブ灰	
SD1-15区上層			石鎌未製品				304.0	約1/3から接合	頁岩質	暗青灰色	

遺 構 番 号	図版番号	写真番号	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	特 徴	石 材	色 調	原図番号
SD1-16区上層			柱状片刃石斧片	3.4	2.3	3.7	44.0	刃部片	頁岩質	暗青灰色	
SD1-16区下層			砥石片	9.1	5.9	1.7	131.3	中ほどで欠損	砂岩	浅黄色	
SD1-16区下層			磨製石鏃片	4.3	1.0	0.6	2.47	先端部欠損	頁岩質	暗青灰色	
SD1-18区上層			柱状片刃石斧	9.7	4.3	4.5	330.0	刃部先端・基部を欠損	頁岩質	明緑灰色	
SD1-18区上層			扁平片刃石斧片	5.7	2.2	1.3	32.0	刃部欠損	頁岩質	淡黄色	
SD1-18区上層			砥石片	8.9	5.3	3.5	264.0	中位より欠損	川原石	明緑色	
SD2-No.2 下層			蛤刃石斧	10.2	7.1	4.12	495.0	基部欠損	砂岩	灰オリーブ色	
SD2-下層No.2			蛤刃石斧	14.8	6.0	3.33	391.0	刃部・基部欠損	玄武岩	灰色	
SD2-2区下層			打製石鏃	1.8	1.9	0.3	0.9	平基の三角鏃	黒耀石	黒色	
SD2-3区西半上層			加工石材	9.3	2.0	0.85	20.4	石剣・石鏃未製品、研磨痕有り	頁岩質	暗青灰色	
SD2-3区西半上層			柱状片刃石斧	9.6	3.4	2.5	142.5	基部側边上側にゆるい抉り	変成岩?	灰白色	
SD2-3区西半上層			打製石槍片?	2.42	2.2	1.3	5.8	基部付近にて欠損、未製品?	黒耀石	黒色	
SD2-3区西半上層			柱状片刃石斧未製品	8.55	1.7	1.69	48.4	刃部整形途中で廃棄	変成岩?	灰白色	
SD2-3区西半上層			柱状片刃石斧未製品片?	6.56	2.7	1.2	44.4	両側面を研磨後廃棄、欠損品	変成岩?	灰白色	
SD2-3区西半中層			スクレイパー	7.5	3.8	0.9	26.1	背面ブランディング、刃部にがじり有り	玄武岩?	灰色	
SD2-3区西半中層			蛤刃石斧	11.1	8.1	4.2	630.0	基部欠損後再加工	花崗岩	暗緑灰色	
SD2-3区東半上層			打製石鏃	1.8	1.0	0.3	0.5	やや凸基の細身の鏃	黒耀石	黒色	
SD2-4区東半上層			磨製石鏃片	2.6	0.7	0.3	0.9	先端・刃部中位～基部欠損	頁岩質	灰色	
SD2-4区東半中層			石斧片?	4.6	4.85	1.4	40.0	基部付近にて欠損	凝灰岩?	赤灰色	
SD2-4区東半中層			石核	2.5	2.4	1.9	11.33		黒耀石	黒色	
SD2-5区東半中層			円盤状石器	6.1	5.5	0.7	29.7	紡錘車未製品	頁岩質	オリーブ灰	
SD2-6区中層			石錘	9.8	11.2	7.0	855.0	中央に溝を切る。被熱痕跡有り	砂岩	浅黄色	
SD2-6区上層			石包丁片	2.6	3.5	0.4	3.7	刃部片	頁岩質	オリーブ灰	
SD2-7区東半下層			蛤刃石斧片	7.5	6.8	1.2	76.1	刃部剥離片	頁岩質	緑灰色	

遺 構 番 号	図版番号	写真番号	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	特 徴	石 材	色 調	原図番号
SD2-7区東半下層			石包丁片	4.3	5.2	0.4	13.9	約1/3残存	頁岩質	オリーブ灰	
SD2-7区東半上層			蛤刃石斧片	5.1	6.8	1.2	69.0	刃部先端を残し欠損	玄武岩	オリーブ灰	
SD2-7区東半上層			スクレイパー	5.0	4.9	0.67	25.1	蛤刃石斧片を再加工したもの	玄武岩	オリーブ灰	
SD2-7区東半上層			打製石鏃	1.4	1.3	0.3	0.5	先端部欠損	安山岩	灰色	
SD2-7区東半上層			磨製石剣未製品	11.95	3.0	1.75	80.3	未製品	頁岩質	緑灰色	
SD2-8区上層			ハンマーストーン	9.8	2.25		108.2		川原石	オリーブ灰	
SD2-8区上層			蛤刃石斧	7.2	6.7	3.2	242.0	中程～基部にかけて欠損	玄武岩	オリーブ灰	
SD2-8区上層			蛤刃石斧	11.3	8.45	3.4	520.0	ほぼ完形	玄武岩	灰色	
SD2-8区中央			石錐	7.0	3.17	1.6	50.1	長軸両端中央にくぼみ有り	砂岩	灰白色	
SD2-ベルト4上層			尖頭状石器	3.6	2.35	0.8	6.9	刃部両側に微細剥離有り	黒耀石	黒色	
SD2-ベルト5下層			石包丁片	5.9	4.9	0.4	19.1	約1/2欠損	頁岩質	オリーブ灰	
SD2-ベルト6上層			石斧片?	11.9	6.7	1.9	216.0	長軸に刃部を有する扁平円礫片	砂岩	灰色	
SD2-ベルト7下層			磨製石鏃片	3.2	1.1	1.0	1.91	先端・基部欠損	粘板岩	暗青灰色	
SD2-ベルト11下層			蛤刃石斧片	7.5	7.5	3.1	258.0	基部～中位にかけて欠損	玄武岩?	灰色	
SD2-ベルト11下層			柱状片刃石斧片	4.5	3.8	3.4	78.7	刃部のみ残存			
SD2-ベルト11下層			扁平片刃石斧片?	9.08	6.6	1.3	163.2	基部もしくは刃部残存	頁岩質	暗青灰色	
SD2-ベルト11下層			磨石	10.8	8.3	3.43	433.0	背・腹部平坦面に研磨痕有り	玄武岩?	灰色	
SD2-ベルト11下層			打製石鏃	1.5	1.4	0.3	0.6	三角鏃、基部挟りなし、先端欠損	黒耀石	黒色	
SD2-ベルト12下層			蛤刃石斧片	12.7	8.0	3.9	595.0	基部欠損、刃部使用による欠損有	頁岩質	緑灰色	
SD2-埋土中			石皿					中央に窪み有り	砂岩	浅黄色	

図版

図版 1



東郷登り立遺跡周辺の航空写真（昭和53年撮影）



1 調査前の現況写真（北から）



4 SD1の陸橋部（北から）



2 トレンチ内のSD1・2調査風景（北から）



5 SD1のベルトB南壁土層



3 SD1の陸橋部から西側調査区（東から）



6 SD1東半部の第1仕切壁（南から）



1 SD1の第1・2仕切と校舎（北から）



4 SD1・2の合流地点から東を望む（西から）



2 SD1の1区遺物出土状況（北から）



5 SD1・2の合流地点（西から）



3 SD1・2合流地点の土層（東から）



6 SD2の全景（東から）



1 SD2のベルト2土層堆積



4 SD2のベルト10土層堆積（東から）



2 SD2のベルト6東壁の土層堆積（東から）



5 SD2の1区遺物出土状況（西から）



3 SD2のベルト5土層堆積（西から）



6 SD2の1区下層遺物出土状況（北から）



1 SD2の2区下層紡錘車出土状況



4 SD2の4区東半中層高坏出土状況



2 SD2の3区上層遺物出土状況



5 SD2の4区西半下層遺物出土状況



3 SD2の4区西半上層紡錘車出土状況



6 SD2の5区西半中層遺物出土状況



1 SD2の6区中層遺物出土状況



4 SD2の8区西半上層遺物出土状況



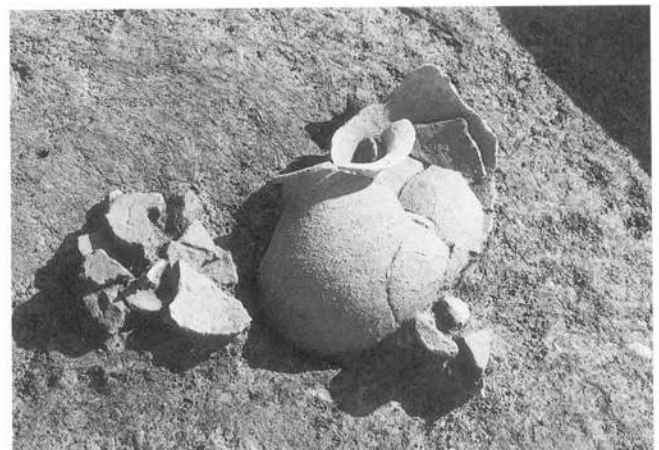
2 SD2の7区西半中層小壺出土状況（東から）



5 SD2の8区西半下層紡錘車出土状況



3 SD2の7区西半中層石庖丁出土状況



6 SD2の12区上層遺物出土状況（SK77）



1 SD2の13区遺物出土状況（東から）



4 SK21完掘状況



2 SD2ベルト11上層小壺出土状況（南から）



5 SC25古墳時代住居跡全景（北から）



3 SD2ベルト11遺物出土状況（東から）



6 SK26遺物出土状況



1 SK30遺物出土状況



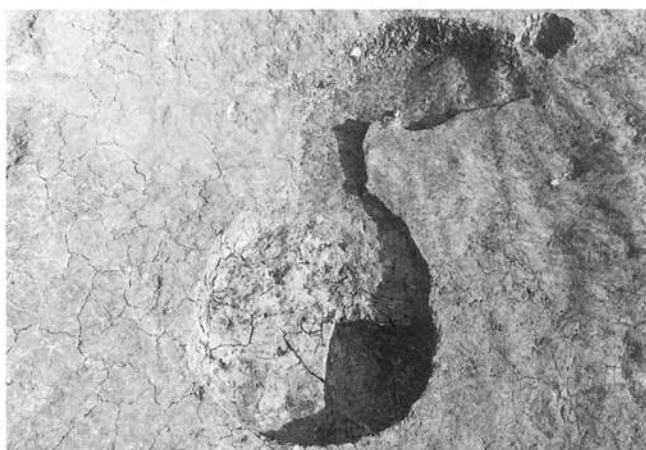
4 SP56遺物出土状況（東から）



2 SK61遺物出土状況（東から）



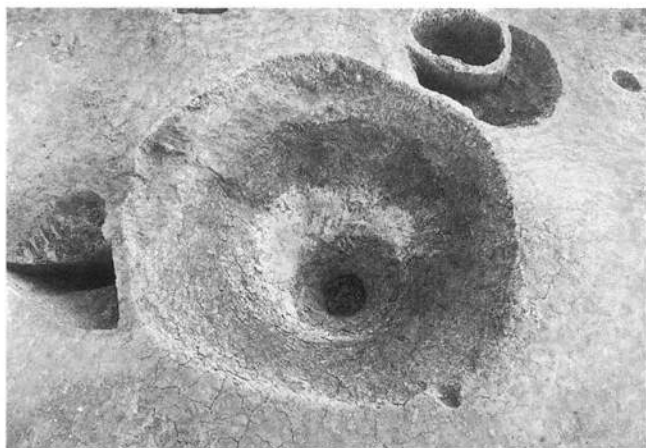
5 SK67完掘状況（南から）



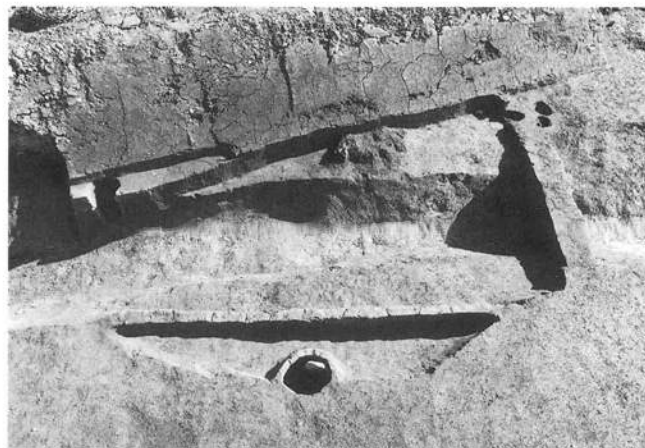
3 SK61完掘状況（西から）



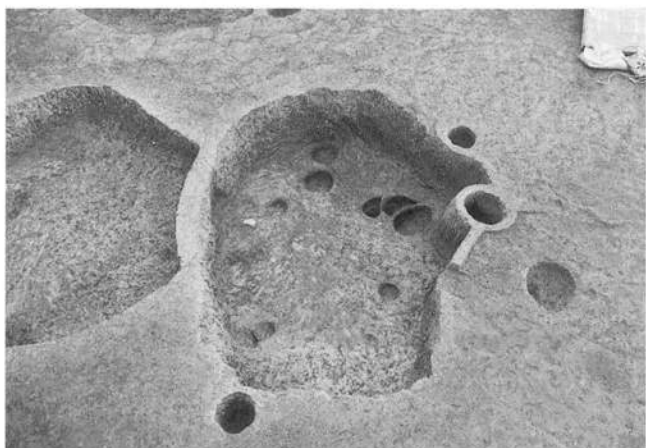
6 SD79全景（南から）



1 SE80完掘状況（西から）



4 SK84完掘状況（西から）



2 SK82完掘状況（西から）



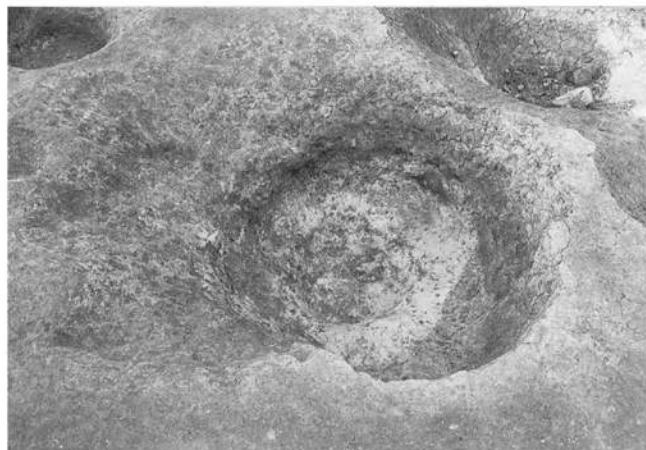
5 SE88土層堆積（南から）



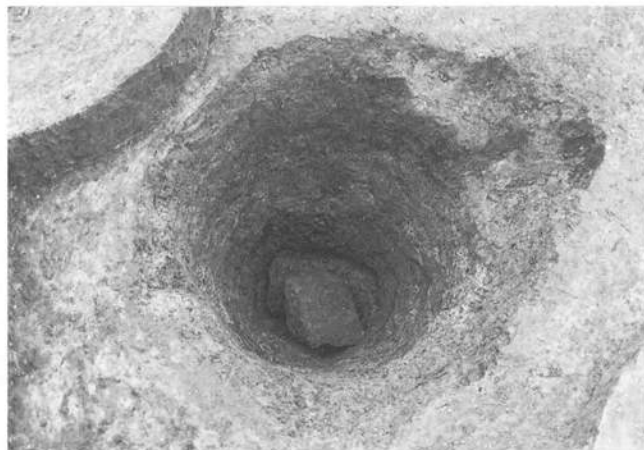
3 SK83完掘状況（西から）



6 SK93遺物出土状況（東から）



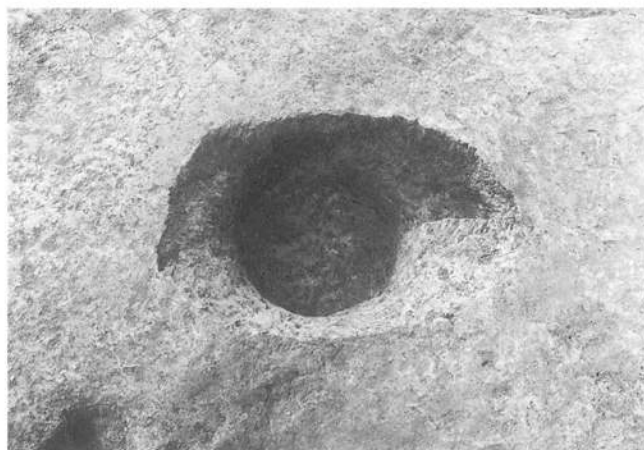
1 SK93完掘状況（東から）



4 SE99完掘状況（東から）



2 SK95完掘状況（西から）



5 SK100完掘状況（東から）



3 SK96完掘状況（北から）



6 SK102遺物出土状況（東から）



1 SK105遺物出土状況（北から）



4 トレンチ17のSD1・2延長部



2 トレンチ 8・12のSD1・2延長部（南から）



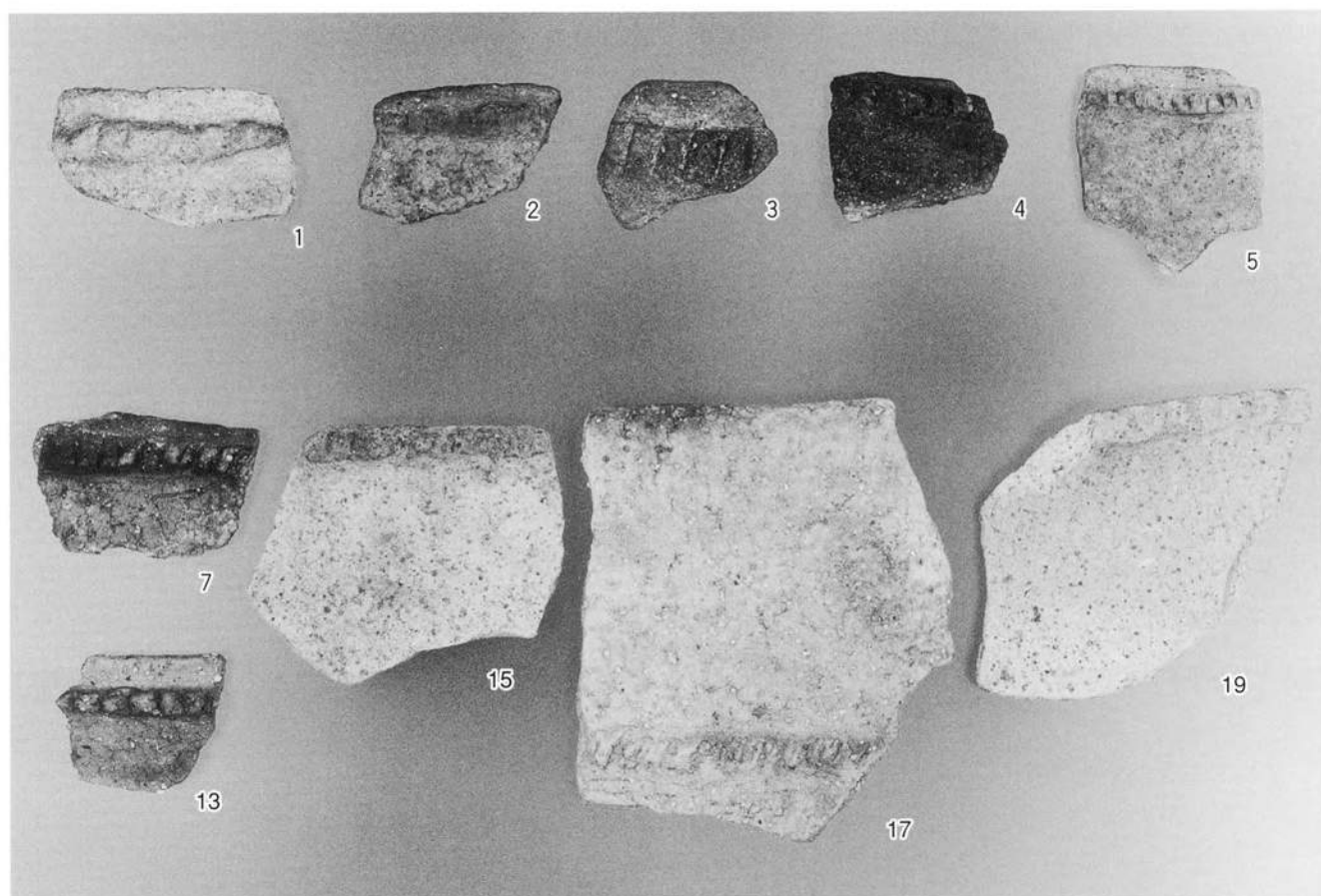
5 トレンチ17のSD1・2延長部土層



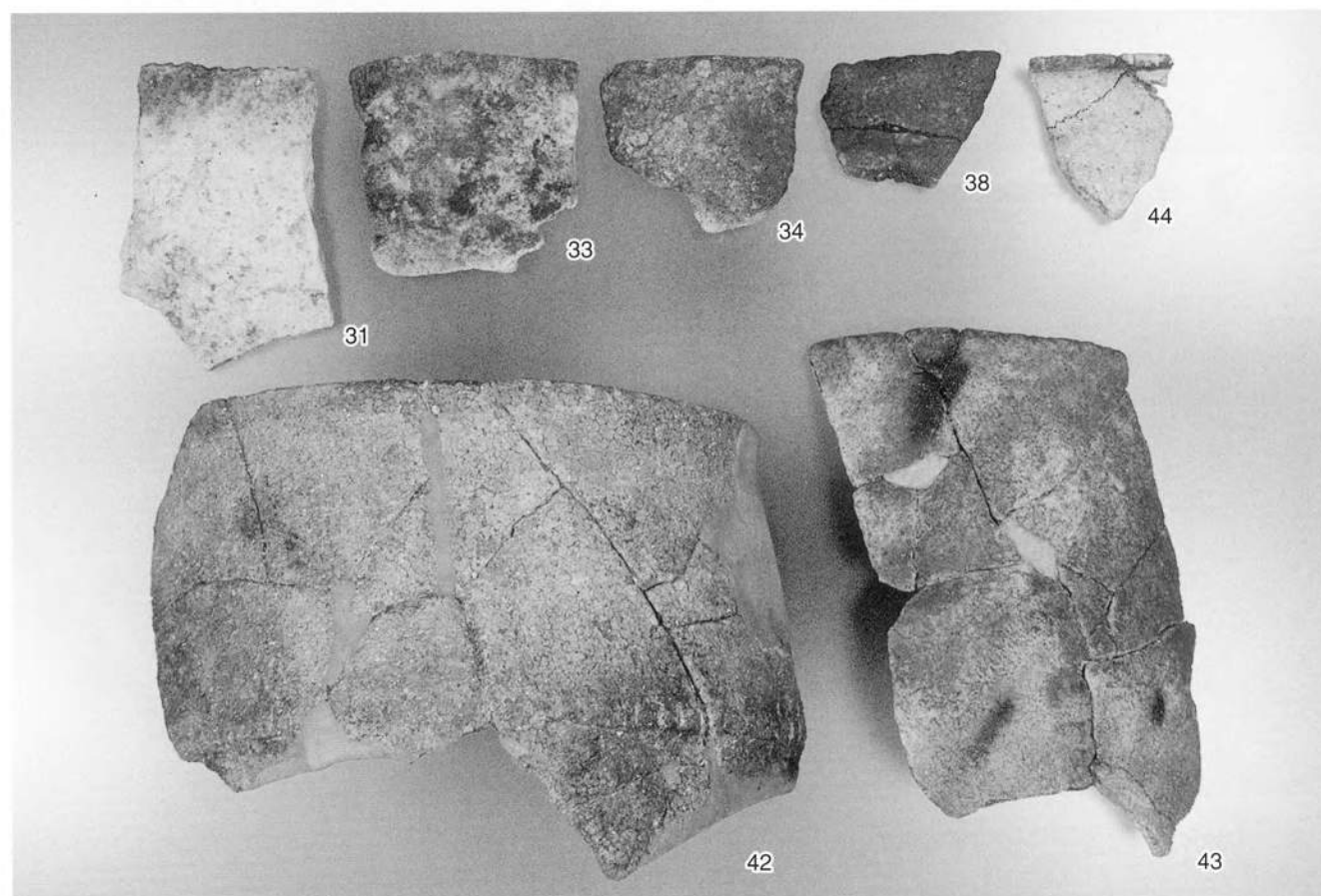
3 トレンチ 8・12のSD1・2延長部



6 トレンチ17のSD1・2延長部土層



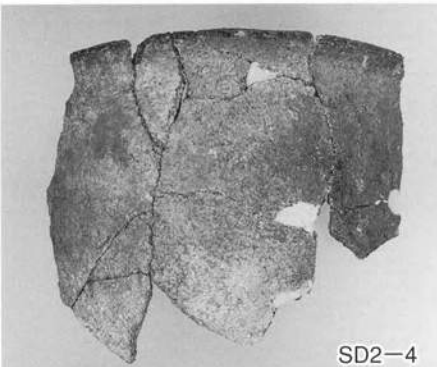
SD1出土土器 (28図)



SD1出土土器 (29図)



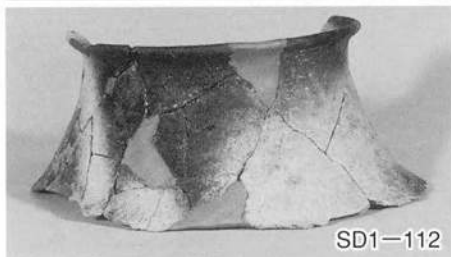
SD1-55



SD2-4



SD2-11



SD1-112



SD2-5



SD2-13



SD1-122



SD2-6



SD2-13放大



SD2-1



SD2-7



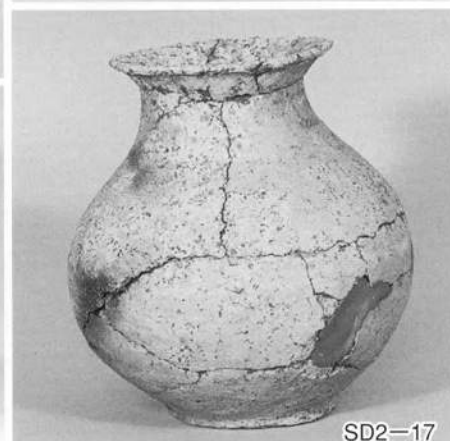
SD2-16



SD2-2



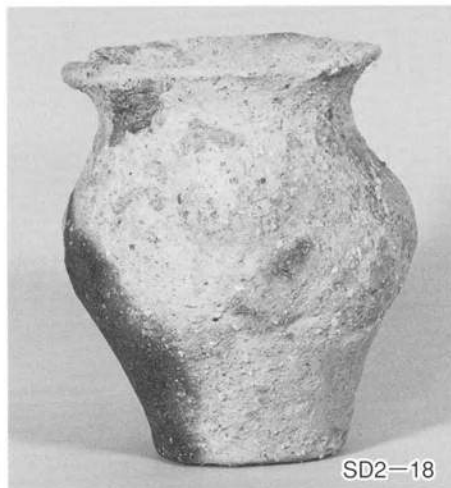
SD2-9



SD2-17



SD2-3



SD2-18



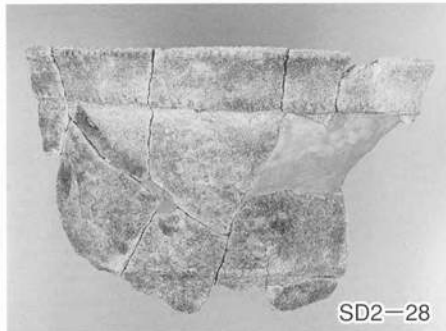
SD2-27



SD2-33



SD2-19



SD2-28



SD2-37



SD2-20



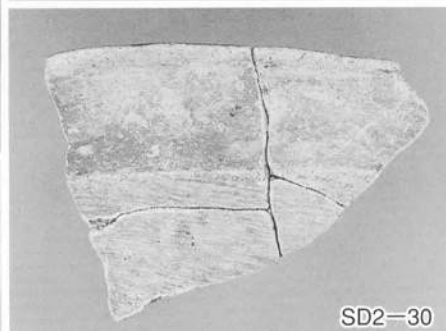
SD2-29



SP56-1



SD2-21



SD2-30



SK102-1



SD2-25



SD2-31



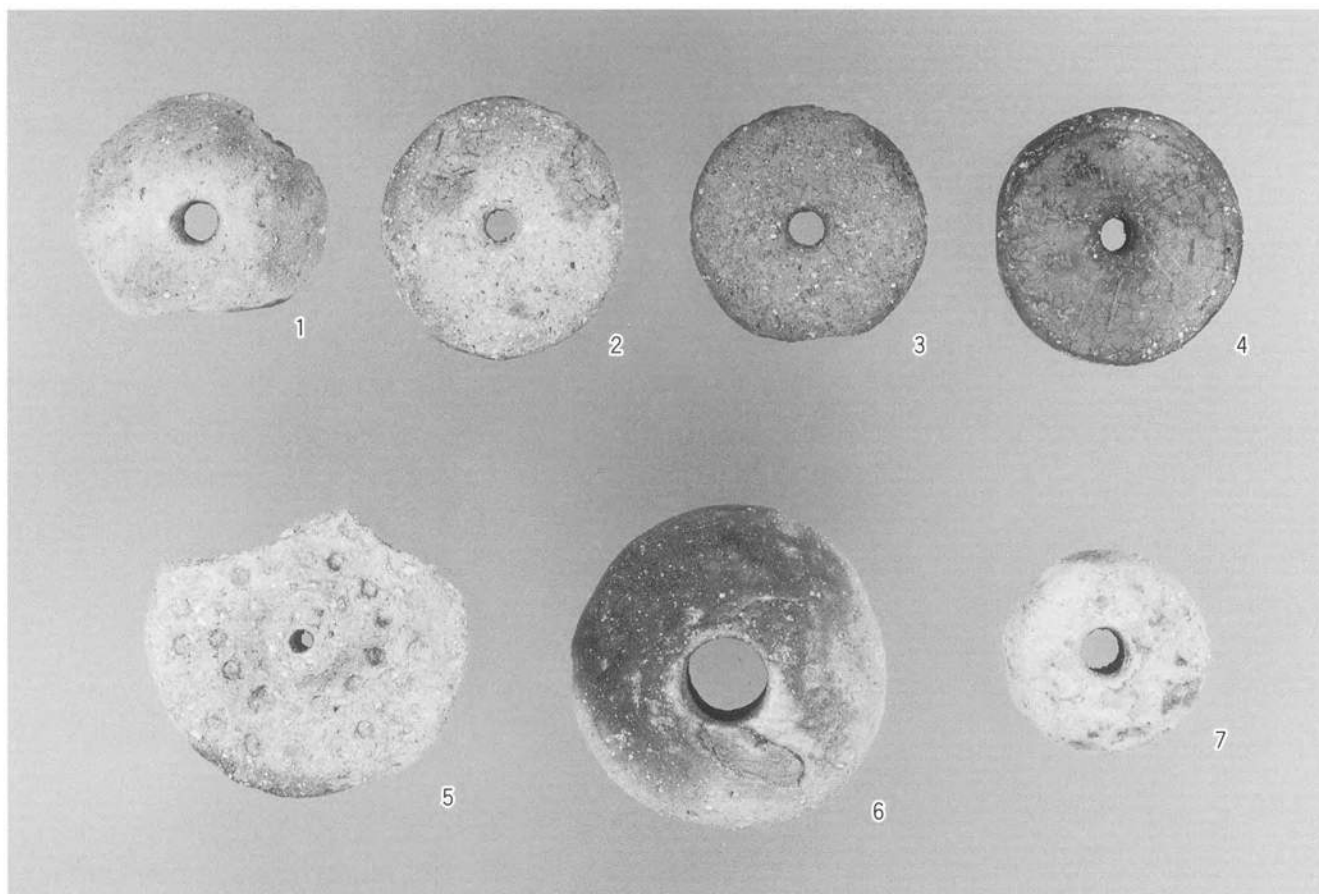
SK102-2



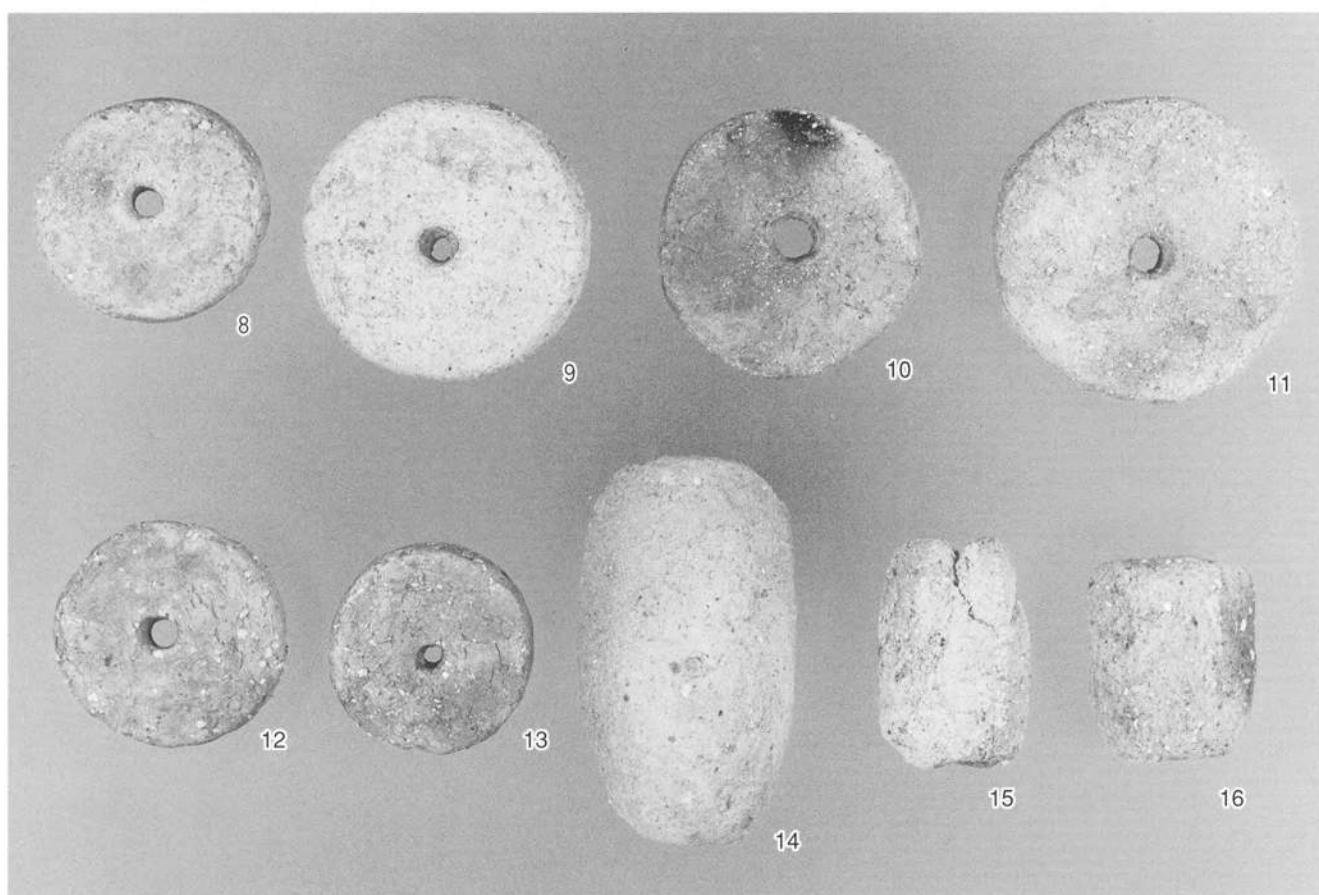
SD2-26



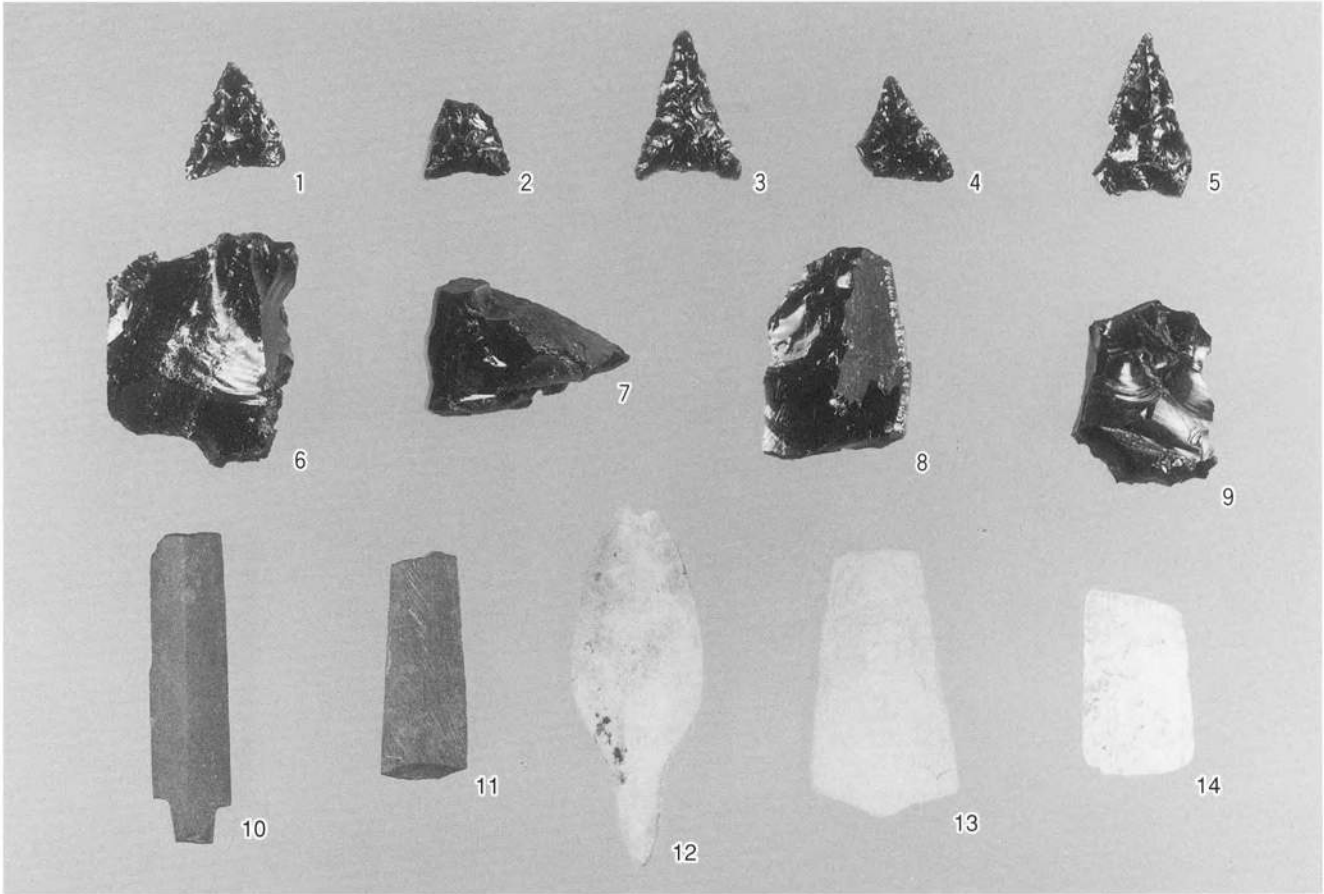
SK105-1



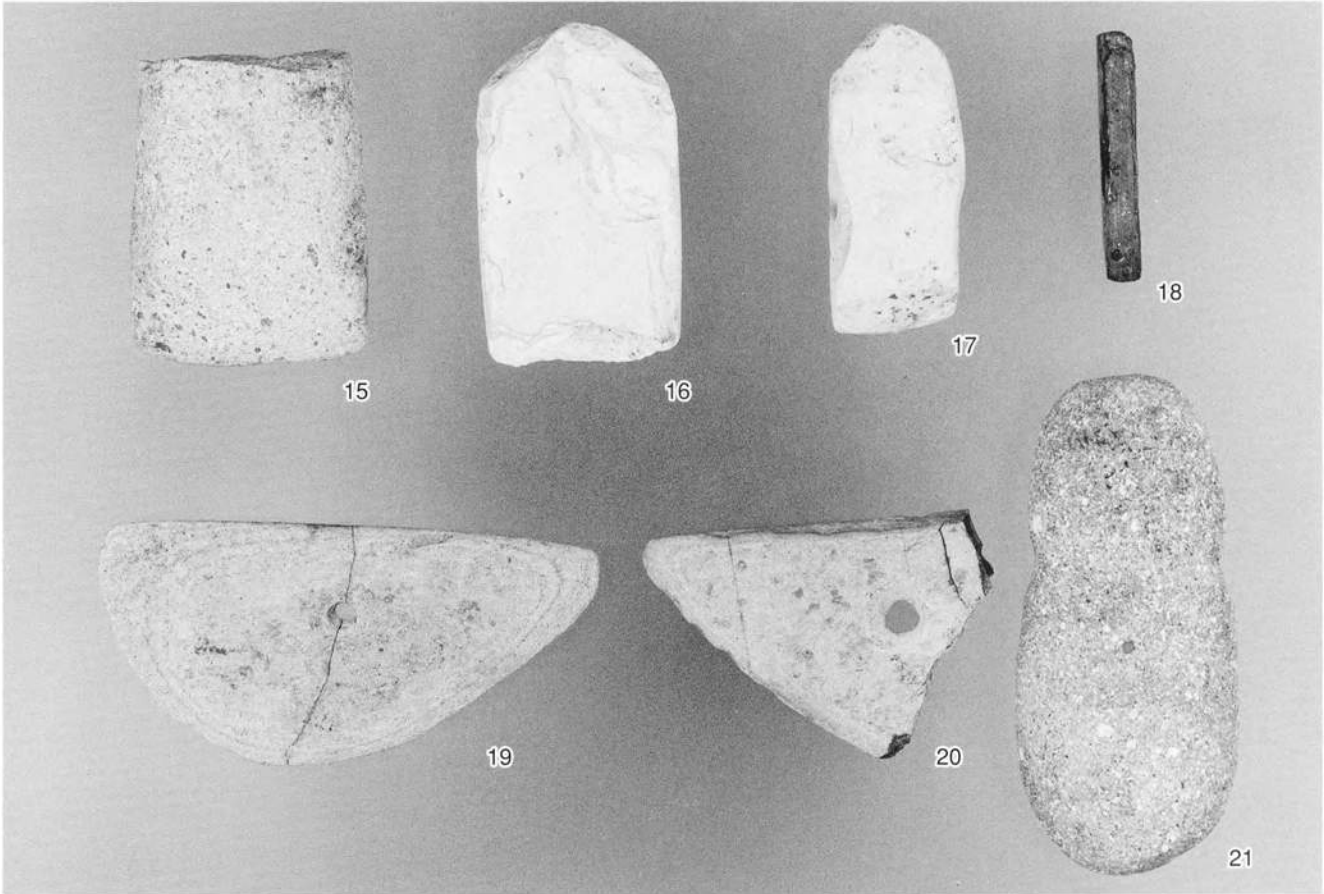
SD1・2出土土製品 (41図)



SD2出土土製品 (41図)



SD1・2出土石器 (42図)



SD2出土石器 (42図)

報 告 書 抄 録

フリガナ	トウゴウノボリタテ							
書名	東郷登り立							
副書名	福岡県宗像市東郷所在遺跡の発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	宗像市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第51集							
編著者名	原 俊一・熊代昌之							
編集機関	宗像市教育委員会							
所在地	福岡県宗像市大字東郷995番地							
発行年月日	西暦2001年3月23日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
トウゴウノボリタテ 東郷登り立遺跡	福岡県 宗像市 大字東郷 995番地	40220	330470	33° 47′ 57″	130° 31′ 45″	1999.8.16 ～ 2000.3.24	5,000	福岡県立 宗像高校 改築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な建物		特記事項		
東郷登り立遺跡	集落	弥生時代 前期～ 平安時代	溝 土坑 井戸	弥生土器・石器 須恵器・土師器		集落を囲む溝 弥生時代前期遺物		

東郷登り立

宗像市文化財調査報告書第51集

発行日 平成13（2001）年3月23日

発 行 宗像市教育委員会

〒811-3492 福岡県宗像市大字東郷995番地

印 刷 瞬報社写真印刷株式会社

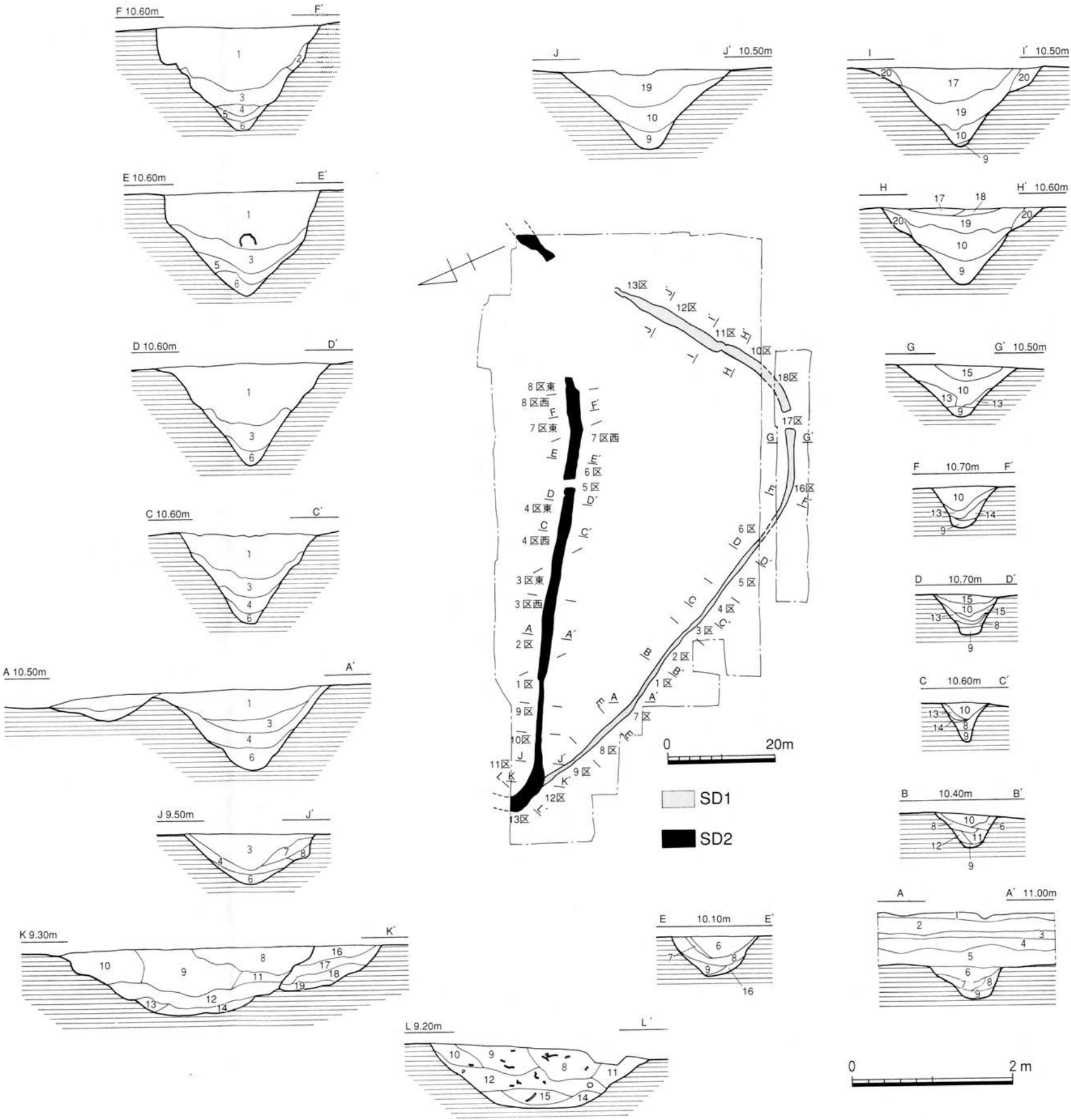
福岡市中央区天神5丁目4番16号城戸ビル3F

東郷登り立SD1基本土層

番号	土色	所見	備考
1	明灰褐色	砂質、表土	遺構上堆積土
2	灰紫色	瓦礫層	遺構上堆積土
3	黄褐色	礫混じり砂層	遺構上堆積土
4	暗橙褐色	礫混じり粘質層	遺構上堆積土
5	暗茶褐色	砂質土層	遺構上堆積土
6	茶褐色	土器片・礫を少量含み、1～3 cm大の黄褐色粒子を含む粘質土	SD1覆土
7	黒褐色	1～3 cm大の黄褐色粒子を含む粘質土	SD1覆土
8	赤褐色	1～2 cm大の黄褐色粒子を含む粘質土	SD1覆土
9	明黒褐色	礫・炭化物粒を若干含み、1～3 cm大の黄褐色粒子を含む粘質土	SD1覆土
10	明黒褐色	土器片・礫を少量含み、1 cm大の黄褐色粒子とマンガン粒を少量含む	SD1覆土
11	暗茶褐色	5 mm大の黄褐色粒子を多く含む粘質土	SD1覆土
12	明茶褐色	しまり弱い、5 mm大の赤褐色粒子を含む砂質土	SD1覆土
13	暗黒褐色	礫・土器・炭化物粒を少量含み、1～3 cm大の黄褐色ブロックを含む粘質土	SD1覆土
14	黒褐色	13層ほぼ同一で黄褐色ブロックを多く含む粘質土	SD1覆土
15	明黒褐色	しまり強い、黄褐色ブロックを多く含む粘質土	SD1覆土
16	明黄茶褐色	しまり弱い、礫を多く含み、1～2 cm大の黄褐色ブロックを含む粘質土	SD1覆土
17	黄褐色	しまり弱い、地山流入土	近現代溝状遺構
18	暗褐色	しまり強い、地山流入土	近現代溝状遺構
19	暗褐色	しまり強く、硬い、土器片・礫を少量含む	SD1覆土
20	暗黄褐色	しまり弱い、黄褐色・暗褐色土が少量混じる	SD1覆土

SD2土層

番号	土色	所見	備考
1	褐色	硬め、炭化物・礫片・土器片を含む粘質土	SD2覆土
2	灰褐色	硬め、砂質	SD2覆土
3	茶褐色	やや硬め、炭化物・礫片・土器片を含む粘質土	SD2覆土
4	暗褐色	やわらかい、しまりが無い、炭化物を含む粘質土	SD2覆土
5	黄茶色	やわらかい、しまりが無い、炭化物を含む粘質土	SD2覆土
6	暗黄茶色	ややかたい粘質土	SD2覆土
7	黄褐色	硬い、しまり強め	SD2覆土
8	茶灰色	硬く、しまり強め、黄褐色土粒・土器片を少量含む	SD2覆土
9	暗茶灰色	硬く、しまり弱い、土器片・礫・炭化物を多く含む	SD2覆土
10	茶灰色	硬く、しまり強め、黄褐色土粒・土器片を少量含む	SD2覆土
11	褐色	硬め、しまり強め	SD2覆土
12	茶褐色	硬く、しまり強い、土器・礫・炭化物を少量含む	SD2覆土
13	褐色	硬め、しまり強め、白色砂を少量含む	SD2覆土
14	暗茶色	硬め、しまり弱め、礫を含む、真砂っぽい	SD2覆土
15	暗褐色	均質で土器を含む粘質土	SD2覆土
16	暗茶褐色	硬め、しまり強め、炭化物粒・黄褐色土粒を少量含む	SD1覆土
17	黄褐色	硬く、しまり弱め、礫・炭化物粒を少量含む	SD1覆土
18	暗黄茶褐色	硬く、しまり強め、礫を少量含む、真砂っぽい	SD1覆土
19	暗茶褐色	炭化物を少量含む粘質土	SD1覆土



付図2 東郷登り立遺跡SD1・2土層断面図 (1/60・1/900)